
JD Edwards EnterpriseOne 品質 管理 9.0 製品ガイド

2008 年 12月

商標と登録商標について

OracleはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

ライセンス制約の保証と結果的に生じる損害の免責

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

米国特許第5,781,908、5,828,376、5,950,010、5,960,204、5,987,497、5,995,972、5,987,497、6,223,345号により保護されています。その他の特許は申請中です。

保証免責

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

制限付権利

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次のNoticeが適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

危険な用途への使用について

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

第三者のコンテンツ、製品、サービスに対する免責

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

Contains GNU libgmp library; Copyright © 1991 Free Software Foundation, Inc. This library is free software which can be modified and redistributed under the terms of the GNU Library General Public License.

Includes Adobe® PDF Library, Copyright 1993–2001 Adobe Systems, Inc. and DL Interface, Copyright 1999–2008 Datalogics Inc. All rights reserved. Adobe® is a trademark of Adobe Systems Incorporated.

Portions of this program contain information proprietary to Microsoft Corporation. Copyright 1985–1999 Microsoft Corporation.

Portions of this program contain information proprietary to Tenberry Software, Inc. Copyright 1992–1995 Tenberry Software, Inc.

Portions of this program contain information proprietary to Premia Corporation. Copyright 1993 Premia Corporation.

This product includes code licensed from RSA Data Security. All rights reserved.

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>).

This product includes cryptographic software written by Eric Young (ey@cryptsoft.com).

This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com). All rights reserved.

This product includes the Sentry Spelling-Checker Engine, Copyright 1993 Wintertree Software Inc. All rights reserved.

Open Source Disclosure

Oracle takes no responsibility for its use or distribution of any open source or shareware software or documentation and disclaims any and all liability or damages resulting from use of said software or documentation. The following open source software may be used in Oracle's JD Edwards EnterpriseOne products and the following disclaimers are provided:

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>). Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE APACHE SOFTWARE FOUNDATION OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

目次

はじめに

この PeopleBook について	xi
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件.....	xi
アプリケーションの基礎.....	xi
最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード.....	xii
最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ).....	xii
ドキュメンテーションのダウンロード.....	xii
追加情報.....	xii
表記規則.....	xiv
表記規則.....	xiv
注意事項の表示.....	xv
国、地域、業種の表記.....	xv
通貨コード.....	xvi
ご意見、ご要望をお寄せください.....	xvi
製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xvi

まえがき

JD Edwards EnterpriseOne品質管理 – まえがき.....	xix
JD Edwards EnterpriseOne製品.....	xix
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎.....	xix
この製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xix

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne品質管理 – はじめに.....	1
JD Edwards EnterpriseOne品質管理の概要.....	1
JD Edwards EnterpriseOne品質管理の統合.....	2
JD Edwards EnterpriseOne品質管理の導入.....	3
グローバル導入の手順.....	3
JD Edwards EnterpriseOne品質管理の導入手順.....	4

第 2 章

品質管理システムについて.....	5
JD Edwards EnterpriseOne品質管理の特徴.....	5

試験.....	5
仕様.....	5
優先プロファイル.....	5
試験結果の入力.....	6
情報の確認.....	6
汎用テキストの入力.....	6
JD Edwards EnterpriseOne品質管理のテーブル.....	7

第 3 章

EnterpriseOne品質管理の設定.....	9
EnterpriseOne品質管理の設定について.....	9
事前設定.....	9
システム設定.....	9
EnterpriseOne品質管理の有効化.....	10
EnterpriseOne品質管理の有効化に使用するフォーム.....	10
システム・レベルでのEnterpriseOne品質管理の有効化.....	10
品質管理試験の対象とする各事業所の指定.....	11
試験の定義.....	11
試験について.....	12
試験の定義に使用するフォーム.....	14
試験の改訂(P3701)の処理オプションの設定.....	14
試験の定義.....	15
試験結果名の設定.....	21
UDCの入力.....	23
仕様の定義.....	23
仕様について.....	24
事前設定.....	24
仕様の定義に使用するフォーム.....	24
仕様の改訂(P3702)の処理オプションの設定.....	24
仕様の定義.....	25
優先プロファイルの設定.....	26
優先プロファイルについて.....	26
事前設定.....	28
優先プロファイルの設定に使用するフォーム.....	28
品質管理優先情報の改訂(P40318)の処理オプションの設定.....	29
品質管理優先マスター・レコードの設定.....	30
優先プロファイルの定義.....	30
表示基準のカスタマイズ.....	32
仕様の分割.....	33

承認プロセスの処理.....	33
承認プロセスについて.....	34
事前設定.....	35
変更の承認に使用するフォーム.....	35
試験、仕様、優先情報の改訂.....	35
改訂の承認.....	36
試験/仕様の検討.....	37
試験/仕様の用途先プログラムについて.....	37
試験/仕様の検討に使用するフォーム.....	37
試験/仕様の検討.....	37
試験結果トレースのための組込規則の設定.....	37
EnterpriseOne品質管理に関する顧客請求指示の設定.....	38
顧客請求指示について.....	38
事前設定.....	38
EnterpriseOne品質管理に関する顧客請求指示の設定に使用するフォーム.....	38
請求指示を設定する顧客の選択.....	38
EnterpriseOne品質管理に関する顧客請求指示の設定.....	39

第 4 章

試験結果の処理.....	41
試験結果の処理について.....	41
試験結果を処理する機能.....	41
試験結果の処理.....	42
試験結果の入力フォーマット.....	42
ロット状況.....	43
サンプルの自動採番.....	44
システムの統合.....	44
結果を入力する試験の選択.....	45
試験結果を入力する機能について.....	46
事前設定.....	46
結果を入力する試験の選択に使用するフォーム.....	47
優先情報フォーマットでの試験の選択.....	47
オーダー番号フォーマットでの試験の選択.....	47
試験結果の入力.....	48
試験結果について.....	48
事前設定.....	49
試験結果の入力に使用するフォーム.....	50
試験結果の入力.....	50
試験結果に関するテキストの入力.....	51

試験状況の変更.....	51
試験の変更について.....	51
試験状況の変更に使用するフォーム.....	52
試験状況の変更.....	52
追加サンプルの作成.....	52
サンプルについて.....	53
事前設定.....	53
サンプル数の変更に使用するフォーム.....	54
試験結果の入力(P3711)の処理オプションの設定.....	54
サンプル数の変更.....	57
試験結果の検討.....	57
外部の試験結果の処理.....	58
ロット番号による試験結果の検討.....	58
ロット番号による試験結果について.....	58
ロット番号による試験結果の検討に使用するフォーム.....	59
ロット番号による試験結果の検討.....	59
品目番号と試験IDによる試験結果の検索.....	60
試験結果のトレース.....	61
試験結果のトレース・プログラムについて.....	61
試験結果のトレースに使用するフォーム.....	61
試験結果のトレース.....	61
不合格ロットの管理.....	61
不合格ロットの管理について.....	61
事前設定.....	62
不合格ロットの管理に使用するフォーム.....	62
不合格ロットの管理.....	62
優先プロファイルによる試験済ロットの検討.....	63
試験結果ワークベンチ・プログラムについて.....	63
優先プロファイルによる試験済ロットの検討に使用するフォーム.....	63
優先プロファイルによる試験済ロットの検討.....	63

付録 A

EnterpriseOne品質管理の標準ワークフロー.....	65
EnterpriseOne品質管理の標準ワークフロー.....	65
試験定義承認.....	65
仕様定義承認.....	66
品質管理優先情報承認.....	66

付録 B

EnterpriseOne品質管理レポート.....	69
EnterpriseOne品質管理レポート.....	69
EnterpriseOne品質管理のすべてのレポート.....	69
EnterpriseOne品質管理の主なレポート.....	70
R37410 – 試験定義レポート.....	70
試験定義レポート(R37410)の処理オプション.....	70
R37415 – 仕様レポート.....	71
仕様レポート(R37415)の処理オプション.....	71
R37420 – 品目試験仕様.....	72
品目試験仕様(R37420)の処理オプション.....	72
R37470 – 試験結果ワークシート・レポート.....	73
試験結果ワークシート(R37470)の処理オプション.....	73
R37900 – 分析証明書抽出レポート.....	73
分析証明書抽出(R37900)の処理オプション.....	73
R37901 – 製品試験レポート.....	75
製品試験レポート(R37901)の処理オプション.....	76
 JD Edwards EnterpriseOne用語集.....	 77
 索引	 93

この PeopleBook について

JD Edwards EnterpriseOne製品ガイドでは、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの導入と使用に必要な情報が提供されています。

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件
- アプリケーションの基礎
- 最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード
- 追加情報
- 表記規則
- ご意見、ご要望について
- 製品ガイドで使用する共通フィールド

注意: 製品ガイドでは、追加の説明が必要な場合のみ、フィールドやチェックボックスなどの説明を記載しています。処理や業務の説明箇所に、そこで使用されるフィールドの説明がない場合は、追加の説明が必要ないか、または、項、章、製品ガイド全体、製品ライン全体で使用される共通フィールドとして説明されています。すべてのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションで共通して使用されるフィールドは、この章で説明します。

JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件

このガイドの内容を十分に理解して活用するには、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基本的な使い方を熟知している必要があります。

また、少なくとも1つの入門トレーニング・コースを修了することをお勧めします。

この製品ガイドでは、ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneのメニューやフォーム、ウィンドウを使用して、アプリケーションを操作したり、情報を追加、更新、削除したりできることを前提としています。また、Webブラウザと、Microsoft WindowsまたはWindows NTの操作に習熟していることも必要です。

これらの製品ガイドでは、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを効果的に導入および使用するために必要な情報を提供します。そのため、アプリケーションの操作手順など基本的な説明は省略されています。

アプリケーションの基礎

各アプリケーションの製品ガイドでは、それぞれのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを導入して使用するための情報を提供しています。

一部のアプリケーションでは、システムの設定や設計に必要な基本情報は、このガイドの姉妹編ともいえるアプリケーションの基礎製品ガイドに記載されています。ほとんどの製品ラインには、アプリケーションの基礎製品ガイドが用意されています。それぞれの製品ガイドのまえがきの章に、関連するアプリケーションの基礎製品ガイドの情報が記載されています。

アプリケーションの基礎製品ガイドで取り上げている項目は、どのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションにも当てはまる、あるいはその多くに共通する重要なものです。JD Edwards EnterpriseOneシステムを導入する際は、製品ラインの中から1つのアプリケーションだけを導入する場合でも、いくつかのアプリケーションを組み合わせで導入する場合でも、あるいは製品ライン全体を導入する場合でも、アプリケーションの基礎製品ガイドに書かれている内容を十分に理解しておく必要があります。このガイドの内容が、アプリケーションの導入に着手する出発点となります。

最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード

この項では、次の方法について説明します。

- 最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）
- ドキュメンテーションのダウンロード

最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）

本リリースおよび旧リリースの最新版および追加ドキュメンテーションは、オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから入手できます。オラクル社のPeopleSoft Customer ConnectionのDocumentationセクションから、ファイルをダウンロードして製品ガイド・ライブラリに追加することができます。このセクションでは、CD-ROMで提供されているすべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションに対する更新事項など、最新かつ有益な資料が提供されます。

重要: アップグレードを行う際は、その前にオラクル社のPeopleSoft Customer Connectionサイトで、アップグレードに関する最新情報があるかどうかを確認してください。オラクル社では、アップグレード手法の向上に伴い、常に最新の情報を掲載するようにしています。

関連項目:

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection: http://www.oracle.com/support/support_peoplesoft.html

ドキュメンテーションのダウンロード

すべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションは、CD-ROMで提供されているだけでなく、オラクル社のWebサイトでも提供されています。Oracle Technology Networkから、PDF版のJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションをダウンロードできます。PDFファイルは、ソフトウェアの出荷後すぐにメジャー・リリース別にオンラインで提供されます。

参照: Oracle Technology Network: <http://www.oracle.com/technology/documentation/psftent.html>

追加情報

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから、次の情報を入手できます。

情報	ナビゲーション
アプリケーションのメンテナンス情報	「Updates + Fixes」
ビジネス・プロセス図	「Support」、「Documentation」、「Business Process Maps」
インタラクティブ・サービス・リポジトリ	「Support」、「Documentation」、「Interactive Services Repository」
ハードウェア要件とソフトウェア要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Hardware and Software Requirements」
インストール・ガイド	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Installation Guides and Notes」
統合情報	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Pre-Built Integrations for PeopleSoft Enterprise and JD Edwards EnterpriseOne Applications」
最低要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Supported Platforms」
最新版ドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」
製品ガイド・サポート・ポリシー	「Support」、「Support Policy」
プレリリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
製品出荷予定	「Support」、「Roadmaps + Schedules」
リリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
リリース・バリュープロポジション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Value Proposition」
製品概要	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Statement of Direction」
トラブルシューティング情報	「Support」、「Troubleshooting」
アップグレード関連のドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Upgrade Documentation and Scripts」

表記規則

ここでは、次の事項について説明します。

- 表記規則
- 注意事項の表示
- 国、地域、業種の表記
- 通貨コード

表記規則

製品ガイドは、次の表記規則に従って記述されています。

表記規則	説明
太字	PeopleCodeの関数名、メソッド名、言語要素や、関数呼び出しでそのまま記述すべきPeopleCodeの予約語は太字で記述しています。
斜体	PeopleCodeの構文で、プレースホルダとなる引数部分は斜体になっています。
キー+キー	キーを組み合わせる操作を示しています。キー名とキー名の間にプラス記号がある場合は、最初のキーを押しながら2番目のキーを押すという意味です。たとえば、[Alt]+[W]は、[Alt]キーを押しながら[W]キーを押すことを表します。
固定幅のフォント	PeopleCodeのプログラムや、その他のコードの例の表記には、この固定幅のフォントを使用しています。
... (省略記号)	PeopleCodeの構文で、先行要素の任意の繰り返しを示します。
{ } (中かっこ)	PeopleCodeの構文で、2つの選択肢のうちいずれか一方を選択することを示します。選択肢は縦棒()で区切られています。
[] (角かっこ)	PeopleCodeの構文で、省略できる要素を示します。
& (アンパサンド)	PeopleCodeの構文で、アンパサンドが頭に付いたパラメータはインスタンス化されたオブジェクトであることを示します。 また、PeopleCodeの変数は必ずアンパサンドが頭に付きます。

注意事項の表示

表記規則

注意

JD Edwards EnterpriseOneシステムを使って作業するときの注意事項が書かれています。

注意: 注意事項は、このような形式で示しています。

システムが正しく機能するために必ず守っていただきたい大切な事柄は、“重要:”と示されています。

重要: 重要な注意事項は、このような形式で示しています。

警告

システムの導入にあたって、特に注意しなければならない重要な事柄は、“警告:”と示されています。“警告:”と書かれた部分には十分な注意を払ってください。

警告: 警告は、このような形式で示しています。

相互参照

相互参照は、“参照”または“関連項目”という形で示しています。通常は、それぞれの説明の後に、その内容に関連する他のドキュメンテーションが示されています。

国、地域、業種の表記

特定の国、地域、業種にのみ関連する情報については、国や地域名などをかっこ書きで付記して示しています。このような国や地域の表示は、通常は項の見出しに付記されますが、注意事項などに付記されることもあります。

特定の国を対象とした見出しの例: 「(FRA)従業員の採用」

特定の地域を対象とした見出しの例: 「(中南米)減価償却の設定」

国の表記

国際標準化機構 (ISO) が定める国コードを使って表記しています。

参照: この PeopleBook について、「ISO標準の国コードおよび通貨コード」、「ISO標準の国コード」

地域の表記

地域を表す名称で表記しています。以下に例を示します。

- アジア太平洋
- ヨーロッパ
- 中南米
- 北米

業種の表記

業種を表す名称か略称を使用して表記しています。以下に例を示します。

- USF (米国連邦政府)
- E&G (教育/公的機関)

通貨コード

金額はISOが定める通貨コードを使って表記しています。

参照: この PeopleBook について、「ISO標準の国コードおよび通貨コード」、「ISO標準の通貨コード」

ご意見、ご要望をお寄せください

お客様のご意見は非常に貴重です。製品ガイドおよびその他のオラクル社の参考資料やトレーニング・ガイドについて、変更のご希望がございましたら、ぜひご一報ください。日本オラクル株式会社WPTG-Japanのランゲージ・マネージャまで、ご意見、ご要望をお寄せください(宛先: 〒107-0061 東京都港区北青山2-5-8 オラクル青山センター)。電子メール(etsjpn_us@oracle.com)でも受け付けております。

いただいた電子メールすべてにご返答のできない場合もありますが、弊社では皆様のご意見やご要望に留意し、貴重な情報として今後の参考にさせていただきます。

製品ガイドで使用する共通フィールド

住所録番号	エンティティのマスター・レコードを識別する固有の番号を入力します。住所録番号は、顧客、仕入先、会社、従業員、応募者、加入者、テナントなどのIDとして使用できます。アプリケーションによっては、フォーム上の住所録番号フィールドが、顧客番号、仕入先番号、会社番号、従業員ID、応募者ID、加入者番号などに相当する場合があります。
仮定通貨コード	取引金額の表示に使用される通貨を指定する3文字のコードを入力します。このコードを指定することにより、取引の入力時に実際に使用された通貨ではなく、指定した通貨に基づいて取引金額を参照することができます。
バッチ番号	システムによって処理される取引のグループを識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーがバッチ番号を割り当てるか、または自動採番プログラム(P0002)を使用して自動的に割り当てることができます。
バッチ日付	バッチが作成される日付を入力します。このフィールドを空白のままにすると、システム日付がバッチ日付として使用されます。
バッチ状況	<p>バッチの転記状況を示すユーザー定義コード(UDC)テーブル(98/IC)のコードが表示されます。値は次のとおりです。</p> <p>空白: バッチは転記されず、承認が保留状態になります。</p> <p>A: バッチにエラーがなく転記が承認されますが、保留状態でまだ転記されていません。</p> <p>D: バッチが正常に転記されています。</p> <p>E: バッチにエラーが発生しました。転記の前にエラーを修正する必要があります。</p>

	<p>P: バッチの転記処理中です。転記処理が完了するまで、バッチにアクセスすることはできません。転記中にエラーが発生した場合は、バッチ状況コードがEに変更されます。</p> <p>U: 別のユーザーがバッチを操作中のため一時的に使用できないか、またはバッチの処理中に停電があったため、バッチが使用中と認識されています。</p>
事業所	倉庫、作業、プロジェクト、作業場、支店、工場など、配送業務や製造業務が行われる場所や単位を表すコードを入力します。システムによっては、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。
ビジネスユニット	原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。システムによっては、事業所と呼ばれる場合もあります。
カテゴリ・コード	特定のカテゴリ・コードを表すコードを入力します。カテゴリ・コードはユーザー定義コードの1つで、各組織の情報追跡(トラッキング)やレポートの要件に合わせてカスタマイズできます。
会社	特定の企業、組織、団体などを識別するコードを入力します。会社コードはF0010テーブルにすでに存在しており、完全な貸借対照表を持つ法人に対応する必要があります。
通貨コード	取引の通貨を表す3文字のコードを入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、国際標準化機構(ISO)が定める通貨コードを使用しています。通貨コードは、F0013テーブルに定義されています。
伝票会社	<p>伝票に関連付けられている会社番号を入力します。この番号は、伝票番号、伝票タイプ、元帳日付とあわせて使用され、当初伝票を一意に識別します。</p> <p>会社と会計年度別に次の番号を割り当てる場合は、伝票会社に基づいて、該当する会社に正確な“次の番号”が割り当てられます。</p> <p>2つ以上の当初伝票が同じ伝票番号と伝票タイプを持つ場合は、伝票会社を使用して必要な伝票を表示できます。</p>
伝票番号	伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなどの当初伝票を識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーが当初伝票番号を割り当てるか、または自動採番プログラムを使用して自動的に割り当てることができます。
伝票タイプ	<p>ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に定義された、取引の発生元と目的を表す2文字のユーザー定義コード(伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなど)を入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、伝票タイプ用に次のプレフィックスが予約されています。</p> <p>P: 買掛金伝票</p> <p>R: 売掛金伝票</p> <p>T: 時間および給与伝票</p> <p>I: 在庫伝票</p> <p>O: 購買オーダー伝票</p> <p>S: 受注オーダー伝票</p>
有効日付	住所、品目、取引、またはレコードがアクティブになる日付を入力します。このフィールドの意味は、プログラムによって異なります。たとえば、有効日付で次の日付を表すことができます。

- 住所の変更が有効になる日付
- 賃貸契約が有効になる日付
- 価格が有効になる日付
- 為替レートが有効になる日付
- 税率が有効になる日付

会計期間、会計年度

元帳で使用される会計期間および会計年度を示す数値を入力します。多くのプログラムでは、このフィールドを空白のままにできます。その場合、会社名および番号プログラム(P0010)で定義された現在の会計期間と会計年度が使用されます。

元帳日付

取引を転記する会計期間を特定する日付を入力します。取引で入力した日付と会社に割り当てられた会計期間パターンが比較されて、適切な会計期間番号と会計年度が取得されると同時に、日付検証が実行されます。

JD Edwards EnterpriseOne品質管理 – まえがき

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne製品
- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎
- この製品ガイドで使用する共通フィールド

JD Edwards EnterpriseOne製品

この製品ガイドには、オラクル社の次のJD Edwards EnterpriseOne製品が関連しています。

- JD Edwards EnterpriseOne在庫管理
- JD Edwards EnterpriseOne調達管理
- JD Edwards EnterpriseOne製造現場管理
- JD Edwards EnterpriseOne受注管理
- JD Edwards EnterpriseOne Blend Management

JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎

システムの設定や設計に必要な基本情報は、このドキュメンテーションの姉妹編とも言える次のドキュメンテーションに記載されています。

- JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 製品ガイド
- JD Edwards EnterpriseOne 製造データ管理 製品ガイド
- JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理 製品ガイド

JD Edwards EnterpriseOneの最低要件に記載されているとおりに、リリースでサポートされているプラットフォームに準拠する必要があります。また、JD Edwards EnterpriseOneは、オラクル社の他の製品と統合、連結または連携する場合があります。オラクル社の様々な製品の互換性を確保するため、プログラムの事前設定やバージョンの相互参照マニュアルについて<http://oracle.com/contracts/index.html>のプログラム・ドキュメンテーションにある相互参照資料を参照してください。

この製品ガイドで使用する共通フィールド

合格%、合格数量

サンプルが品質検査で合格となるために、合格する必要がある試験の割合を示します。このフィールドの値は、「サンプル%」の値が100以外である

	場合に評価されます。「合格%」の値を使用する場合、試験の定義ごとに所定のフィールドで入力を行う必要があります。値は次のとおりです。 ブランク: 「合格数量」の値を適用する。 値を指定: 表示/評価を実行する。
許容最大値	合格となる試験結果の最大値を入力します。
許容最小値	合格となる試験結果の最小値を入力します。
顧客No.	従業員、応募者、関連会社、顧客、仕入先、テナント、所在地などの、JD Edwards EnterpriseOne住所録システムの項目を識別する番号を入力します。
品目No.	品目に割り当てられる番号を入力します。略式、詳細形式、第3品目番号形式があります。
サンプル数	試験のために採取するサンプルの数を入力します。
優先最大値	推奨される試験結果(優先値)の最大値を入力します。この値は、許容最大値以下である必要があります。優先最大値は、顧客の要求よりも詳細で厳格な品質評価を行う際に使用します。 分析証明書プログラムの処理オプションを使用すると、分析証明書レポートに優先値を印刷できます。試験の改訂プログラムの処理オプションを使用すると、各優先値と照合を行いサンプルを評価できます。
優先最小値	推奨される試験結果(優先値)の最小値を入力します。この値は、許容最小値以上である必要があります。優先最小値は、顧客の要求よりも詳細で厳格な品質評価を行う際に使用します。 分析証明書プログラムの処理オプションを使用すると、分析証明書レポートに優先値を印刷できます。試験の改訂プログラムの処理オプションを使用すると、各優先値と照合を行いサンプルを評価できます。
試験の印刷	分析証明書に試験を印刷するかどうかを指定するコードを入力します。値は次のとおりです。 0: 試験は分析証明書に印刷されません。 1: すべての試験データが分析証明書に印刷されます。 2: 試験結果の平均値レコードのみ、分析証明書に印刷されます。 3: 最新の試験データが分析証明書に印刷されます。最新の試験データとは、試験結果の改訂で最後に入力された試験結果レコードです。
属性	試験対象の品目の属性を入力します。
サンプル%	オーダー数量に対するパーセンテージを入力します。この値により、試験結果の改訂で作成されるサンプルの数が決まります。たとえば、「サンプル%」の値が50、オーダー数量が10の場合、「試験結果の改訂」では5つのサンプルが作成されます。作成するサンプルの数を制御するには、このフィールドまたは「サンプル数」フィールドのいずれかを使用します。このフィールドは、試験結果の改訂のオーダー・モードでのみ使用できます。 「サンプル%」の値が100の場合、オーダーのすべてのユニットで試験が必要になります。ロットの合格には、オーダーのすべてのユニットの合格が必要になるため、「合格数量」、「合格%」は使用できません。
順序	有効な環境の表示順序を設定するための連番を入力します。

目標値

試験結果の範囲内で、推奨される、または目標とする試験結果の値を入力します。システムでは目標値に対する検証は実行されないため、これは参照専用のフィールドとなります。

試験方法

品質試験の実行方法についての説明を入力します。試験方法に関する情報は、自社の品質管理部門、顧客の双方にとって有益です。次に例を示します。

試験: 粘性

方法: RVF #4 @10RPM

詳細: RVF粘度計での粘性試験をスピンドル4を使用して10回転/分の回転速度で実行する。

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne品質管理 – はじめに

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne品質管理の概要
- JD Edwards EnterpriseOne品質管理の統合
- JD Edwards EnterpriseOne品質管理の導入

JD Edwards EnterpriseOne品質管理の概要

総合的品質管理(TQM)、継続的改善、品質保証、品質管理システムなどの用語は、品質評価という概念に関係しています。これらの用語は、多種多様な産業において使用されます。企業が高度な品質管理システムを使用している場合でも、単純なデータ収集プログラムを使用している場合でも、目指す目標に変わりはありません。それは、最も適切なタイミングで、かつ、最も費用効率の高い方法で、品質に対する要望に応え、期待される水準かそれ以上の品質を達成するということです。

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne品質管理システムは、TQMプログラムの支援に使用できます。このシステムは、社内の品質基準を満たし、かつ、顧客の要求に応えるために必要となるデータの収集、検証、管理に関する統合された柔軟なソリューションを提供します。

JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムは、製品の材質に関するデータの記録や管理に役立てることができます。一貫性があり管理のゆきとどいた方法によって、品質試験の結果を記録したり、製造工程をモニタリングして製品の品質を確保できます。

品質管理システムでは、次の設定を実行して、ビジネスにおける固有の試験のニーズに対応するためのカスタマイズを行うことができます。

- 品質試験の設定
- 仕様による試験のグループ化
- 特定の顧客の品目に対して実行する試験の定義
- 分析証明書が必要とする顧客の定義

ビジネス・サイクルにおける適切なタイミングで、サンプルを収集し品質試験を実行します。その後、JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムを使用して、品目に関する試験結果を入力し、検討します。試験結果の例としては、糖分濃度を検査しているソフト・ドリンクのサンプルでの0.20%という濃度の結果などがあげられます。

生産する材料が規格を満たしているかどうかを、購買サイクル、受注オーダー入力サイクル、作業オーダー・サイクルなどのビジネス・フローにおける様々なタイミングで検証できます。試験結果やレポートを印刷して、意思決定に活用できます。また、必要に応じて是正措置を講じる際にも役立ちます。

製品の品質の詳細なモニタリングをサポートする品質管理システムを導入することにより、次のような成果を達成できます。

- 製品の品質に関する迅速な意思決定により、再作業や仕損にかかる費用を削減する。
- 材料検査、データ収集、欠陥材料に対する再作業や修繕などに費やされる時間を最小化することにより、労務費を削減する。
- 問題のありそうな構成品を出荷前に識別することにより、出張作業を削減する。
- 質の低い構成品を識別することにより、材料の仕損にかかる費用を削減する。
- 品質の全体的な向上により、顧客満足度を高める。

JD Edwards EnterpriseOne品質管理の統合

JD Edwards EnterpriseOne品質管理は、オラクル社の次のシステムと統合されています。

- JD Edwards EnterpriseOne在庫管理
- JD Edwards EnterpriseOne調達管理
- JD Edwards EnterpriseOne製造現場管理
- JD Edwards EnterpriseOne受注管理
- JD Edwards EnterpriseOne Blend Management

JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムは、JD Edwards EnterpriseOneの他のシステムと連動して機能します。統合における考慮事項については、この製品ガイドの導入に関する章で説明します。サード・パーティ・アプリケーションとの統合についての補足情報は、Customer Connection Webサイトを参照してください。

JD Edwards EnterpriseOne在庫管理

JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムでロットを処理する場合、ロット番号を使用して試験結果を検索し、どのロットが品質試験で合格/不合格となっているかを確認できます。ロット別在庫状況プログラム (P41280) またはロット・マスターの改訂プログラム (P4108) を使用してJD Edwards EnterpriseOne在庫管理から試験結果照会を使用すると、入力された試験結果と完全に同一の内容を参照できます。

JD Edwards EnterpriseOne調達管理

調達管理では、次に示すプログラムによって、JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムへのアクセスが行われます。

- 入荷確認プログラム (P4312)
- 入荷工程の移動/処分プログラム (P43250)

JD Edwards EnterpriseOne製造現場管理

JD Edwards EnterpriseOne製造現場管理では、次に示すプログラムによって、JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムへのアクセスが行われます。

- 製造作業オーダー処理プログラム (R31410)
- 作業オーダー完了プログラム (P31114)
- スーパー・バックフラッシュ・プログラム (P31123)
- 作業オーダー時間入力プログラム (P311221)

JD Edwards EnterpriseOne受注管理

JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムを使用している場合、顧客請求指示によって、顧客に分析証明書を提出する必要があるかどうかを指定します。顧客請求指示を設定して、特定の顧客への分析証明書を出荷が確定した時点で自動的に作成できます。

JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムでロットを処理する場合、ロット番号を使用して試験結果を検索し、どのロットが品質試験で合格/不合格となっているかを確認できます。

JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムを使用している場合、出荷確認(P4205)プログラムによってJD Edwards EnterpriseOne品質管理システムにアクセスできます。

JD Edwards EnterpriseOne Blend Management

JD Edwards EnterpriseOne Blend Managementシステムを使用している場合、ぶどうの入荷時の品質や、ワイン醸造プロセスの様々な工程におけるワインのロットの品質をトラッキングします。

ワイン醸造プロセスでは、ワインのサンプルを採取し、ワインのロットに含まれる糖度やアルコール度数についてなど、各種品質試験を行います。類似試験のグループをまとめるには、試験結果名プログラムを使用します。たとえば、ワインの糖度を調べるいくつかの試験があるとして、すべての糖度試験には、「糖度」という試験結果名を付けることができます。

JD Edwards EnterpriseOne Blend Managementシステムを使用している場合、通常はBlend Managementの「Blend Quality Management」メニュー(G31B04)を使用してJD Edwards EnterpriseOne品質管理のプログラムにアクセスします。試験結果名プログラム(P37013)には「品質管理セットアップ」メニュー(G3741)からアクセスできますが、データは参照専用です。

JD Edwards EnterpriseOne品質管理の導入

この項では、JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムを導入するために必要な手順の概要を説明します。

導入の計画段階では、インストール・ガイドやトラブルシューティング情報など、JD Edwards EnterpriseOneに関して提供されるすべての情報を活用してください。『この製品ガイドについて』のまえがきの章では、参考となるリソースの一覧が提供されています。また、各リソースの最新バージョンの掲載場所についても記載があります。

JD Edwards EnterpriseOne品質管理について、どのESU(電子ソフトウェア更新)をインストールするかを決める際は、EnterpriseOne and World Change Assistantを使用します。JavaベースのツールであるEnterpriseOne and World Change Assistantを使用すると、必要となるESUを検索してダウンロードするためにかかる時間を75%以上削減できます。さらに、複数のESUを一度にインストールすることも可能です。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Software Update Guide

グローバル導入の手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムのグローバル導入の推奨手順を示します。

手順	参照
1. グローバルUDCテーブルを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Foundation Guide
2. 会計期間パターンを設定します。	

手順	参照
3. 会社を設定します。	
4. ビジネスユニットを設定します。	
5. 自動採番を設定します。	
6. (省略可)勘定科目と勘定科目表を設定します。	
7. 一般会計固定情報を設定します。	
8. 通貨コードや為替レートなどの多通貨処理を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理 9.0 製品ガイド
9. (省略可)元帳タイプ規則を設定します。	
10. 住所録レコードを設定します。	
11. デフォルト事業所およびプリンタを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Foundation Guide
12. 事業所固定情報を設定します。	
13. 流通/製造AAI(自動仕訳)を設定します。	
14. 伝票タイプを設定します。	
15. 製造現場カレンダーを設定します。	
16. 製造固定情報を設定します。	

JD Edwards EnterpriseOne品質管理の導入手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムの導入手順を示します。

手順	参照
1. 品質管理を有効化します。	第 3 章、「EnterpriseOne品質管理の設定」、 「EnterpriseOne品質管理の有効化」、10ページ
2. 試験を定義します。	第 3 章、「EnterpriseOne品質管理の設定」、「試験の定義」、11ページ
3. ユーザー定義コードを入力します。	第 3 章、「EnterpriseOne品質管理の設定」、「UDCの入力」、23ページ
4. 仕様を定義します。	第 3 章、「EnterpriseOne品質管理の設定」、「仕様の定義」、23ページ
5. 優先プロファイルを設定します。	第 3 章、「EnterpriseOne品質管理の設定」、「優先プロファイルの設定」、26ページ
6. 試験結果トレースのための組込規則を設定します。	第 3 章、「EnterpriseOne品質管理の設定」、「試験結果トレースのための組込規則の設定」、37ページ
7. 品質管理に関する顧客請求指示を設定します。	第 3 章、「EnterpriseOne品質管理の設定」、 「EnterpriseOne品質管理に関する顧客請求指示の設定」、38ページ

第 2 章

品質管理システムについて

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne品質管理の特徴
- JD Edwards EnterpriseOne品質管理のテーブル

JD Edwards EnterpriseOne品質管理の特徴

ここでは、次の事項について説明します。

- 試験
- 仕様
- 優先プロファイル
- 試験結果の入力
- 情報の確認
- 汎用テキストの入力

試験

ビジネス・サイクルで実行する試験は、数に制限なく設定できます。それぞれの試験に対して、最小値、最大値、目標値の他、数字/英数字のどちらの書式で試験結果の期待値を出力するかを定義します。また、各試験で採取するサンプルの数やサンプル・サイズを定義することもできます。

試験の例としては、寸法公差、色、力価、純度、目視検査、硬度、耐性などがあげられます。

仕様

仕様によって、同一のカテゴリに属する試験や、同時に実行する試験をグループ化できます。例としては、機械関連、目視関連、電子関連の仕様などがあげられます。

優先プロファイル

試験や仕様を定義すると、優先プロファイルの作成が可能になります。優先プロファイル(優先情報とも呼ばれます)によって、品目、品目グループ、顧客、顧客グループに関して、どの試験をいつ実行するかが判断されます。優先プロファイルを使用して、顧客および顧客が注文した品目の双方に関して、製品試験のカスタマイズを行うことができます。

たとえば、ある顧客が試験に対して別の顧客よりも厳格な許容値を要求している場合に、優先情報を使用します。優先情報により、該当する試験をグループ化して、顧客別にカスタマイズすることが可能になります。

試験結果の入力

試験の処理は、他のシステムのプログラムから行うことも、JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムから直接行うこともできます。試験結果を入力すると、試験結果が最小値と最大値で規定される範囲内にあるかどうかの評価され、それぞれのロットの状況として合格または不合格が設定されます。

試験結果は、次に示す製造/流通プロセスの各段階で入力できます。

- 購買オーダー品目の入荷の入力時
- 購買オーダーと作業オーダーに関する入荷工程
- 生産完了後の在庫への品目の移動時
- 作業時間や作業量の入力時
- 出荷や梱包の確認時
- ECSのバルク/パッケージ製品の積荷確認時
- 受注オーダーの入力時
- ロットの確認時

情報の確認

JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムでは、試験や仕様を品目および事業所別に印刷できます。試験結果はロット番号および受注オーダー番号別に印刷できます。

試験結果の情報は、顧客に対する分析証明書(COA)を印刷する際に使用できます。COAには、顧客に販売されたロットに関して実行されたすべての試験内容および試験結果データが記載されています。

試験が必要な品目や、再分類時に名称が変更された品目に関しては、製品レコードでロットの確認やトレースを行うことができます。また、品質試験で不合格となったロットを確認することもできます。

汎用テキストの入力

試験の処理では、汎用テキストを使用して追加情報を入力できます。

汎用テキストは、試験に関係する次のような情報に関して、ツール、試験装置、サンプリング方法を記述する場合に使用します。

- 品目
- 作業オーダーの作業工程指示
- 作業オーダー部品リスト
- 試験エントリ
- 優先プロファイル
- 仕様エントリ
- 試験結果

JD Edwards EnterpriseOne品質管理のテーブル

JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムでは、次のテーブルが使用されます。

テーブル名	説明
F3701テーブル	試験ID、記述、試験タイプ、最小値および最大値、目標値、有効期間によって構成される試験定義が格納されます。その他、分析証明書に試験を印刷するかどうか、汎用テキストの印刷を行うかどうかを指定する情報も格納されます。
F3702テーブル	仕様についての説明や有効期間が格納されます。
F37021テーブル	仕様内でグループ化されている個々の試験に関する情報が格納されます。
F3703テーブル	不合格となった試験のレコードが格納されます。
F3711テーブル	在庫、作業オーダー、購買オーダー、受注オーダーに含まれる品目およびロット番号に関する試験結果が格納されます。
F3711Z1テーブル	ラボラトリ情報管理システム (LIMS) からアップロードされた試験結果が格納されます。
F37900テーブル	分析証明書や製品試験レポート (R37901) に印刷される試験結果が格納されます。
F40318テーブル	品目、品目グループ、顧客、顧客グループで必要とされる試験や仕様を特定します。
F40318Rテーブル	受注オーダーで優先情報が使用された回数に関する履歴情報が格納されます。

第 3 章

EnterpriseOne 品質管理の設定

この章では、JD Edwards EnterpriseOne 品質管理の設定の概要と次の方法について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne 品質管理システムの有効化
- 試験の定義
- ユーザー定義コード (UDC) の入力
- 仕様の定義
- 優先プロファイルの設定
- 承認プロセスの処理
- 試験および仕様の検討
- 試験結果トレースのための組込規則の設定
- JD Edwards EnterpriseOne 品質管理システムに関する顧客請求指示の設定

EnterpriseOne 品質管理の設定について

この項では、事前設定およびシステム設定について説明します。

事前設定

JD Edwards EnterpriseOne 品質管理システムを設定する前に、次の作業を行う必要があります。

- ロット単位で品質評価を行う品目に対し、ロット管理を有効化します。
- 品質評価を行う各品目について、試験に含める特性を決定します。

システム設定

JD Edwards EnterpriseOne 品質管理システムは、ビジネスにおける特定の試験のニーズに対応できるようにカスタマイズが可能です。品質試験の設定後、仕様に基づいて試験をグループ化できます。また、特定の顧客に関してどの試験を実行するかを定義したり、どの顧客に対して分析証明書が必要であるかを定義できます。

JD Edwards EnterpriseOne 品質管理システムを使用する前に、次の設定を行う必要があります。

- 事業所固定情報
- 試験
- (省略可) 仕様

- 優先プロファイル

前述のうち、事業所固定情報の設定はJD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムで実行しますが、それ以外のすべての設定はJD Edwards EnterpriseOne品質管理システムで実行します。

注意: JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムを使用するには、システム・レベルおよび事業所レベルで有効化を行う必要があります。

EnterpriseOne品質管理の有効化

この項では、次の方法について説明します。

- システム・レベルでのEnterpriseOne品質管理の有効化
- 品質管理試験の対象とする各事業所の指定

EnterpriseOne品質管理の有効化に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
EnterpriseOneシステム制御 – 改訂	W99410B	<p>「品質管理セットアップ」(G3741)、「品質管理の有効化」</p> <p>「EnterpriseOneシステム・コントロールの処理」フォームで、データ項目がSY37のレコードを選択して、「選択」ボタンをクリックします。</p> <p>「はい」を選択して、「OK」をクリックします。</p> <p>「EnterpriseOneシステム・コントロールの処理」フォームの「使用モジュール」フィールドに「はい」が表示されていることを確認します。</p>	システム・レベルでJD Edwards EnterpriseOne品質管理システムを有効化します。
事業所固定情報	W41001H	<p>「在庫管理設定」(G4141)、「事業所固定情報」</p> <p>「事業所固定情報の処理」フォームで、事業所を選択して、「選択」ボタンをクリックします。</p> <p>「事業所固定情報」フォームで「品質制御」を選択して、「OK」をクリックします。</p>	品質管理試験の対象とする各事業所の指定を行います。

システム・レベルでのEnterpriseOne品質管理の有効化

「EnterpriseOneシステム制御 – 改訂」フォームにアクセスします。

はい このモジュールがシステムにインストール済である場合に選択します。

品質管理試験の対象とする各事業所の指定

「事業所固定情報」フォームにアクセスします。

事業所固定情報 - 事業所固定情報			
OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)			
<div> </div>			
事業所	M30	Eastern Manufacturing Center	
住所No.	6074	Eastern Manufacturing Plant	
略式品目番号の識別記号	/	<input checked="" type="checkbox"/> バックオーダー許可 <input checked="" type="checkbox"/> 一般会計インターフェイス <input checked="" type="checkbox"/> 総勘定元帳への数量書込み <input type="checkbox"/> 保管場所制御 <input type="checkbox"/> 倉庫管理制御 <input checked="" type="checkbox"/> 品質制御 <input type="checkbox"/> 製造原価明細の使用 <input type="checkbox"/> 他社デボ <input checked="" type="checkbox"/> 在庫ロットの作成 <input type="checkbox"/> 保管場所セグメント制御	
第2品目番号の識別記号			
第3品目番号の識別記号	*		
顧客/仕入先の識別記号	#		
セグメント品目の識別記号	@		
セグメント区切り文字			
引当方法	1		
指定引当(日数)	999		
年間日数	260		
顧客相互参照コード	C		
仕入先相互参照コード	VN		
購買原価方式	07	購買オーダー発注費用	75.00
原価計算方法(売上/在庫)	07	在庫維持費 (%)	.100
現行在庫期間	6	仕訳摘要の指定	1
部品生産国コード		承認経路コード	

「事業所固定情報」フォーム

事業所

原価のトラッキング対象となるビジネスの個別の組織を表すコードが表示されます。たとえば、倉庫保管場所、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。

品質制御

事業所に対してJD Edwards EnterpriseOne品質管理システム(システム37)を有効にする場合に選択します。

試験の定義

この項では、試験の概要と次の方法について説明します。

- 試験の改訂(P3701)の処理オプションの設定
- 試験の定義
- 試験結果名の設定

試験について

JD Edwards EnterpriseOne品質管理を有効にした後、特定の事業所または全事業所に対して実行する試験を定義します。たとえば、ソフト・ドリンクに関する糖分濃度の試験を定義することなどができます。

各試験に対して、次の情報を指定します。

- 試験の説明
- 試験の有効期間
- 結果の記録方法
- 試験のサンプル数
- 結果の評価方法
- 分析証明書に印刷する情報
- 試験方法およびASTM(米国材料試験協会)の参照資料番号

試験の設定では、その試験が必須、任意、保証済のいずれのタイプに該当するかを定義できます。こうした試験タイプによって、試験結果の入力が必須であるかどうかを示します。

次の表で、各試験タイプについて説明します。

試験タイプ	説明
必須	試験を“必須”として定義した場合、試験結果の入力は必須となります。試験結果が不合格水準の値を示すと、該当のロットは不合格となり、試験結果の入力プログラム(P3711)の処理オプションで指定した状況が設定されます。“必須”の試験で結果を入力しなかった場合、入力対象の空白レコードは不合格水準の値とみなされ、「合格数量」フィールドまたは「合格%」フィールドの情報に応じて、ロットは処理の対象から外されます。
任意	試験を“任意”として定義した場合、試験結果の入力は必須とはなりません。“任意”の試験では、結果を入力しなかった場合にロットが不合格となることはありません。一方、不合格水準の値を入力した場合は、その試験の「合格数量」フィールドまたは「合格%」フィールドの情報に応じて、ロットは不合格となります。
保証済	試験を“保証済”として定義した場合、試験結果の入力は必須となります。“保証済”の試験とは、組織の品質保証体制の一環として保証する試験を指します。試験定義の「試験の表示/評価」オプションによって、試験結果の入力時に結果を表示しないように設定できます。ただし、“保証済”の試験の場合、分析証明書への結果の印刷は常に実行されます。

汎用テキストによって、特定の試験に関する情報や指示(使用するサンプリング方法など)を追加できます。試験の汎用テキストは、優先情報に自動的にコピーされます。試験結果の入力時、情報、指示を試験や優先情報から試験結果にコピーする処理オプションを選択できます。

優先情報によって、次に示す項目を任意に組み合わせた試験、仕様のカスタマイズが可能になります。

- 顧客

- 顧客グループ
- 品目（製品）
- 品目グループ

英数字による試験結果の値を設定した場合、英数字による試験結果と各結果に対応する数値を含むUDCリストを設定できます。このリストによって、英数字による試験結果が最小値と最大値で規定される範囲内にあるかどうか自動的に判別されます。

英数字による試験結果の値の設定は、UDCを使用せずに行うこともできます。この場合、任意の書式で試験結果を入力できます。例として、設備測定の実験を設定し、試験時に記録を行うケースが考えられます。このような場合、試験結果の値について考慮することはありません。

さらに、「ロー」メニューの「設備」またはフォーム・エグジットから「試験設備の改訂」フォームにアクセスできます。このフォームを使用して、試験に使用する設備を設定します。たとえば、ワインのロットに対するpH試験にメーターを使用する場合、メーターに関するデータをシステムに入力します。設備のデータは、試験設備 (F37011) テーブルに保存されます。また、「ロー」メニューの「消耗品」またはフォーム・エグジットから「消耗品の改訂」フォームにアクセスできます。このフォームを使用して、試験に使用する消耗品を設定します。たとえば、pH試験にリトマス試験紙やゴム手袋を使用する場合、これらの消耗品をシステムに設定する必要があります。これによって、消耗品を試験定義に添付できます。これらの品目の情報は、試験消耗品 (F37012) テーブルに保存されます。

JD Edwards EnterpriseOne Blend Managementシステムを使用している場合、ワインの各ロットに対して様々な試験を行います。試験結果名を設定すれば、試験定義（試験仕様のセット）の異なる類似の試験をグループ化できます。たとえば、試験紙の使用を義務付ける試験定義を設定したpH試験と、メーターの使用を義務付けるに試験定義を設定したpH試験があるとします。試験定義は異なりますが、どちらの試験も結果はpHに関する内容です。

注意: 試験結果名を設定する場合、「試験結果名」フィールドでユーザー定義文字を使用しないことをお勧めします。たとえば、「価格管理固定情報」フォームで設定したユーザー定義文字や、特殊文字（&、%、!、?、@、\$、|、#など）は使用しないでください。試験結果名とJD Edwards EnterpriseOne価格管理システムの計算式を組み合わせで使用した場合、この記号は、計算式と試験結果名の両方で解釈されません。たとえば、ブリックス試験結果が23未満の場合ブリックス試験結果が1下がるごとにぶどうの購買価格を10%下げるとします。ブリックス試験結果が22の場合は価格を10%下げ、ブリックス試験結果が21の場合は価格を20%下げます（以降同様）。価格管理システムの計算式の例は、次のようになります。

$$((23 - @BRIX) \times -0.1) \times \#UPRC$$

この例では、@記号は、ブリックス試験結果に基づいてぶどうの価格を決定する計算式の一部です。計算式で記号を使用し、記号を含む試験結果名を追加した場合、システムではそれら2つの記号を区別できません。

試験を設定した後に、検討および改訂を行うことができます。また、試験定義レポート (R37410) を印刷することもできます。

試験の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
試験定義の追加	W3701A	「品質管理セットアップ」(G3741)、「試験の改訂」 「試験定義の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	試験を定義します。
試験定義の編集	W3701A	「品質管理セットアップ」(G3741)、「試験の改訂」 「試験定義の処理」フォームで試験を検索して選択し、「選択」ボタンをクリックします。	試験を定義します。
試験結果名の改訂	W37013B	「品質管理セットアップ」(G3741)、「試験結果名」 「試験結果名の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	実行する品質試験の試験結果名を設定します。

試験の改訂(P3701)の処理オプションの設定

この処理オプションでは、試験の改訂プログラムのデフォルト処理を指定します。

デフォルト

この処理オプションでは、試験定義を表示する際にシステムによって参照される、試験定義の状況を指定します。

状況

画面に表示する試験定義を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: アクティブな試験定義のみを表示します。

1: 承認待ちの試験定義のみを表示します。

2: 試験定義の履歴情報のみを表示します。

3: 却下された変更要求のみを表示します。

処理

この処理オプションでは、試験定義の履歴情報を自動保存するかどうかを指定します。

ログ保存

既存の試験定義を変更適用前に自動的に記録するかどうかを指定します。試験定義の記録時に、履歴情報としてトランザクションが自動的に保存されます。保存された情報は、試験の改訂(P3701)の処理オプションにある「デフォルト」タブで「履歴」オプションを選択することにより、オンラインやレポートで確認できます。値は次のとおりです。

ブランク: 記録は実行されません。

1: 記録が実行されます。

ワークフロー

この処理オプションでは、試験定義変更の際、ワークフロー承認プロセスを有効にするかどうかを指定します。

ワークフロー

試験定義変更の際、ワークフロー承認プロセスを有効にするかどうかを指定します。ワークフローを有効にした場合、改訂された試験定義が実際に使用可能となるためには承認が必要となります。値は次のとおりです。

ブランク: 有効にしません。改訂された試験定義はただちに使用可能となります。

1: 有効にします。改訂された試験定義が実際に使用可能となるためには承認が必要となります。

試験の定義

「試験定義の追加」または「試験定義の編集」フォームにアクセスします。

試験の改訂 - 試験定義の編集 i ?

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

試験ID	PT-01	事業所	M30
記述	Bottle pressure test	状況	<input type="checkbox"/> 有効承認済み
有効開始	1998/01/01	終了	2015/12/31

定義 **結果範囲** **記述**

定義

試験タイプ	必須		
試験の表示/評価	全サンプル		
試験の印刷	全サンプル	<input checked="" type="checkbox"/> テキスト印刷	

サンプル情報

サンプル数	1		
サンプル%			
サンプル・サイズ	1		
サンプル・サイズ単位	BT		
合格数量	1		
合格%			

ブレンド管理

ラボ	
サンプル収集方法	.
集計	非累計
サンプル・コンテナ	
密閉	.
試験結果名	
<input checked="" type="checkbox"/> 試験結果範囲のコピー	

「試験定義の編集」フォーム

試験ID

任意の品目に実施する試験に対する一意のIDを入力します。次に例を示します。

COL: 色に関する試験

DENS: 密度に関する試験

CL-2: 明度に関する試験

有効開始

試験の有効期間の開始日付を入力します。

デフォルトは現在のシステム日付です。今後予定している変更に合わせて将来の有効日付を入力することもできます。将来無効になる品目も記録できます。これらの品目は、JD Edwards EnterpriseOne製造原価計算システム、JD Edwards EnterpriseOne製造現場管理システムおよびJD Edwards EnterpriseOne能力所要量計画システムで認識されます。JD Edwards EnterpriseOne資材所要量計画システムでは、部品表の改訂レベルではなく、有効日付に基づいて有効な構成部品が特定されます。一部のフォームでは、入力した有効日付に基づいて、データが表示されます。

終了

試験の有効期間の終了日付を入力します。

デフォルトは、データ辞書で変換世紀年として定義されているデフォルト年の12月31日です。今後予定している変更に合わせて将来の有効日付を入力することもできます。将来無効になる品目も記録できます。これらの品目は、JD Edwards EnterpriseOne製造原価計算システム、JD Edwards EnterpriseOne製造現場管理システムおよびJD Edwards EnterpriseOne能力所要量計画システムで認識されます。JD Edwards EnterpriseOne資材所要量計画システムでは、部品表の改訂レベルではなく、有効日付に基づいて有効な構成部品が特定されます。一部のフォームでは、入力した有効日付に基づいて、データが表示されます。

「定義」タブ、「定義」

「定義」タブを選択します。

試験タイプ

試験結果を入力した際の試験の処理方法を指定します。値は次のとおりです。

- 必須: 試験で合格となるためには結果の値が許容範囲内である必要がある場合に選択します。必須として定義された各試験で結果を入力しないと、品目は品質検査で合格となりません。
- 任意: 結果の入力時に、値の入力を任意とする場合に選択します。このタイプが選択された各試験では、結果の入力は必須ではありません。ただし、不合格となるような結果を入力した場合、その品目は品質検査で不合格となります。
- 保証済み: 結果の入力時に、値の入力を任意とする場合に選択します。このタイプが選択された試験では、試験の改訂フォームの試験の表示に関するフィールドを使用することによって、試験結果の入力時に表示を行うかどうかを制御できます。また、この試験は、分析証明書に印刷されます。

試験の表示/評価

受注オーダーからアクセスが行われた場合に試験結果照会フォームに試験結果を表示する方法を指定するコードを入力します。このコードにより、試験の評価方法も指定されます。値は次のとおりです。

結果を表示しない: 試験結果の改訂や結果照会のプログラムを使用した場合、試験結果は表示されません。この値は、「試験タイプ」で「保証済み」が選択されている場合にのみ使用できます。

全サンプル: 結果照会プログラムを使用した場合、すべての試験データが表示されます。試験結果の改訂では、結果の値の入力に対応するため、

すべての試験データが表示されます。ロットの合格/不合格の判定には、結果のすべての値が使用されます。

サンプル平均: 結果照会プログラムを使用した場合、試験結果の平均レコードのみが表示されます。試験結果の改訂では、すべての試験データが表示されます。ロットの合格/不合格の判定には、試験結果の平均のみが使用されます。

最終サンプル: 結果照会プログラムを使用した場合、最新の試験データが表示されます。最新の試験データとは、試験結果の改訂で最後に入力された試験結果です。ロットの合格/不合格の判定には、最後の試験結果のみが使用されます。

試験の印刷

分析証明書に試験を印刷するかどうかの判定に使用されるコードを入力します。値は次のとおりです。

分析証明書を印刷しない: 試験は分析証明書に印刷されません。

全サンプル: すべての試験データが分析証明書に印刷されます。

サンプル平均: 試験結果レコードの平均のみが分析証明書に印刷されます。

最終サンプル: 最新の試験データが分析証明書に印刷されます。最新の試験データとは、試験結果の改訂で最後に入力された試験結果レコードです。

テキスト印刷

試験結果の改訂 (P3711) で入力される品目に関する汎用テキストを分析証明書に印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

1: 印刷する。

0: 印刷しない。

「定義」タブ、「サンプル情報」

サンプルに関する情報を定義します。

サンプル数

試験のために採取するサンプルの数を入力します。

サンプル%

オーダー数量に対するパーセンテージを入力します。この値により、試験結果の改訂で作成されるサンプルの数が決まります。たとえば、「サンプル%」の値が50、オーダー数量が10の場合、「試験結果の改訂」では5つのサンプルが作成されます。作成するサンプルの数を制御するには、このフィールドまたは「サンプル数」フィールドのいずれかを使用します。このフィールドは、試験結果の改訂のオーダー・モードでのみ使用できます。

「サンプル%」の値が100の場合、オーダーのすべてのユニットで試験が必要になります。ロットの合格には、オーダーのすべてのユニットの合格が必要になるため、「合格数量」、「合格%」は使用できません。

サンプル・サイズ

試験のために採取する1サンプルの数量を入力します。これは、システムでは使用されない、参照専用のフィールドです。

サンプル・サイズ単位

試験のために採取するサンプルの単位を識別するコードを入力します。単位には、バレル、ガロン、時間、立方ヤードなどがあります。

合格数量

試験サンプルが品質検査で合格となるために合格する必要がある試験の数量を示します。このフィールドの値は、「サンプル%」の値が100以外であ

る場合に評価されます。「合格数量」の値を使用する場合、試験の定義ごとに所定のフィールドで入力を行う必要があります。値は次のとおりです。

ブランク: 「合格%」の値を適用する。

値を指定: 表示/評価を実行する。

合格%

サンプルが品質検査で合格となるために、合格する必要がある試験の割合を示します。このフィールドの値は、「サンプル%」の値が100以外である場合に評価されます。「合格%」の値を使用する場合、試験の定義ごとに所定のフィールドで入力を行う必要があります。値は次のとおりです。

ブランク: 「合格数量」の値を適用する。

値を指定: 表示/評価を実行する。

「定義」タブ、「ブレンド管理」

JD Edwards EnterpriseOne Blend Managementのサンプルに関する情報を定義します。

ラボ	JD Edwards EnterpriseOne住所録システムのラボのエントリを識別する番号を入力します。
サンプル収集方法	サンプルの収集方法を示すUDC 37/SMの値を入力します。たとえば、タンクの最上層からサンプルを収集する、などです。
集計	サンプルは集計可能か、集計は累計か再利用かを表すUDC 37/CNの値を入力します。
サンプル・コンテナ	サンプルに使用するコンテナを指定するUDC 37/CRの値を入力します。
密閉	サンプル・コンテナの密閉度を指定するUDC 37/CLの値を入力します。
試験結果名	試験結果のグループ化に使用する一意の名前を入力します。
試験結果範囲のコピー	選択すると、「試験結果名」フィールドが変更された場合に試験結果の範囲が自動的にコピーされます。選択を解除すると、試験結果名を変更しても既存の試験結果範囲は上書きされません。

「結果範囲」タブ、「英数字」

結果範囲の選択を行います。

結果の表示方法を指定します。試験の要件を規定するUDCを入力できます。あるいは、UDCのフィールドには何も入力せず、任意の書式で結果を入力することもできます。任意の書式を許可した場合、どのような値が入力された場合も、結果は合格となります。

定義 結果範囲 記述

英数字

☐ 数値

表示小数点以下桁数 0

製品コード 37 品質管理

ユーザー定義コード YN

結果範囲

許容最小値 YES

優先最小値 YES

目標値 YES

優先最大値 YES

許容最大値 YES

結果単位

ブレンド管理

しきい値パーセント .0000

結果持続

結果変換ID

「試験定義の編集」フォーム、「結果範囲」タブ

数値

選択すると、結果の値は数字となり、右揃えで表示されます。

選択を解除すると結果の値は英数字となり、左揃えで表示されます。結果に英数字の値を使用する試験では、英数字と数字間の対応が示されたUDCテーブルの設定を適用できます。これらのテーブルは、結果が最小値と最大値で規定される範囲内にあるかどうかを判別し、結果の評価を行うために使用されます。

表示小数点以下桁数

システムで表示される通貨、金額、数量のフィールドの小数点桁数を規定する値を入力します。

最小値および最大値での小数点桁数、試験結果入力での小数点桁数を決定します。

製品コード

システムを識別するUDC (98/SY)を入力します。値は次のとおりです。

- 01: 住所録
- 03B: 売掛管理
- 04: 買掛管理
- 09: 一般会計
- 11: 多通貨処理

システム・コードとUDCは組み合わせて使用されます。これにより、試験結果が定義されたり、英数字による試験結果が数字コードと対応付けられて、試験が評価されます。

ユーザー定義コード

UDCを含むテーブルを識別するコードを入力します。このテーブルは、UDCタイプと呼ばれることもあります。

システム・コードとユーザー定義コードは組み合わせて使用されます。これにより、試験結果が定義されたり、英数字による試験結果が数字コードと対応付けられて、試験が評価されます。

「結果範囲」タブ「結果範囲」

「結果範囲」タブを選択します。

許容最小値	合格となる試験結果の最小値を入力します。
優先最小値	<p>推奨される試験結果（優先値）の最小値を入力します。この値は、許容最小値以上である必要があります。優先最小値は、顧客の要求よりも詳細で厳格な品質評価を行う際に使用します。</p> <p>分析証明書プログラムの処理オプションを使用すると、分析証明書レポートに優先値を印刷できます。試験の改訂プログラムの処理オプションを使用すると、各優先値と照合を行いサンプルを評価できます。</p>
目標値	試験結果の範囲内で、推奨される、または目標とする試験結果の値を入力します。システムでは目標値に対する検証は実行されないため、これは参照専用のフィールドとなります。
優先最大値	<p>推奨される試験結果（優先値）の最大値を入力します。この値は、許容最大値以下である必要があります。優先最大値は、顧客の要求よりも詳細で厳格な品質評価を行う際に使用します。</p> <p>分析証明書プログラムの処理オプションを使用すると、分析証明書レポートに優先値を印刷できます。試験の改訂プログラムの処理オプションを使用すると、各優先値と照合を行いサンプルを評価できます。</p>
許容最大値	合格となる試験結果の最大値を入力します。
結果単位	試験結果の単位を識別するUDC(37/UM)を入力します。単位には、バレル、箱、立方ヤード、ガロン、時間などがあります。

「結果範囲」タブ、「ブレンド管理」

JD Edwards EnterpriseOne Blend Managementシステムを使用している場合にのみ、フィールドに値を入力します。

しきい値パーセント	前回の結果からの変動に対する許容パーセントを入力します。
結果持続	結果の有効日数を入力します。この値は、結果の有効期限日付の指定に使用されます。
結果変換ID	試験結果の変換に使用する変換テーブルIDを入力します。たとえば、試験結果が華氏で入力されており、記録は摂氏で行う必要がある場合などです。

「記述」タブ、「記述」

「記述」タブを選択します。カテゴリ・コードの値を入力します。

ASTM(米国材料試験協会)推奨の試験手順を指定します。

定義結果範囲記述

カテゴリ・コード

コード1101前工程

コード2204入荷検査

コード3301破壊

コード4401機械工事

コード5

記述

ASTM参照資料D2561-95

試験方法Burst tester

特性

試験持続

「試験定義の編集」フォーム、「記述」タブ

ASTM参照資料（米国材料試験協会参照資料）
ASTM（米国材料試験協会）推奨の試験手順を指定します。

試験方法
品質試験の実行方法についての説明を入力します。試験方法に関する情報は、自社の品質管理部門、顧客の双方にとって有益です。次に例を示します。
試験: 粘性
方法: RVF #4 @10RPM
詳細: RVF粘度計での粘性試験をスピンドル4を使用して10回転/分の回転速度で実行する。

特性
試験対象の品目の属性を入力します。

試験持続
試験の完了までに要する日数を入力します。

試験結果名の設定

「試験結果名の改訂」フォームにアクセスします。

試験結果名 - 試験結果名の改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

試験結果名

PH

記述

pH

英数字

☒ 数値

製品コード

ユーザー定義コード

表示小数点以下桁数

1

結果範囲

許容最小値

.5

優先最小値

.5

目標値

.7

優先最大値

.9

許容最大値

.9

結果単位

ブレンド管理

ブレンド規則

NOCAL

No calculation-value is blank

「試験結果名の改訂」フォーム

試験結果名	試験結果の名前を入力します。
記述	試験結果に関する簡単な情報、備考または説明を入力します。
数値	<p>選択すると、結果の値は数字となり、右揃えで表示されます。選択を解除すると結果の値は英数字となり、左揃えで表示されます。</p> <p>結果に英数字の値を使用する試験では、英数字と数字間の対応が示されたUDCテーブルの設定を適用できます。これらのテーブルは、結果が最小値と最大値で規定される範囲内にあるかどうかを判別し、結果の評価を行うために使用されます。</p>
表示小数点以下桁数	表示される金額または数量のフィールドの小数点桁数を規定する値を入力します。
許容最小値	合格となる試験結果の最小値を入力します。
優先最小値	<p>推奨される試験結果(優先値)の最小値を入力します。この値は、「許容最小値」フィールドに入力した値以上である必要があります。優先最小値は、顧客の要求よりも詳細で厳格な品質評価を行う際に使用します。</p> <p>分析証明書(R37900)プログラムの処理オプションを使用すると、分析証明書レポートに優先値を印刷できます。試験の改訂(P3701)プログラムの処理オプションを使用すると、各優先値と照合を行いサンプルを評価できます。</p>

目標値	試験結果の範囲内で、目標とする、または推奨される試験結果の値を入力します。システムでは目標値に対する検証は実行されません。これは参照専用のフィールドです。
優先最大値	<p>推奨される試験結果（優先値）の最大値を入力します。この値は、「許容最大値」フィールドに入力した値以下である必要があります。優先最大値は、顧客の要求よりも詳細で厳格な品質評価を行う際に使用します。</p> <p>分析証明書（R37900）プログラムの処理オプションを使用すると、分析証明書レポートに優先値を印刷できます。試験の改訂（P3701）プログラムの処理オプションを使用すると、各優先値と照合を行いサンプルを評価できます。</p>
許容最大値	合格となる試験結果の最大値を入力します。
結果単位	試験結果の単位を識別するUDC（37/UM）を入力します。単位には、バレル、箱、立方ヤード、ガロン、時間などがあります。
ブレンド規則	結果のブレンド規則を示すUDC（31B/QB）を入力します。

UDCの入力

試験結果の値として英数字を指定した場合は、英数字の試験結果と各結果に対応する数値を含むUDCテーブル（37/C1）を設定できます。このリストによって、英数字の試験結果が最小値と最大値で規定される範囲内にあるかどうか自動的に評価されます。

各UDCでは、記述に関する2番目のカラムに、英数字によるコードの値を表す数値が格納されています。「記述2」フィールドでは、小数ではなく整数を使用します。

たとえば、色に関する英数字による試験結果について、次のような値を入力するケースなどが考えられます。

- 「記述1」: Clear1（透明1）、「記述2」: 1
- 「記述1」: Yellow2（黄2）、「記述2」: 2
- 「記述1」: Amber3（オレンジ3）、「記述2」: 3

重要: 小数を使う必要がある場合、記述に関する2番目の列の数は、カンマや小数点などの区切り文字などを使用して、小数点を処理する環境に対応した書式にします。試験の改訂プログラム（P3701）で定義した小数点桁数は、UDCリストの小数点桁数と一致している必要があります。設定後に小数点の変更を行った場合、想定外の結果が生成されることがあります。

略式コマンドに「UDC」と入力します。目的のUDCを検索し、「追加」をクリックします。

仕様の定義

この項では、仕様の概要と次の方法について説明します。

- 仕様の改訂（P3702）の処理オプションの設定
- 仕様の定義

仕様について

仕様とは、常に同時に実行される試験をグループ化したものです。仕様の定義時には、どの試験を同時に実行するかを決定します。仕様内で試験に順序を設定した場合、試験結果では設定された順に試験が表示されます。仕様は、特定の事業所固有にすることも、すべての事業所共通にすることも可能です。

仕様の例としては、ソフト・ドリンクの調合に関する仕様などがあります。この場合、カフェイン、色合い、糖分濃度の試験などが組み込まれます。品質試験の合格/不合格は、仕様自体に対してではなく、こうした仕様内の個々の試験に対して判定されます。

注意: 仕様内で試験はカスタマイズできません。試験や仕様のカスタマイズが必要な場合には、優先情報を使用します。

仕様ごとに、次の項目を定義できます。

- 名前
- 記述
- 仕様に組み込む試験

仕様を定義した後に、検討や改訂を行うことができます。また、試験仕様のレポートを印刷することもできます。

注意: ワークフロー承認プロセスを使用している場合、状況が保留のレコードの変更はできません。また、すべての変更は、承認が行われるまでは有効になりません。

事前設定

仕様を定義する前に、次の作業を行う必要があります。

- ワークフローを有効にして承認プロセスが使用できるように、仕様の改訂プログラム (P3702) で処理オプションを設定します。
- 仕様定義への変更が記録されて履歴情報が作成されるように、仕様の改訂プログラムで処理オプションを設定します。

仕様の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
仕様の改訂	W3702C	「品質管理セットアップ」(G3741)、「仕様の改訂」 「仕様の処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。	仕様を定義します。

仕様の改訂 (P3702) の処理オプションの設定

この処理オプションでは、仕様の改訂プログラムのデフォルト処理を指定します。

デフォルト

この処理オプションでは、仕様を表示する際にシステムによって参照される、仕様の状況を指定します。

1. 状況 表示する仕様を絞り込むための状況を指定します。値は次のとおりです。

- 1: 承認待ちの仕様のみを表示します。
- 2: 仕様の履歴情報のみを表示します。
- 3: 却下された変更要求のみを表示します。
- ブランク: アクティブな仕様のみを表示します。

処理

この処理オプションでは、仕様の履歴情報を自動保存するかどうかを指定します。

1. ログ保存

既存の試験定義に対する追加、修正、削除を自動的に記録するかどうかを指定します。ワークフローを有効にした場合、改訂された試験定義が実際に使用可能となるためには、行った追加、修正、削除はすべて承認されている必要があります。こうした変更前トランザクションは、履歴情報として自動的に記録されます。記録された情報は、状況として“履歴”(状況の値: 2)を選択することにより、オンラインやレポートで確認できます。値は次のとおりです。

ブランク: 実行しません。

- 1: 実行します。

ワークフロー

この処理オプションでは、仕様変更の際、ワークフロー承認プロセスを有効にするかどうかを指定します。

ワークフロー

ワークフロー承認プロセスを有効にするかどうかを指定します。ワークフローを有効にした場合、改訂された試験定義が実際に使用可能となるためには、行った追加、修正、削除はすべて承認されている必要があります。値は次のとおりです。

ブランク: 有効にしません。改訂はただちに使用可能となります。

- 1: 有効にします。

改訂が実際に使用可能となるためには承認が必要です。

仕様の定義

「仕様の改訂」フォームにアクセスします。

仕様の改訂 - 仕様の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(E) ロー(R) ツール(T)

仕様

D002

事業所

M30

記述

Fill Tests

状況

改訂レベル

001

カテゴリ・コード

コード 1

140

コード 2

コード 3

302

コード 4

404

コード 5

504

レコード 1 - 5

グリッドのカスタマイズ

	順序	試験 ID	事業所	記述	許容 最小値	優先 最小値	目標値	優先 最大値	許容 最大
<input checked="" type="radio"/>	1	SD-01	M30	Compare color - Test Strip	1	1	2	2	
<input type="radio"/>	2	SD-02	M30	Check fill level	F02	F02	F02	F03	F03
<input type="radio"/>	3	SD-03	M30	Verify safety seal	YES	YES	YES	YES	YES
<input type="radio"/>	4	SD-04	M30	Verify bottles clear of de...	YES	YES	YES	YES	YES
<input type="radio"/>	5								

「仕様の改訂」フォーム

- 事業所

(省略可)事業所を特定するコードを入力します。このフィールドを空白にした場合、仕様はすべての事業所に対して有効になります。
- コード1、コード2、コード3、
コード4 、コード5

仕様をグループに分類する場合に、これらの任意のフィールドで入力を行います。これらのフィールドは、仕様レポート (R37415) とともに使用することで、特定の事業所に関して適用される仕様を管理する場合などに役立てることができます。仕様レポートでデータ選択を設定して、特定の分類コードが割り当てられた仕様のみを印刷できます。
- 順序

優先プロファイル (品目試験仕様) 内で、試験/仕様のソート順序を指定する数字を入力します。
- 試験ID

このフィールドは、「順序」フィールド同様、仕様内での試験のグループ化に使用します。

優先プロファイルの設定

- この項では、優先プロファイルの概要、事前設定、および次の方法について説明します。
- 品質管理優先情報の改訂 (P40318) の処理オプションの設定
 - 品質管理優先マスター・レコードの設定
 - 優先プロファイルの定義
 - 表示基準のカスタマイズ
 - 仕様の分割

優先プロファイルについて

JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムでは、優先プロファイルによって試験や仕様をカスタマイズできます。仕様とは、同時に実行される試験や、類似した機能を提供する試験をグループ化したものです。

優先プロファイルを使用して、顧客、顧客グループ、品目、品目グループを任意に組み合わせて試験や仕様をカスタマイズできます。優先プロファイルは、システムが品目に対して実行する試験を判断する際に使用されます。該当する品目でユーザー定義された優先プロファイルのタイプが条件として適用されます。品質試験は優先情報が関連付けられた品目に対してのみ実行されるため、優先プロファイルによって、品質管理の各種フォームへのアクセス制限もある程度行うことができます。

通常、優先プロファイルは、次のような一貫したビジネス要件が存在する場合に作成します。

- 顧客の仕様書
- 会社による業務方針
- 監督機関による規定

優先情報の例としては、仕入先から品目を受領した時点での、顧客による試験に関する要求があります。顧客は、該当の品目に対して、様々な試験を要請したり、試験のカスタマイズを要求することがあります。

仕様の例としては、ソフト・ドリンクの調合に関する仕様などがあります。この場合、カフェイン、色合い、糖分濃度の試験などが組み込まれます。品質試験の合格/不合格は、仕様自体に対してではなく、こうした仕様内の個々の試験に対して判定されます。

試験/仕様の定義後に、優先プロファイル(優先情報)を設定して、カスタマイズを行うことができます。

優先プロファイルでの階層の設定に基づき、次の項目に対して優先情報を設定できます。

- 顧客
- 顧客グループ
- 品目(製品)
- 品目グループ
- 顧客と品目、または顧客と品目のグループの任意の組合せ

各優先情報を特定の事業所に限定して適用することもできます。

システムで設定した階層に基づき、試験結果を入力した際に表示される優先情報が決定されます。

優先情報は、定義した後に試験結果や部品表の改訂時に検索できるようになります。この情報は、品目に関する事業所情報の確認時や作業オーダーの入力時にも検索できます。

優先マスター・レコードの設定

JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムの優先情報を定義する前に、EnterpriseOne品質管理で使用する優先マスター・レコードを設定する必要があります。優先タイプに対して階層を定義すると、その階層の設定はシステム全体に適用されます。個々の事業所に関して設定を変更することはできません。EnterpriseOne品質管理の優先タイプは、18としてハードコード化されています。

EnterpriseOne品質管理に対して定義した優先階層では、加法的な設定が適用されます。試験結果を入力すると、優先階層で定義された顧客番号/顧客グループ/品目番号/品目グループの組合せに一致するすべての試験が、加法的な設定を使用して検索されます。同一の試験に属する複数のインスタンスが同一のサンプル内で使用されることを回避するため、各タイプで最初に一致した組合せに関してリストされた試験のみが使用されます。

仕様の分割

優先情報の定義後、仕様を分割して、その仕様に対応する試験のグループを検討できます。仕様の分割は、試験定義の値を一時変更する必要がある場合に実行することもあります。ここでは試験/仕様の値をTに設定します。試験/仕様の値がSに設定されている場合は、試験定義の値を一時変更することはできません。

重要: 仕様を分割した場合、元の状態に復元することはできません。仕様を分割すると、その仕様を構成する試験を検討できます。「品質管理優先情報の改訂」フォームで「OK」をクリックするまでは、仕様は実際に分割されていません。優先情報内で仕様の復元が必要な場合は、その優先情報内で個々の試験を削除して、新しい行に仕様を入力します。優先プロファイルで試験レコードや仕様レコードを削除しても、試験マスター・レコードや仕様マスター・レコードへの影響はありません。

事前設定

優先プロファイルを設定する前に、次の作業を行う必要があります。

- 顧客を基準として試験の定義および試験結果の入力を行う場合は、住所録で顧客情報を設定します。
- 品目を基準として試験の定義および試験結果の入力を行う場合は、品目マスター (F4101) と事業所品目テーブル (F4102) に品目番号を設定します。
- 顧客グループまたは品目グループを基準として試験の定義および試験結果の入力を行う場合は、グループを設定します。
- 優先プロファイルで使用する階層を設定します。
- ワークフローを有効にして承認プロセスが使用できるように、品質管理優先情報の改訂プログラム (P40318) の処理オプションを設定します。
- 優先プロファイルへの変更が記録されて履歴情報が作成されるように、品質管理優先情報の改訂プログラムで処理オプションを設定します。

優先プロファイルの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
優先階層の改訂	W40073D	「品質管理セットアップ」 (G3741)、「優先マスター」 「優先マスターの処理」フォームで優先タイプ18を検索し、「ロー」メニューから「階層」を選択します。 「優先階層の改訂」のローとカラムの交差部分に連続番号を入力して、「OK」ボタンをクリックします。	品質管理優先マスター・レコードを設定します。
優先階層の改訂	W40073D	「優先マスターの処理」フォームで優先情報を選択して、「ロー」メニューから「階層」を選択します。	優先階層を定義します。
優先階層の選択	W40073F	「品質管理セットアップ」 (G3741)、「品質管理優先情報の改訂」 「品質管理プロファイルの処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。	優先階層を選択します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
品質管理優先情報の改訂	W40318B	<p>「優先階層の選択」フォームで階層を選択して、「選択」ボタンをクリックします。</p> <p>「品質管理優先情報の改訂」フォームでレコードを選択して、「ロー」メニューから「仕様の分割」を選択します。</p> <p>この仕様に関して分割された試験を確認します。</p>	<p>優先プロファイルを定義します。</p> <p>必要に応じて試験定義の値を一時変更できます。</p> <p>注意: ワークフロー承認プロセスを使用している場合、状況が保留のレコードの変更はできません。また、すべての変更は、承認が行われるまでは有効になりません。</p>
表示基準	W40318D	<p>「品質管理優先情報の改訂」フォームでローを選択して、「ロー」メニューから「表示基準」を選択します。</p>	<p>表示基準をカスタマイズします。</p> <p>ここで行った選択に基づき、「試験結果の改訂」フォームの表示内容が制御されます。</p> <p>特定のプログラムで品質試験を実行しない場合は、該当するオプションのチェックボックスの選択が解除されていることを確認します。</p> <p>たとえば、作業オーダーの在庫完了時に試験結果を入力するには、「製造完了」チェックボックスが選択されていることを確認します。この設定により、作業オーダー完了の入力時に、試験結果の改訂プログラム (P3711) が有効になります。</p>
品質管理優先情報の改訂	W40318B	<p>「品質管理セットアップ」(G3741)、「品質管理優先情報の改訂」</p> <p>「品質管理プロファイルの処理」フォームで仕様を選択して、「選択」ボタンをクリックします。</p>	<p>優先情報を構成する試験/仕様を定義します。</p>

品質管理優先情報の改訂 (P40318) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト値

この処理オプションでは、優先情報を表示する際にシステムによって参照される、優先情報の状況を指定します。

状況

表示する品質管理優先情報を絞り込むための状況の値を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: アクティブな優先情報のみを表示します。

1: 承認待ちの優先情報のみを表示します。

2: 優先情報の履歴情報のみを表示します。

3: 却下された変更要求のみを表示します。フォームでは、このフィルタを変更してすべての状況に対する値を表示できます。

処理

この処理オプションでは、優先情報の履歴情報を自動保存するかどうかを指定します。

ログ保存

品質管理優先情報に対する追加、修正、削除の記録を有効にするかどうかを指定します。記録を有効にすると、新しい変更が適用される前に、その時点でアクティブな品質管理優先情報のトランザクションが自動的に保存されます。こうした変更前トランザクションは、履歴情報として記録されず。記録された情報は、状況として“履歴”(状況の値: 2)を選択することにより、オンラインやレポートで確認できます。値は次のとおりです。

ブランク: 有効にしません。

1: 有効にします。

ワークフロー・オプション

この処理オプションでは、優先情報変更の際、ワークフロー承認プロセスを有効にするかどうかを指定します。

ワークフロー

ワークフロー承認プロセスを有効にするかどうかを指定します。ワークフローを有効にした場合、改訂された品質管理優先情報が有効化され実際に使用可能となるためには、行った追加、修正、削除はすべて承認されている必要があります。値は次のとおりです。

ブランク: 有効にしません。改訂はただちに使用可能となります。

1: 有効にします。改訂が実際に使用可能となるためには承認が必要です。

品質管理優先マスター・レコードの設定

「優先階層の改訂」フォームにアクセスします。

優先プロファイルの定義

「品質管理優先情報の改訂」フォームにアクセスします。

品質管理優先情報の改訂 - 品質管理優先情報の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

顧客No. 4244 Creekside Warehouse 事業所 M30

顧客グループ

品目No. 4100 Sport Drink, Lime

品目グループ

レコード 1-3 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	ソート 順序	試験/ 仕様	試験仕様	事業所	有効 開始	有効 終了	試験 タイプ	許容 最小値
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	1	T	SC-01	M30	1999/01/19	2010/12/31	R	.80
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	2	T	SD-05	M30	1999/01/19	2010/12/31	R	YES
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	3							

「品質管理優先情報の改訂」フォーム

見出し領域に表示されるフィールドは、選択した階層に応じて変わります。

顧客No. 従業員、応募者、関連会社、顧客、仕入先、テナント、所在地などの、JD Edwards EnterpriseOne住所録システムの項目を識別する番号を入力します。

品目No. 品目に割り当てられる番号を入力します。略式、詳細形式、第3品目番号形式があります。

ソート順序 優先プロファイル(品目試験仕様)内で、試験/仕様のソート順序を指定する数字を入力します。

試験/仕様 優先プロファイル(品目試験仕様)内のレコードが試験、仕様のいずれであるかを示すコードを入力します。値は次のとおりです。

T(試験): 元の試験定義の試験情報やサンプル情報を、該当のフィールドに値を入力することによって一時変更できます。一時変更すると、優先情報にはその値が表示されます。それ以外の場合は、優先情報にはデフォルト値が表示されます。

S: (仕様)

試験仕様 任意の品目に実施する試験に対する一意のIDを入力します。次に例を示します。

COL: 色に関する試験

DENS: 密度に関する試験

CL-2: 明度に関する試験

試験タイプ 試験結果を入力した際の試験の処理方法を指定する値を入力します。値は次のとおりです。

R(必須): 試験で合格となるためには、結果の値が許容範囲内である必要があります。必須として定義された各試験で結果を入力しないと、品目は品質検査で合格となりません。

O(任意): 結果の入力時、値の入力は任意です。このタイプが選択された各試験では、結果の入力は必須ではありません。ただし、不合格となるような結果を入力した場合、その品目は品質検査で不合格となります。

G(保証済): 結果の入力時、値の入力は任意です。このタイプが選択された試験では、「試験の改訂」の試験の表示に関するフィールドを使用することによって、試験結果の入力時に表示を行うかどうかを制御できます。また、この試験は、分析証明書に印刷されます。

結果単位

試験結果の単位を識別するUDC(37/UM)を入力します。単位には、バレル、箱、立方ヤード、ガロン、時間などがあります。

小数点以下桁数

システムで表示される通貨、金額、数量のフィールドの小数点桁数を規定する値を入力します。

表示基準のカスタマイズ

「表示基準」フォームにアクセスします。

作業

次に示すいずれかの製造関連プログラムから試験結果の改訂プログラム(P3711)にアクセスした場合に、「試験結果の改訂」フォームに試験を表示するかどうかを指定する場合に選択します。

連産品/副産物完了(P31115)

スーパー・バックフラッシュ(P31123)

作業オーダー時間入力(P311221)

グリッド・カラムに「1」を入力した場合、またはこのチェックボックスを選択した場合、「試験結果の改訂」フォームに試験が表示されます。作業順序や工程タイプとともにこの値を使用して、作業や工程タイプでの試験の表示を制御できます。

入荷作業工程

作業工程が指定されたオーダーが製造作業オーダーである状況で、入荷工程の移動/処分プログラム(P43250)から試験結果にアクセスした場合に、「試験結果の改訂」フォームに試験を表示するかどうかを指定する場合に選択します。

作業順序とともにこのフィールドを使用して、工程作業での試験の表示を制御できます。

製造完了

次に示すいずれかの製造関連プログラムから試験結果の改訂プログラム(P3711)にアクセスした場合に、「試験結果の改訂」フォームに試験を表示するかどうかを指定する場合に選択します。

作業オーダー完了(P31114)

完了ワークベンチ(P3119)

グリッド・カラムに「1」を入力した場合、またはこのチェックボックスを選択した場合、「試験結果の改訂」フォームに試験が表示されます。

入荷確認

入荷確認(購買オーダー別/品目別)プログラム(P4312)から試験結果にアクセスした場合に、「試験結果の改訂」フォームに試験を表示するかどうかを指定する場合に選択します。

入荷確認の作業工程

作業工程が指定されたオーダーが購買オーダーである状況で、入荷工程の移動/処分プログラム(P43250)から試験結果にアクセスした場合に、「試

	<p>験結果の改訂」フォームに試験を表示するかどうかを指定する場合に選択します。</p> <p>作業順序とともにこのフィールドを使用して、作業での試験の表示を制御できます。</p>
出荷確認	<p>出荷確認プログラム(P4205)から試験結果にアクセスした場合に、「試験結果の改訂」フォームに試験を表示するかどうかを指定する場合に選択します。</p>
バルク積荷の確認	<p>次に示すいずれかのプログラムから試験結果にアクセスした場合に、「試験結果の改訂」フォームに試験を表示するかどうかを指定する場合に選択します。</p> <p>オーダー別バルク積荷確認/トリップ別バルク積荷確認(P49510)</p> <p>梱包製品積荷確認(P49530)</p>
作業順序	<p>「試験結果の改訂」フォームに試験を表示する製造作業または入荷工程のステップを示す番号を入力します。</p>
タイプ	<p>作業工程タイプを示すUDC(40/TR)を入力します。用途に応じて、様々な作業工程指示のタイプを定義できます。次に例を示します。</p> <p>M: 標準製造工程</p> <p>RWK: 再作業工程</p> <p>RSH: 簡易工程</p> <p>工程タイプは、作業オーダー見出しに定義します。作業オーダーの作業工程で定義した特定の工程タイプが使用されます。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne 製造原価計算システムおよびJD Edwards EnterpriseOne能力所要量計画システムでは、Mタイプの作業工程のみが使用されます。</p>

注意: 優先情報の要素として仕様を指定した場合、仕様全体に対する表示基準を設定できます。仕様に対して設定した表示基準は、仕様内のすべての試験に対して適用されます。

仕様の分割

「品質管理優先情報の改訂」フォームにアクセスします。

承認プロセスの処理

この項では、承認プロセスの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 試験、仕様および優先情報の改訂
- 改訂の承認

承認プロセスについて

試験、仕様、優先情報への変更に対する承認が必要である場合、ワークフロー承認プロセスを有効にして、承認ワークベンチ・プログラム (P37300) を使用できます。これにより、自動化された承認プロセスを介した変更の適用が可能になります。

次に示すプログラムで対応する処理オプションを設定して、承認プロセスのワークフローを有効にします。

- 試験の改訂 (P3701)
- 仕様の改訂 (P3702)
- 品質管理優先情報の改訂 (P40318)

承認ワークベンチ・プログラムは、多数の変更を伴う承認プロセスの効率化に特に役立ちます。特定の承認者に対する承認メッセージがすべて表示されるため、承認者はまとめて回答を行うことができます。

ワークフローを有効化した場合、いずれかのフィールドに対して変更が行われると、ワークフロー承認プロセスが開始されます。すべての改訂トランザクションが、状況として“保留”を割り当てられ開始されます。指定された承認者は、変更を検討して、その変更を承認または却下します。たとえば、試験結果の可否に関する許容最小値および許容最大値が変更されたが、顧客の要件に基づきそれを却下しなければならないケースなどが考えられます。

改訂を却下すると、変更を行った担当者に対して却下を通知するメッセージが送信されます。改訂を承認すると、変更内容が適用され、変更を行った担当者に対して承認を通知するメッセージが送信されます。

保留レコード、却下レコード、および履歴レコードは変更できません。保留レコードを変更しようとする、そのレコードは承認待ちであることを示すメッセージが表示されます。

注意: 仕様の改訂レベルは、参照専用の情報です。

試験、仕様、優先情報の改訂

試験、仕様、優先情報は、設定後に改訂を行うことができます。試験、仕様、優先情報での改訂のステップは、基本的には同一です。変更がいつ反映されるかは、ワークフロー承認プロセスによって決定されます。

- ワークフロー承認プロセスを有効化しなかった場合、行った変更はただちに適用されます。
- ワークフロー承認プロセスを有効化した場合、変更内容はワークフロー承認プロセスが完了するまでは適用されません。

保留レコードの承認処理が行われていない状況で、アクティブなレコードのみを変更できます。

ログ保存を有効化した場合、すべての変更に対して履歴レコードが保存されます。履歴情報を記録するためにワークフローを有効化する必要はありません。

「試験定義の改訂」フォームで試験情報を必要に応じて改訂して、「OK」をクリックします。ワークフローの処理オプションが有効になっている場合は、「OK」をクリックすると承認プロセスが開始されます。

改訂の承認/却下

試験、仕様、優先情報の改訂を行うと、配布リストに指定されたメンバーに対して承認メッセージが送信されます。試験、仕様、優先情報での承認の処理順序は、基本的には同一です。品質管理承認プログラム (P37300) を使用して、改訂の承認/却下を行うことができます。

複数の改訂要求を処理する場合に、それぞれの要求の承認フォームにアクセスすることなく、承認/却下を行うことができます。承認/却下を行うと、該当の改訂要求は承認ワークベンチに表示されなくなります。

注意: 品質管理に関する改訂の承認/却下は、JD Edwards EnterpriseOneワークフロー管理システムの従業員ワーク・センターを使用して行うこともできます。

事前設定

承認プロセスの処理を実行する前に、次の作業を行う必要があります。

- ワークフロー承認プロセスを設定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Workflow Tools Guide

- 次に示すプログラムで処理オプションを確認し、ワークフロー承認プロセスが有効化されていることを確認します。
 - 試験の改訂 (P3701)
 - 仕様の改訂 (P3702)
 - 品質管理優先情報の改訂 (P40318)
- ワークフロー管理で試験、仕様、優先情報の変更を担当する承認者の配布リストを設定します。
- 承認ワークベンチ・プログラム (P37300) の「承認担当者」フィールドに対する権限の割当をシステム管理者に依頼します。

変更の承認に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
試験定義の編集	W3701A	「品質管理セットアップ」(G3741)、「試験の改訂」 「試験定義の処理」フォームで試験を選択して、「選択」ボタンをクリックします。	試験、仕様および優先情報の改訂を行います。
品質管理承認ワークベンチ	W37300C	「品質管理セットアップ」(G3741)、「承認ワークベンチ」	改訂を承認します。

試験、仕様、優先情報の改訂

「試験定義の編集」フォームにアクセスします。

試験の改訂 - 試験定義の編集 i ?

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

試験ID	PT-01	事業所	M30
記述	Bottle pressure test	状況	<input type="checkbox"/> 有効承認済み
有効開始	1998/01/01	終了	2015/12/31

定義 **結果範囲** **記述**

定義

試験タイプ	必須	
試験の表示/評価	全サンプル	
試験の印刷	全サンプル	<input checked="" type="checkbox"/> テキスト印刷

<p>サンプル情報</p> <table style="width: 100%;"> <tr><td>サンプル数</td><td>1</td></tr> <tr><td>サンプル%</td><td></td></tr> <tr><td>サンプル・サイズ</td><td>1</td></tr> <tr><td>サンプル・サイズ単位</td><td>BT</td></tr> <tr><td>合格数量</td><td>1</td></tr> <tr><td>合格%</td><td></td></tr> </table>	サンプル数	1	サンプル%		サンプル・サイズ	1	サンプル・サイズ単位	BT	合格数量	1	合格%		<p>ブレンド管理</p> <table style="width: 100%;"> <tr><td>ラボ</td><td></td></tr> <tr><td>サンプル収集方法</td><td></td></tr> <tr><td>集計</td><td>非累計</td></tr> <tr><td>サンプル・コンテナ</td><td></td></tr> <tr><td>密閉</td><td></td></tr> <tr><td>試験結果名</td><td></td></tr> <tr><td colspan="2"><input checked="" type="checkbox"/> 試験結果範囲のコピー</td></tr> </table>	ラボ		サンプル収集方法		集計	非累計	サンプル・コンテナ		密閉		試験結果名		<input checked="" type="checkbox"/> 試験結果範囲のコピー	
サンプル数	1																										
サンプル%																											
サンプル・サイズ	1																										
サンプル・サイズ単位	BT																										
合格数量	1																										
合格%																											
ラボ																											
サンプル収集方法																											
集計	非累計																										
サンプル・コンテナ																											
密閉																											
試験結果名																											
<input checked="" type="checkbox"/> 試験結果範囲のコピー																											

「試験定義の編集」フォーム

改訂の承認

「品質管理承認ワークベンチ」フォームにアクセスします。

試験の改訂要求を承認するには、次のように付加的な情報を検討します。

- レコードを選択し、続いて「ロー」メニューから「要求を表示」を選択して、要求された試験の改訂の詳細を確認します。
- レコードを選択し、続いて「ロー」メニューから「オリジナルを表示」を選択して、元の試験定義を確認します。
- 試験の改訂を承認する場合は、その試験を選択して、「ロー」メニューから「承認」を選択します。

試験の改訂が承認されると、その改訂は承認待ちの改訂のリストから削除されます。配布リストに設定されているすべての承認担当者が試験の改訂を承認すると、該当の改訂要求の状況は“保留”から“アクティブ”に変更され、要求の作成者に対してメッセージが送信されます。改訂のログ保存を有効にしている場合は、履歴レコードの作成も行われます。

- 試験の改訂を却下する場合は、その試験を選択して、「ロー」メニューから「却下」を選択します。

この場合、試験の改訂要求を却下した理由を説明するテキストを入力する必要があります。

配布リストに設定されている承認担当者のいずれかが試験の改訂要求を却下すると、該当の改訂要求の状況は“保留”から“却下”に変更され、その要求の作成者に対してメッセージが送信されます。

試験/仕様の検討

この項では、試験/仕様の使途先プログラムの概要と試験/仕様の検討方法について説明します。

試験/仕様の使途先プログラムについて

試験/仕様の使途先プログラム(P37202)を使用して、品質試験で使われる試験/仕様が含まれる優先プロファイルを特定できます。このプログラムは、優先プロファイル、仕様、試験の検討や改訂でも使用できます。

試験/仕様の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
品質管理優先情報の改訂	W40318B	<p>「品質管理セットアップ」(G3741)、「試験/仕様の使途先」</p> <p>「試験/仕様の使途先」フォームで試験または仕様を選択して、「ロー」メニューから「優先情報」を選択します。</p> <p>「品質管理優先情報の改訂」フォームで優先情報を検討または変更します。</p> <p>その他の変更を行う場合は、レコードを選択し、「ロー」メニューから該当するオプションを選択します。</p> <p>「OK」をクリックします。</p>	試験/仕様を検討および改訂します。

試験/仕様の検討

「品質管理優先情報の改訂」フォームにアクセスします。

試験結果トレースのための組込規則の設定

試験結果をトレースするには、組込規則の設定が必要です。組込規則はUDC 37/DCで、UDCにはトレースする伝票タイプを指定する必要があります。個々のロットで試験結果のトレースを行う際、このコードによって、処理される品目の元帳トランザクションを制限できます。どのロットが親ロットに含まれているかを確認したり、親ロットや個々のロットに対するすべての試験を確認できます。トレースは、組立品の構成部品や再分類された品目に対する試験結果を確認する際に活用できます。

ロットのトレースは、対応するトランザクション(入庫、出庫、完了、受注オーダーなど)と関連付けられて実行されます。組込規則で伝票タイプを指定しなかった場合、ロットのトレースは停止されます。たとえば、組込規則で作業オーダー完了の伝票タイプを指定しなかった場合、トレースは作業オーダー完了トランザクションで停止されます。

略式コマンドに「UDC」と入力します。目的のUDCを検索し、「追加」をクリックします。

記述2

システムのフィールドの詳細を説明するテキストを追加します。

記述の最初の文字としてMまたはIを入力すると、自動的に集約されます。このフィールドは、作業オーダー完了トランザクションおよび作業オーダー出庫トランザクションとともに使用します。

EnterpriseOne品質管理に関する顧客請求指示の設定

この項では、顧客請求指示の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 請求指示を設定する顧客の選択
- JD Edwards EnterpriseOne品質管理に関する顧客請求指示の設定

顧客請求指示について

JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムを使用している場合、顧客請求指示によって、顧客に分析証明書を提出する必要があるかどうかを指定する必要があります。顧客請求指示を設定して、特定の顧客への分析証明書を出荷が確定した時点で自動的に作成できます。

分析証明書とは、顧客に販売した品目のロットに関する試験内容と試験結果が示された文書のことです。

事前設定

分析証明書に印刷される試験を制御するため、試験の印刷に関する値が正しく設定されていることを確認します。

EnterpriseOne品質管理に関する顧客請求指示の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
顧客マスターの処理	W03013A	「顧客の改訂」(G4221)、 「顧客請求指示」	請求指示を設定する顧客を選択します。
請求情報	W03013E	「顧客マスターの処理」フォームで顧客を選択して、「選択」ボタンをクリックします。 「顧客マスターの改訂」フォームで、「フォーム」メニューから「請求情報」を選択します。 「請求情報」フォームの「請求1」タブで「分析証明書の印刷」チェックボックスを選択します。	JD Edwards EnterpriseOne品質管理に関する顧客請求指示を設定します。

請求指示を設定する顧客の選択

「顧客マスターの処理」フォームにアクセスします。

名称	宛名を示すテキストを入力します。このフィールドは、英字で40文字まで入力可能であり、様々なフォームやレポートに表示されます。入力にはダッシュ、カンマ、およびその他の特殊文字を使用できますが、このフィールドを使用して名前を検索する際は、これらの記号や特殊文字は検索対象にはなりません。
検索タイプ	<p>検索対象となる住所録レコードの種類を指定するUDC (01/ST)を入力します。値は次のとおりです。</p> <p>E: 従業員 X: 元従業員 V: 仕入先 C: 顧客 P: 見込客 M: 郵送先リスト TAX: 納税先</p>

EnterpriseOne品質管理に関する顧客請求指示の設定

「請求情報」フォームにアクセスします。

分析証明書の印刷	分析証明書を印刷する場合に選択します。選択を解除すると、顧客グループを対象に分析証明書レポートが実行された場合、特定の顧客の分析証明書は印刷されません。
----------	------------------------------------------------------------------------------

注意: この機能は、JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムが使用されており、かつ分析証明書が作成されている場合にのみ有効となります。

第 4 章

試験結果の処理

この章では、試験結果の処理の概要と次の方法について説明します。

- 結果を入力する試験の選択
- 試験結果の入力
- 試験結果に関するテキストの入力
- 試験状況の変更
- 追加サンプルの作成
- 試験結果の検討
- 外部の試験結果の処理
- ロット番号による試験結果の検討
- 試験結果のトレース
- 不合格ロットの管理
- 優先プロファイルによる試験済ロットの検討

試験結果の処理について

ここでは、次の事項について説明します。

- 試験結果を処理する機能
- 試験結果の処理
- 試験結果の入力フォーマット
- ロット状況
- サンプルの自動採番
- システムの統合

試験結果を処理する機能

JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムを設定した後、優先プロファイルで定義したビジネス・サイクルにおける適切なタイミングで、サンプルを収集し、品質試験を実行します。次に、品目に対して試験結果を入力し、検討を行います。たとえば、糖分濃度を検査しているソフト・ドリンクのサンプルが糖分0.20%であるというような試験結果が例としてあげられます。

試験結果の処理は、通常、JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムから行います。

次のタスクを実行する場合、JD Edwards EnterpriseOne品質管理のプログラムに他のシステムからアクセスして試験結果を処理することもできます。

- 購買オーダーの品目に関する入荷情報の入力
- 入荷確認工程の作業段階における入荷品目の移動のトラッキング
- 製造工程の各作業における完了状況のトラッキング
- 品目の製造工程後の完了処理と在庫への移動
- 出荷の確認

JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムの試験処理情報は、次のプログラムからアクセス可能です。

品質管理データ	プログラム
製造現場管理	製造作業オーダー処理 (R31410) 作業オーダー完了 (P31114) スーパー・バックフラッシュ (P31123) 作業オーダー時間入力 (P311221)
調達管理	入荷確認 (P4312) 入荷工程の移動/処分 (P43250)
受注管理	出荷確認 (P4205)

試験結果の処理

試験結果の収集は、品目の特性に関する品質評価の後に行います。たとえば、ソフト・ドリンクのカフェインに関する試験には、品目のサンプルの採取やカフェイン濃度の測定などが含まれます。

ビジネス・サイクルにおける様々なタイミングで試験結果の収集と入力を行った後、それらの試験結果を処理します。試験結果は、ユーザーが試験に対して事前に設定した最小値/最大値、および合格数量か合格パーセントのいずれかと照合されます。合格または不合格となったサンプルの数に基づき、品質検査でのロットの可否を判定するための評価が実行されます。ロットの状況は、不合格ロットの状況に関する処理オプションでユーザーが指定した値に自動的に設定されます。

試験結果の入力フォーマット

試験結果は、優先情報フォーマット、オーダー番号フォーマット、コンパートメント・フォーマットのいずれかで入力できます。使用するフォーマットは、試験結果の入力プログラム (P3711) の「結果入力フォーマット」処理オプションの設定によって決まります。見出し領域の情報に基づき、優先プロファイルから試験やサンプルが選択されます。使用する試験結果のフォーマットは、処理するアクティビティによって異なる場合があります。必要とされる情報は、フォーマットによって異なります。

次の表で、各フォーマットについて説明します。

フォーマット	説明
優先情報フォーマット	購買オーダー、作業オーダー、受注オーダーのいずれかの数量に関する試験結果を入力します。在庫内の既存ロットや新規作成されたロットに関する試験結果を入力することもできます。
オーダー番号フォーマット	材料の調達、製造、販売、または輸送に関するアクティビティの一部として試験結果を入力します。このフォーマットを使用する場合、試験結果の入力プログラム (P3711) には、入荷確認 (P4312)、出荷確認 (P4205)、作業オーダー完了 (P31114) などの他のプログラムからアクセスします。
コンパートメント番号フォーマット	このフォーマットは、JD Edwards EnterpriseOne 輸送管理システムで積荷確認の一部として試験結果を入力する場合にのみ使用します。積荷タイプおよび品質管理優先情報の設定に基づき、積荷確認でコンパートメント割当済積荷に関して入力が必要とされている試験結果を入力します。パッケージ品目やバルク品目に関する試験結果を設定することもできます。

ロット状況

ロット状況によって、ロットが保留中であるか出荷用に引当可能であるかが示されます。たとえば、受注オーダーに対応するため、顧客の指定を満たしている試験済ロットを検索しなければならない場合があります。ロットが品質検査に合格し、かつ顧客の指定を満たしている場合、その顧客へのお荷用に引き当てることができます。

ロット状況は、次に示すような、不合格ロットと合格ロットに関する処理オプションの設定によって決まります。

- 不合格ロット状況と合格ロット状況に関する処理オプションを設定できます。これにより、試験が完了して品質検査で合格となる前にロットの販売や出荷が行われてしまう、という事態を防ぐことができます。
- 処理オプションでは、ロットが在庫に移動された時点でただちに状況を保留にするように設定できます。これは、品質検査に合格しているかどうか、試験が未実施であるかどうかにかかわらず設定可能です。

例として、ロット数量でまだ品質試験が行われていないことを示すためにロット状況 Q を使用するケースが考えられます。購買シナリオでは、このロット状況は、ユーザー定義されたビジネス・プロセスとともに機能して、試験が未実施のロットが製造に使用されることを防ぎます。購買した材料のロットの試験が行われた後、ロット状況を F 検査に不合格となったことを示します) やブランク (検査に合格し引当可能となったことを示します) に設定します。または、ビジネス・プロセスを定義して、別のロット状況によって使用可能な材料を示すように指定します。ただし、引当可能とみなされるのはロット状況がブランクの場合のみであるという点に注意してください。

不合格ロット状況と合格ロット状況に関する処理オプションを設定しなかった場合は、すべてのロットが販売や出荷の対象として認められます。ロットが引当可能であるとみなされるため、在庫から品目の選択を行うすべてのプログラムでロットの選択が可能です。

次のような特性を持つ試験については、試験結果を任意の書式で入力できます。

- 表示形式が英数字である (「試験定義の改訂」フォームの「数値」チェックボックスの選択が解除されている)。
- ユーザー定義コード・リストが設定されていない。

ユーザー定義コード・リストが設定されていない試験では、試験結果に表示される値がブランク以外であればロットは合格となります。

サンプルの自動採番

JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムには、試験結果の入力時にサンプルの自動採番を行う独自のシステムが用意されています。特定のサンプルの試験結果をトラッキングする場合に、サンプル番号の割当てで自動採番が使用されるように品質管理システムを設定できます。自動的に割り当てられた番号は、変更することも可能です。サンプルの自動採番に関する処理オプションを設定しなかった場合は、試験結果ごとにサンプル番号を入力する必要があります。

サンプルの再試験が必要な場合、新規の試験結果に対しては、既存のサンプル番号か、または新しいサンプル番号を割り当てることができます。どちらを割り当てるかは、新しいサンプルを取得したかどうかによって決まります。元のサンプルで再試験を行った場合は、その試験に同一のサンプル番号を割り当てることができます。

サード・パーティ・システムから外部の試験結果をロードした場合は、受け取ったデータでサンプル番号が指定されていない場合にのみ、JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムによって固有のサンプル番号が割り当てられます。

注意: “サンプル番号”を“サンプル数”と混同しないようにしてください。“サンプル番号”は、同一サンプル内の試験のグループを識別します(「50002」など)。“サンプル数”は、試験で採取されるサンプルの数を示します(「3」など)。

システムの統合

優先プロファイルの設定に基づき、次のプログラムから「試験結果の改訂」フォームにアクセスできます。

- 作業オーダー完了 (P31114)
- 作業オーダー時間入力 (P311221)
- 完了ワークベンチ (P3119)
- 出荷確認 (P4205)
- 入荷確認 (P4312)
- 入荷工程の移動/処分 (P43250)

次の表で、様々なプログラム機能での試験結果の使用方法を説明します。

プログラム機能	試験結果の使用方法
作業オーダー入力	作業オーダーを作成する際に、品質管理優先情報の改訂プログラム (P40318) を使用して、親品目の試験を管理できます。

プログラム機能	試験結果の使用方法
作業オーダー完了	<p>作業オーダー完了の入力で、完了数量や仕損数量などを入力する際に、次の処理を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 完了時に試験を必要とする作業オーダーの親品目が存在する場合に、その品目の試験の改訂プログラム(P3701)にアクセスする。 作業オーダーの汎用テキストを検討する。 デフォルトのロット、作業オーダー、作業の状況に関する処理オプションを設定する。
スーパー・バックフラッシュ	<p>作業オーダーで労務コストや材料のバックフラッシュを行う際に、次の処理を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 試験が必要な親品目が存在する場合に、その品目の試験結果の入力プログラム(P3711)にアクセスする。 親品目および作業に関する汎用テキストを検討する。 <p>注意: 試験結果が入力される引落点などの作業オーダー工程のステップは、ユーザーが定義します。</p>
作業オーダー時間入力	<p>作業オーダーに対して実際の作業時間や作業量を割り当てる際に、次の処理を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 試験を必要とする作業完了済品目の試験結果の入力プログラムにアクセスする。 親品目に関する汎用テキストを検討する。 作業オーダー状況および作業状況に関する処理オプションを設定する。 <p>注意: 試験結果の入力は、作業オーダーの特定の工程のステップに対して行います。</p>
部品表改訂	<p>部品表を管理する際に、品質管理優先情報の改訂プログラムを使用して、親品目の試験を管理できます。</p>
入荷確認	<p>品目を入荷する際に、試験を必要とする品目の試験結果の入力プログラムにアクセスできます。</p>
入荷工程	<p>入荷工程のプロセス内で商品の所在を確認したり、別の作業への移動を行う際に、試験を必要とする品目の試験結果の入力プログラムにアクセスできます。</p>
受注オーダー入力	<p>受注オーダーを入力する際に、品目検索プログラム(P41200)を使用して、受注オーダーに表示される顧客や品目の品質基準を満たすロットを選択できます。</p>

結果を入力する試験の選択

この項では、試験結果を入力する機能の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 優先情報フォーマットでの試験の選択
- オーダー番号フォーマットでの試験の選択

試験結果を入力する機能について

品目やロットに関する試験結果の入力は、JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムのメニューや、JD Edwards EnterpriseOne製造管理システムおよび流通管理システムの様々なプログラムから実行できます。製造管理システムまたは流通管理システムのプログラムから試験結果の入力プログラム(P3711)にアクセスした場合、見出し領域の情報は自動的に入力されます。オーダー見出し情報とユーザー定義による優先プロファイルに基づき、結果を入力する適切な試験セットが選択されます。

注意: オーダー番号フォーマットで試験結果を初めて追加する場合は、「試験結果の入力」のメニューオプションは使用できません。この場合、「試験結果の改訂」フォームには、入荷確認(P4312)、出荷確認(P4205)、作業オーダー完了(P31114)などのオーダー処理プログラムからアクセスする必要があります。これにより、優先プロファイルから適切な試験が選択されます。

事前設定

結果を入力する試験を選択するには、試験結果の入力プログラム(P3711)であらかじめ次の処理オプションを設定しておく必要があります。

- 結果入力フォーマット
- サンプルの自動採番の有効化
- 試験結果の検索
- 不合格ロットの状況
- 合格ロットの状況
- 製造作業オーダー完了時の試験結果の入力では、優先プロファイル内の少なくとも1つの試験に関して、「表示基準」フォーム(W40318D)の「製造完了」チェックボックスが選択されていることを確認してください。

このチェックボックスを選択することによって、「作業オーダー完了の詳細」フォームの「完了後に試験結果を入力」チェックボックスが選択され、作業オーダーの数量を入力すると試験結果の入力プログラムが有効になります。

結果を入力する試験の選択に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
試験結果の処理	W3711A	「品質管理日次処理」(G3711)、「試験結果の入力」 「試験結果の処理」フォームで「検索」ボタンをクリックし、試験を選択します。	優先情報フォーマットで試験を選択します。
作業オーダー完了の詳細	W31114B	「日次オーダー報告 - 組立製造」(G3112)、「オーダーの完了」 「作業オーダー完了の処理」フォームで「検索」ボタンをクリックし、作業オーダーを選択します。「ロー」メニューの「改訂」を選択します。	オーダー番号フォーマットで試験を選択します。

優先情報フォーマットでの試験の選択

「試験結果の処理」フォームにアクセスします。

オーダー番号フォーマットでの試験の選択

「作業オーダー完了の詳細」フォームにアクセスします。

オーダーの完了 - 作業オーダー完了の詳細

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

オーダーNo./タイプ記述
453499
WO
Touring Bike, Red
事業所
M30

品目No.
220
Touring Bike, Red

現行の状況
10
オーダー検討済み
理由コード

更新状況
45
資材出庫済み
☐ 完了後に試験結果を入力

数量
ロット保管場所

完了日付
2009/03/05
オーダー完了率
.00

最終完了日付

完了数量
仕損数量
オーダー数量
累計完了数量
累計仕損数量

トランザクション数量
単位
EA
数量(2次単位)
単位

74

「作業オーダー完了の詳細」フォーム

Copyright © 2003, 2008, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

47

オーダー番号フォーマットで試験を選択するには、次の手順に従います。

1. 「完了数量」フィールドに値を入力します。
2. 「ロット/保管場所」タブをクリックして、「ロット/シリアル」フィールドに数値を入力するか、数値が入力されていることを確認します。
3. 「OK」をクリックします。

「試験結果の改訂」フォームが表示されます。ロット管理されている品目の場合、見出し領域に表示される、オーダーの数量に対して生成されたロット番号は編集できません。

試験結果の入力

この項では、試験結果の概要および試験結果の入力方法について説明します。

試験結果について

試験結果を入力すると、それらの結果は自動的に処理され、収集した結果が定義した試験で合格となるかどうか判定されます。試験結果は、最小値および最大値と比較されます。続いて、ユーザーが「試験定義の改訂」フォームの「試験の表示/評価」フィールドで試験に対して定義した値に基づいて、各試験の「合否」フィールドにそれぞれ値が設定されます。

各サンプルが個別に評価され、続いて、ロット状況を判定するために、試験セット全体の状況が評価されます。ロットの評価では、試験が読み込まれ、試験の評価方法を特定するために「試験の表示/評価」フィールドの値が取得されます。

「試験の表示/評価」フィールドの値を次に示します。

フィールドの値	説明
1	<p>全サンプル。すべてのサンプルでの合格が必要です。ただし、全サンプルの数よりも小さい値を「合格数量」や「合格%」に設定してある場合は除きます。「合格数量」、「合格%」のフィールドがブランクの場合、試験の合格には、すべてのサンプルの合格が必要であるとみなされます。政府による規制が行われている材料で実行される試験では、すべてのサンプルが一定の最低基準を満たしていることが必要となる場合があります。</p> <p>「合格数量」、「合格%」のフィールドは必須フィールドではなく、「試験の表示/評価」フィールドの値が1である場合にのみ使用できます。</p>
2	<p>全サンプルの平均値。すべてのサンプルの試験結果が加算されて、平均値が算出されます。平均値は、試験に対して定義した最小値と最大値の範囲内に収まっている必要があります。それ以外の場合は、試験全体が不合格となります。この評価方法は、回路基板生産のような、一定比率の不合格材料の発生が標準的とされる製造プロセスなどで使用します。</p>
3	<p>最終サンプル。試験に対して最後に入力を行ったサンプルが取得され、そのサンプルで合否が判定されます。そのサンプルが合格となった場合、試験全体が合格となります。この評価方法は、工程において混合材料に原料が追加され、類似した方法で品質サンプリングが実行される製造プロセスなどで使用します。混合材料の最終サンプルが許容値の範囲内である場合、製品は出荷可能とされます。</p>

評価プロセスでは、「試験定義の改訂」フォームの「合格数量」フィールドに指定した値が、試験での合格に必要なサンプルの数として使用されます。例として、色に関する試験で4つのサンプルを取得している状態で、「合格数量」フィールドに「2」を入力するというケースが考えられます。この場合、試験の色に関する品質検査で合格するには、2つのサンプルでのみ合格が必要、ということになります。

評価プロセスでは、「試験定義の改訂」フォームの「合格%」フィールドに指定した値が、試験での合格に必要なサンプルのパーセンテージとして使用されます。例として、色に関する試験で10のサンプルを取得している状態で、「合格%」フィールドに「50」を入力するというケースが考えられます。この場合、試験の色に関する品質検査で合格するには、5つのサンプルでのみ合格が必要、ということになります。

ロット内のすべての試験が合格水準の値を示した場合、ロット状況は、試験結果の入力プログラム (P3711) の「合格ロットの状況」処理オプションでユーザーが入力した値に設定されます。

全サンプル、サンプル平均、最終サンプルのいずれかの条件に基づき、ロット内で試験の不合格が出た場合、ロット状況は、試験結果の入力プログラムの「不合格ロットの状況」処理オプションでユーザーが入力した値に設定されます。不合格となったすべての試験結果は、「試験結果の改訂」フォームやその他の照会フォームなど、試験結果を含むフォームでハイライト表示されます。

すべてのユーザーに状況の照会を許可し、状況を変更できるのは適切な権限が付与されたユーザーに限定するように、試験状況機能のセキュリティを設定する必要があります。

関連タスク

次の表は、関連タスクの一覧です。

タスク	説明
バルク積荷確認での試験の評価	試験の改訂プログラム (P3701) で指定する試験タイプによって、バルク積荷確認プロセスの実行時に試験結果を入力するかどうかが決まります。試験タイプが“必須”である場合は、合格の試験結果を入力するまでバルク積荷確認プロセスは停止します。試験タイプが“任意”である場合は、警告メッセージが表示されますが、バルク積荷確認プロセスは完了させることができます。試験タイプが“保証済”である場合は、警告メッセージは特に表示されず、バルク積荷確認プロセスを完了させることができます。
不合格レコードの作成	試験結果の入力では、不合格となった試験をF3703 テーブルに書き込むこともできます。P3711の「試験結果」タブで「不合格製品の記録」処理オプションを設定します。書込みを行ったレコードの検討には、不合格製品プログラム (P3703) を使用します。

事前設定

サンプル番号が自動的に割り当てられるようにP3711の「サンプル数フィールドの表示」処理オプションを設定するか、「サンプル」フィールドに試験結果のサンプル番号を入力する場合はこの処理オプションをブランクのままにします。

「試験担当者」、「試験日付」および「試験時刻」フィールドに値を入力できるように、P3711の「セキュリティ」タブの処理オプションを設定します。日付と時刻に関するデフォルト値は変更できます。

試験結果の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
試験結果の改訂	W3711B	<p>「品質管理日次処理」(G3711)、「試験結果の入力」</p> <p>「試験結果の処理」フォームで「検索」ボタンをクリックし、試験を選択します。</p> <p>「試験結果の改訂」の詳細グリッドで各試験のフィールドに値を入力して、「OK」をクリックします。</p> <p>ユーザーが結果を入力していない場合や試験が不合格である場合には、「結果値」フィールドはハイライト表示されます。すべての結果を一度に入力する必要はありません。ただし、試験タイプが“必須”である試験では、すべてのサンプルに対して試験結果を入力しない場合、試験は不完全とみなされ、該当のロットは不合格となります。</p> <p>不合格の試験結果や入力が行われていない試験結果が存在するという理由で警告メッセージが表示された場合は、すべてのメッセージが表示されなくなるまで「OK」ボタンをクリックします。試験タイプが“必須”である試験で結果を入力しなかった場合は、試験結果は不合格とみなされます。</p>	<p>試験結果を入力します。</p> <p>各試験は個別に評価されて、合格/不合格のコードを割り当てられます。ロットの状況は、処理オプションに基づいて合格または不合格のいずれかに更新されます。</p>

試験結果の入力

「試験結果の改訂」フォームにアクセスします。

結果値

実行した試験の結果を入力します。

一時変更

試験が変更されているかどうかを示す値を入力します。値は次のとおりです。

1: 変更が行われています。

0: 変更は行われていません。

試験ID

任意の品目に実施する試験に対する一意のIDを入力します。例として、COL(色に関する試験)、DENS(密度に関する試験)、CL-2(明度に関する試験)などがあげられます。

試験記述	試験に関する簡単な情報を入力します。
サンプル	同一サンプル内の試験のグループ番号を入力します。
根本原因	試験タイプを示すUDC(37/RC)を入力します。
原因	不良タイプを示すUDC(37/RC)を入力します。
作業順序	作業順序を示す番号です。
作業場	上位レベルのビジネスユニットを表すコードを入力します。このコードでは、下位レベルのビジネスユニットである部門または作業を持つ事業所を表します。たとえば、部門Aや作業123などです。

試験結果に関するテキストの入力

試験結果を入力した後、それらの試験結果に関する情報を含んだテキストを入力できます。たとえば、使用した測定装置の説明などを入力できます。「試験定義の改訂」フォームで「テキスト印刷」オプションを選択した場合、このテキストは分析証明書に印刷されます。

テキストは、試験から優先情報へ自動的にコピーされます。また、処理オプションを設定して、試験や優先情報のテキストを試験結果へコピーすることもできます。

試験状況の変更

この項では、試験変更の概要および試験状況の変更方法について説明します。

試験の変更について

試験結果を入力した後で、各試験の合格/不合格の値を個別に変更できます。たとえば、装置の誤動作や試験手順の誤りなどで試験に問題があったという理由によりロットが不合格となった場合に、ロットを使用可能にするため不合格を示す値を変更する必要があるケースなどがあります。

試験結果を変更した場合、それらの結果は、分析証明書では仕様を満たすデータ、つまり合格を示す値として印刷されます。このため、顧客には結果が元の状況から変更されたということはありません。JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムでは、試験結果の入力プログラム(P3711)や試験結果ワークベンチ・プログラム(P37203)の「一時変更」フィールドに1がロードされるため、変更の行われた試験結果がわかります。

ユーザーに状況の照会を許可し、状況を変更できるのは正規の権限が付与されたユーザーに限定するように、試験結果変更機能のセキュリティを設定する必要があります。

試験状況の変更に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
試験結果の改訂	W3711B	「品質管理日次処理」(G3711)、「試験結果の入力」 「試験結果の処理」フォームで試験セットを選択して、「選択」ボタンをクリックします。	変更を行う試験セットを選択します。
試験状況の改訂	W3711C	「品質管理日次処理」(G3711)、「試験結果の入力」 「試験結果の処理」フォームでレコードを検索し、選択します。「試験結果の改訂」フォームで、レコードを選択して、「ロー」メニューから「状況の一時変更」を選択します。	試験状況を変更します。
メディア・オブジェクト・ビューア	なし	「試験結果の改訂」フォームでローを選択して、「ロー」メニューから「添付」を選択します。	状況の変更について説明するメモを入力します。

試験状況の変更

「試験状況の改訂」フォームにアクセスします。

試験状況を変更するには、次の手順に従います。

- 次のフィールドに値を入力して、「OK」をクリックします。
 - 処理コード
 - 試験状況

「試験結果の改訂」フォームの「一時変更」フィールドの値が自動的に更新されます。
- 「試験結果の改訂」フォームで、「ロー」メニューから「添付」を選択します。
- 「メディア・オブジェクト・ビューア」フォームで試験状況の変更理由を入力し、「保存」をクリックします。

試験状況 P(合格)またはF(不合格)のいずれかを指定します。

追加サンプルの作成

この項では、サンプルの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 試験結果の入力(P3711)の処理オプションの設定
- サンプル数の変更

- 再試験用の追加サンプルの作成

サンプルについて

試験結果の入力は、最初の設定と異なるサンプル数で実行できます。手順は、それが初めての試験結果の入力であるか、再試験についての入力であるかによって異なります。

試験結果の初回入力時に、最初の設定より多くのサンプルを必要とする場合、品質管理優先情報の改訂プログラム (P40318) や試験の改訂プログラム (P3701) で、各試験に対して定義されたサンプルの数を変更できます。変更を行う場合、まず「サンプル数」フィールドが表示されるように処理オプションを設定する必要があります。

注意: この機能は、特定の品目やロットに対して初めて試験結果を入力する場合にのみ使用できます。2 回目以降の再試験についての試験結果の入力では、「新規サンプル」オプションを使用します。

品目のサンプルで品質試験を実行して結果を入力すると、再試験の目的で、追加のサンプルを作成できるようになります。この場合、新たにロットを作成する必要はありません。

「新規サンプル」オプションでは、サンプルは優先情報内の各試験で1つずつ作成されます。「新規サンプル」オプションでは、対応する優先情報のサンプル数のデータに基づいてサンプルが作成されることはありません。

試験をコピーして別の試験の新規サンプルを作成することもできます。

事前設定

「サンプル数」フィールドが表示されるように、試験結果の入力プログラム (P3711) の「試験結果」タブで「サンプル数フィールドの表示」処理オプションを設定します。

サンプル数の変更に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
試験結果の改訂	W3711B	「品質管理日次処理」(G3711)、「試験結果の入力」 「試験結果の処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。	初回の試験で使用するサンプルの数を変更します。
試験結果の改訂	W3711B	「品質管理日次処理」(G3711)、「試験結果の入力」 「試験結果の処理」フォームで試験結果セットを選択して、「選択」ボタンをクリックします。 「フォーム」メニューから「新規サンプル」を選択します。 新しいサンプルは、各試験で1つずつ作成されます。新しいサンプルがさらに必要である場合は、この手順を繰り返します。 単一の試験に対して新しいサンプルを1つ作成する場合は、「ロー」メニューの「試験のコピー」を選択することもできます。	再試験用の追加サンプルを作成します。

試験結果の入力(P3711)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

試験結果

この処理オプションでは、試験結果のフォーマット、表示方法、記録方法を指定します。

1. 結果入力フォーマット

試験結果の入力で使用するフォーマットを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 優先情報フォーマットを使用します。

1: 優先情報フォーマットを使用します。このフォーマットでは、事業所と顧客番号、または事業所と品目番号に基づいて試験結果がまとめられます。

2: オーダー番号フォーマットを使用します。このフォーマットでは、作業オーダー、受注オーダー、購買オーダーのいずれかのオーダー番号に基づいて試験結果がまとめられます。

3: コンパートメント・フォーマットを使用します。このフォーマットでは、積荷番号および計画デポに基づいて試験結果がまとめられます。

- 2. デフォルト検査担当** 試験担当者のデフォルトの住所録番号を入力します。この処理オプションをブランクにした場合、試験担当者の住所録番号を試験ごとに手動で入力する必要があります。
- 3. 最小値および最大値パラメータ** 品質評価で合格となる値の範囲を指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 許容最小値パラメータと許容最大値パラメータを使用します。これらは、合格となる試験結果の下限值と上限値です。
1: 優先最小値パラメータと優先最大値パラメータを使用します。これらは、推奨される試験結果の下限值と上限値です。優先最小値および優先最大値は、許容最小値と許容最大値の範囲内にある必要があります。これらの値は、顧客の要求よりも詳細で厳格な品質評価を行う際に使用します。
- 4. サンプル数フィールドの表示** 「試験結果の改訂」フォームに「サンプル数」フィールドを表示するかどうかを指定します。このフィールドは、優先プロファイルやF3701テーブルに設定されているサンプル数を変更する場合に使用します。値は次のとおりです。
ブランク: 表示しない。
1: 表示する。
- 5. 汎用テキストのコピー** 試験や優先情報に含まれる情報や指示を試験結果に自動的にコピーするかどうかを指定します。たとえば、試験の改訂プログラム (P3701) や顧客/品目別優先プロファイル照会プログラム (P40300) で追加された汎用テキストによって、特定の試験やカスタマイズされた試験のサンプリング方法を明示できます。値は次のとおりです。
ブランク: 汎用テキストはコピーされません。
1: 試験の改訂プログラムで追加された汎用テキストがコピーされます。
2: 顧客/品目別優先プロファイル照会プログラムで追加された汎用テキストがコピーされます。
- 6. 試験結果の検索** 新しい試験結果を作成する前に重複したロット番号を自動的に検索するよう指定します。最初にロット番号を使用して試験結果の検索を実行すると、伝票番号のみで検索を実行する場合とは異なり、試験の重複を回避できます。重複したロット番号が検索されなかった場合、新しい試験結果を作成できます。この処理オプションをブランクにした場合は、優先プロファイルを使用して、伝票番号に対して新しい試験セットが作成されます。値は次のとおりです。
ブランク: 検索は実行されません。
1: 検索が実行されます。
- 7. 不合格製品の記録** 品質試験で不合格となった品目を自動的に記録するかどうかを指定します。試験で不合格となった場合、不合格番号の割当てとF3703テーブルへの不合格の記録を自動的に実行できます。ユーザーはすべての不合格ロットを検討して処置を割り当てます。値は次のとおりです。
ブランク: 記録は実行されません。
1: 記録が実行されます。
- 8. サンプルの自動採番の有効化** ユーザーが試験結果を入力した場合に、サンプル番号を自動的に割り当てるかどうかを指定します。この処理オプションをブランクにした場合は、試験結果ごとにサンプル番号を手動で入力する必要があります。値は次のとおりです。
ブランク: 自動的な割当ては行われません。

1: 自動的な割当が行われます。

セキュリティ

この処理オプションでは、試験に関する特定の情報を保護して、変更を防ぐことができます。

- | | |
|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 1. 日付および時刻の保護 | 試験日付および試験時刻を保護するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
1: 情報は保護されます。
ブランク: 情報は保護されません。 |
| 2. 検査担当IDの保護 | 検査担当者の住所録番号を保護するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 情報は保護されません。
1: 情報は保護されます。 |

ロット状況

この処理オプションでは、ロットの引当可能状況とロット状況の更新に関する設定を制御します。

- | | |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 不合格ロットの状況 | 品質試験で不合格となったロットに割り当てる状況コードを指定します。この状況のロットを出荷、販売することはできません。この処理オプションをブランクにした場合、不合格ロットの出荷や販売が自動的に許可されることになります。ロット状況コードはユーザー定義コード(41/L)となります。 |
| 2. 合格ロットの状況 | 品質試験には合格したがただちに出荷、販売することはできないロットに割り当てる状況コードを指定します。例としては、追加の承認が必要なために合格ロットが保留されるケースがあります。この処理オプションをブランクにした場合、合格ロットの出荷や販売が自動的に許可されることになります。 |
| 3. ロット状況の更新 | ロット状況の更新方法を指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 在庫のロット状況を更新する前に追加の試験や承認が必要である場合に、ロット・マスターの状況のみを更新します。
1: すべてのロット保管場所で状況を更新します。ロット状況は在庫全体で更新されます。
2: 特定のロット保管場所で状況を更新する場合に、保管場所ロット状況更新のウィンドウを表示します。 |

レポート・バージョン

この処理オプションでは、試験結果レポートのバージョンを入力できます。バージョンによって、プログラムの情報の表示方法が制御されます。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

- | | |
|----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 分析証明書(R37900) | 顧客に販売したロットに関する試験内容および試験結果を印刷するために使用する分析証明書(COA)抽出プログラム(R37900)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 2. 製品試験レポート(R37901) | 試験結果を印刷するために使用する製品試験レポート抽出プログラム(R37901)のバージョンを指定します。レポートは、作業オーダー、購買オーダー、ロット番号のいずれかに関する試験結果を検討する場合に使用しま |

- す。この処理オプションをblankにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。
- 3. 試験結果のトレース (P37201)** 組立品とその構成部品、または再分類が行われた品目に関する試験結果の検討に使用する、試験結果のトレース・プログラム (P37201) のバージョンを指定します。この処理オプションをblankにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。
- 4. 試験定義の改訂 (P3701)** 使用する試験の改訂プログラム (P3701) のバージョンを指定します。バージョンによって、デフォルトの状況、およびシステムでワークフローの適用や履歴レコードの記録を実行するかどうか指定されます。この処理オプションをblankにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。
- 5. 品質管理優先情報の改訂 (P40318)** 使用する品質管理優先情報の改訂プログラム (P40318) のバージョンを指定します。このプログラムは、顧客、顧客グループ、品目 (製品)、品目 (製品) グループの任意の組合せに対して試験や仕様のグループを指定するプロファイルを作成する場合に使用します。この処理オプションをblankにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

サンプル数の変更

「試験結果の改訂」フォームにアクセスします。

初回の試験で使用するサンプルの数を変更するには、次の手順に従います。

1. 次のフィールドに入力します。
 - 事業所
 - ロットNo.
 - 品目No.
2. 「サンプル数」フィールドに試験で使用するサンプルの数を入力します。
3. 次のフィールドに入力します (省略可)。
 - 保管場所
 - 顧客No.
4. 「フォーム」メニューから「優先情報」を選択します。

入力したサンプル数に基づき、各試験に対するサンプルが自動的に作成されます。
5. 「OK」をクリックします。

試験結果の検討

試験結果には、製品の品質の詳細なモニタリングに活用できる重要な情報が含まれています。

試験結果を検討して、次のような成果の達成に役立てることができます。

- 製品の品質に関する迅速な意思決定により、再作業や仕損にかかる多額の費用を削減する。
- 材料検査、データ収集、欠陥材料に対する再作業や修繕などに費やされる時間を最小化することにより、労務費を削減する。
- 質の低い構成部品を出荷前に識別することにより、出張作業や材料の仕損にかかる費用を削減する。

- 全体的な品質の向上と顧客満足度の向上を実現する。

外部の試験結果の処理

外部の試験結果をラボラトリ情報管理システムからJD Edwards EnterpriseOne品質管理システムにロードできます。外部の試験結果をワークファイルF3711Z1にロードした後、試験結果のバッチ処理プログラム(R3711Z1I)を使用して、既存の試験定義、事業所、可否の結果と比較を行い、試験結果を編集します。このプログラムでは、ワークファイルの読み込み、結果の編集、およびF3711テーブルへのレコードの書き込みが行われます。

試験結果のバッチ処理プログラムでは、レポートの印刷も行われます。試験結果テーブル内のすべてのレコードが記載されたレポートか、システムで発生したエラーが記載された例外レポートのいずれかが印刷されます。

このプログラムにアクセスするには、「品質管理インタオペラビリティ」(G37311)の「試験結果のバッチ処理」を選択します。

ロット番号による試験結果の検討

この項では、ロット番号による試験結果の概要と次の方法について説明します。

- ロット番号による試験結果の検討
- 品目番号と試験IDによる試験結果の検索

ロット番号による試験結果について

JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムやJD Edwards EnterpriseOne受注管理システムでロットを処理する場合に、ロット番号を使用して試験結果を検索し、どのロットが品質試験で合格/不合格となっているかを確認できます。

試験結果照会プログラム(P37204)での情報の表示方法は、アクセス方法によって次のように異なります。

- ロット別在庫状況プログラム(P41280)またはロット・マスターの改訂プログラム(P4108)を使用してJD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムから試験結果照会を使用すると、入力された試験結果と完全に同一の内容を参照できます。
- 品目検索の結果数量プログラム(P40ITM2)を使用して、受注オーダー入力プログラム(P4210)から試験結果照会にアクセスすると、選択されたロットに対してオンラインでの評価が実行されます。

優先プロファイルによる試験の選択では、受注オーダー入力プログラムの顧客番号が使用されます。選択された試験は、ロットの再評価に使用されます。ロットは、製造上の仕様で検査に合格となった場合も、顧客の仕様で不合格となることがあります。

顧客番号がブランクの場合、試験の選択では、受注オーダー入力プログラムの品目番号が使用されます。

受注オーダーの入力では、次のことが可能です。

- 「選択条件」フォームで、試験IDと試験範囲を指定して顧客の要求を満たしている品目をフィルタリングする。

- ・「許容最小値」フィールドと「許容最大値」フィールドの値に基づき品目を検索する。
- ・品目検索の結果数量プログラムで検討を行うロットが、顧客の仕様や製造上の仕様を満たしているかどうかを判断する。
- ・顧客の要求を満たしているロットを受注オーダーに追加する。
- ・ロットが顧客の仕様を満たしているかどうかを判断するために、品目検索の結果数量プログラムから試験結果照会プログラムにアクセスして、品目、ロット、顧客を基準に試験結果を確認する。

ロット番号による試験結果の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
試験結果照会	W37204B	「ロット管理」(G4113)、 「ロット別在庫状況」 「ロット別在庫状況の処理」 フォームで品目を選択して、「ロー」メニューの「試験結果」を選択します。	ロット番号により試験結果を検討します。
試験済みロット検索	W37200A	「品質管理日次処理」(G3711)、「試験済みロット検索」	特定の試験範囲に一致する在庫内の品目を検索します。

ロット番号による試験結果の検討

「試験結果照会」フォームにアクセスします。

ロット 別在庫状況 - 試験結果照会 i ?

検索(I) 閉じる(L) ロー(R) ツール(T)

   

ロットリアルNo. 事業所

保管場所

品目番号 Sport Drink, Lime

顧客No.

オーダーNo.

レコード 1 - 8 グリッドのカスタマイズ 

一時変更	処理コード	ユーザーID	製品コード	UDC	サンプルサイズ	サンプル単位	試験タイプ	作業順序No.	作業場	試験方法
0						1 LT	R	1.00		Visual Comparisor
0						1 LT	R	1.00		Visual Comparisor

「試験結果照会」フォーム

一時変更

試験が一時変更されたことを示す場合は1が、試験が一時変更されていないことを示す場合は0が表示されます。

品目番号と試験IDによる試験結果の検索

「試験済みロット検索」フォームにアクセスします。

試験済みロット検索 - 試験済みロット検索

検索① 閉じる(L) ツール①

事業所 * M30
Concentrate, Lime Sport Drink

品目 No. * 4110
試験ID * SC-01
許容最小 最大
開始日付 終了

試験制御
平均 0.82500000000000
標準偏差 0.0256347977784

レコード 1 - 8 グリッドのカスタマイズ

	結果値	一時変更	ロットシリアル No.	保管場所	ロット状況	状況記述	満了日付
<input checked="" type="radio"/>	.81	0	199810010001	..		Add Lot Status Codes...	2010/
<input type="radio"/>	.80	0	199810010001	..		Add Lot Status Codes...	2010/
<input type="radio"/>	.81	0	199810010001	..		Add Lot Status Codes...	2010/

試験結果: 「試験済みロット検索」フォーム

ロット状況

ロットの状況を示すユーザー定義コード(41/L)を入力します。空白にした場合は、ロットが承認済であることを意味します。それ以外のコードはすべて、ロットが保留中であることを意味します。

「保管場所の改訂」フォームまたは「保管場所ロット状況の更新」フォームで、ロットの保管場所ごとに異なる状況コードを割り当てることができます。

満了日付

品目のロットの期限が満了する日付を入力します。

「品目マスターの改訂」フォームまたは「品目/事業所情報」フォームで品目の貯蔵期間を指定している場合、この日付は自動的に入力されます。

満了日付は、品目の入荷日付に貯蔵期間を加えて計算されます。

品目のロット満了日付に基づいて在庫引当を行うことができます。品目の在庫引当方法は、「品目マスターの改訂」フォームまたは「品目/事業所情報」フォームで選択します。

引当可能数量

引当可能な数量を示す数字を入力します。

たとえば、手持数量から引当数量、予約数量、バックオーダー数量を引いた数量が引当可能数量になります。

引当可能数量はユーザーが定義します。この値は、事業所固定情報プログラム(P41001)で設定できます。

試験結果のトレース

この項では、試験結果のトレース・プログラム (P37201) の概要とトレースの方法について説明します。

試験結果のトレース・プログラムについて

試験結果のトレース・プログラム (P37201) は、組立品の構成部品や再分類された品目に関する試験結果を検索する際に使用されます。購買、生産時の消費、最終的には親製品の構成要素としての販売に至る、ロットの履歴を検討できます。

このプログラムは、ロット管理された品目の試験結果のトレースに使用します。

試験結果のトレースに使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
試験結果トレースの処理	W37201D	<p>「品質管理日次処理」(G3711)、「試験結果のトレース」</p> <p>特定の品目およびロットを検索するには、「試験結果トレースの処理」フォームで「ロット/シリアルNo.」および「事業所」フィールドに数値を入力し、「検索」をクリックします。</p> <p>「試験結果トレースの処理」フォームで「ビュー」メニューから「複数レベル」を選択して、下位レベルに関連付けられているロットを検討します。</p>	試験結果をトレースします。

試験結果のトレース

「試験結果トレースの処理」フォームにアクセスします。

不合格ロットの管理

この項では、事前設定および不合格ロットの管理方法について説明します。

不合格ロットの管理について

試験結果の入力プログラム (P3711) で品目に不合格の評価が割り当てられた場合は、不合格製品プログラム (P3703) を使用してすべての不合格ロットを検討し、処置を割り当てます。

事前設定

試験結果の入力プログラム(P3711)の処理オプションを設定して、不合格となった試験がF3703テーブルに書き込まれるようにします。

不合格ロットの管理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
不合格試験結果の改訂	W3703C	「品質管理日次処理」(G3711)、「不合格製品」 「不合格試験結果の処理」フォームでレコードを選択して、「選択」ボタンをクリックします。	すべての不合格ロットを検討して、処置を割り当てます。

不合格ロットの管理

「不合格試験結果の改訂」フォームにアクセスします。

不合格製品 - 不合格試験結果の改訂

不合格試験結果の処理 不合格試験結果の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) 前 次 ツール(T)

事業所 M30

品目No. 4110 Concentrate, Lime Sport Drink

ロットNo. 199810010002 Concentrate, Sport Drink

保管場所 .

レコード 1-3 グリッドのカスタマイズ

	処置	記述	オーダーNo.	オーダータイプ	試験ID	事業所	結果値
<input checked="" type="radio"/>					SC-01	M30	.85
<input type="radio"/>					SC-01	M30	.86

「不合格試験結果の改訂」フォーム

処置

不合格となった試験に対して、適用されるアクションを示すユーザー定義コード(37/RC)を入力します。例としては、試験で不合格となった材料で再作業を行い基準を満たすことが必要であることを示すコードなどがあります。

オーダーNo.

当初伝票を識別する番号を入力します。当初伝票には、仕入先請求書、受注オーダー、請求書、仮受金、仕訳などの種類があります。

注意: これらのフィールドでは、再作業オーダーは作成されません。これらのフィールドの主な用途は、実行する処置の記録、および関連する作業オーダーの参照です。作業オーダーは、F4801テーブルに登録されている必要があります。

優先プロファイルによる試験済ロットの検討

この項では、試験結果ワークベンチ・プログラム (P37203) の概要と、優先プロファイルによる試験済ロットの検討方法を説明します。

試験結果ワークベンチ・プログラムについて

試験結果ワークベンチ・プログラムを使用すると、特定の優先プロファイルを基準にして、すべての試験済ロットに関する試験結果を検討できます。例としては、顧客から飲料の味に関する問題が報告された場合に、カスタマ・サービス部門の担当者が試験結果ワークベンチ・プログラムを使用して飲料のロット番号とそのロットに対して実行された試験を検討するケースがあります。

試験結果の検討では、最初に見出し領域で優先情報の入力を行います。入力された優先プロファイルに基づき、単一または複数の試験が選択され、試験結果が含まれるすべてのロットが検索されます。結果をさらに絞り込むには、見出し領域でロット番号、オーダー番号、輸送積荷番号などの情報を入力します。

優先プロファイルによる試験済ロットの検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
試験結果ワークベンチ	W37203B	「品質管理日次処理」(G3711)、「試験結果ワークベンチ」 「試験結果ワークベンチ」フォームで「事業所」および「品目No.」フィールドに値を入力し、「検索」をクリックします。	すべての試験済ロットに関する試験結果を検討します。
試験結果ワークベンチの詳細	W37203C	「試験結果ワークベンチ」フォームで試験を選択し、「フォーム」メニューから「結果詳細」を選択します。	試験結果を検討します。 試験結果を絞り込んで検討する場合は、フィルタリングを行います。 「優先情報」、「ロット」、「伝票」の各タブにあるフィールドを使用して追加の情報を入力し、検索結果を絞り込みます。

優先プロファイルによる試験済ロットの検討

「試験結果ワークベンチの詳細」フォームにアクセスします。

試験結果ワークベンチ - 試験結果ワークベンチの詳細 [?] [i]

検索[D] 取消[L] ロール(B) ツール[D]

   

優先情報 ロット 伝票

品目No. 4110 Concentrate, Lime Sport Drink

顧客No. *

サンプルNo. から

レコード 1 - 26 グリッドのカスタマイズ [+] [-] [x]

<input type="checkbox"/>		ロット/シリアル No.	ロット状況コード	保管場所	試験 ID	結果値	許容最小値	優先最小値
<input type="checkbox"/>		199810010001		...	SC-01	.81	.80	.80
<input type="checkbox"/>		199810010001		...	SC-01	.80	.80	.80
<input type="checkbox"/>		199810010001		...	SC-01	.81	.80	.80
<input type="checkbox"/>		199810010001		...	SC-01	.79	.80	.80
<input type="checkbox"/>		199810010002	Q	...	SC-01	.85	.80	.80
<input type="checkbox"/>		199810010002	Q	...	SC-01	.86	.80	.80
<input type="checkbox"/>		199810010002	Q	...	SC-01	.84	.80	.80
<input type="checkbox"/>		199810010002	Q	...	SC-01	.84	.80	.80
<input type="checkbox"/>		199810010001		...	SC-02	C04	C02	C02
<input type="checkbox"/>		199810010001		...	SC-02	C04	C02	C02
<input type="checkbox"/>		199810010001		...	SC-02	C04	C02	C02
<input type="checkbox"/>		199810010001		...	SC-02	C03	C02	C02
<input type="checkbox"/>		199810010001		...	SC-02	C03	C02	C02

「試験結果ワークベンチの詳細」フォーム

付録 A

EnterpriseOne品質管理の標準ワークフロー

この付録では、JD Edwards EnterpriseOne品質管理の標準ワークフローについて説明します。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Workflow Tools Guide

EnterpriseOne品質管理の標準ワークフロー

この項では、JD Edwards EnterpriseOne品質管理のワークフローの概要について説明します。

試験定義承認

この項では、試験定義承認ワークフローについて説明します。

内容

ワークフローの概要	ユーザーが試験定義の入力や変更を行うと、指定された承認者にワークフロー・メッセージが送信されます。承認者が状況をA(承認済)に変更するまでは、試験の状況はP(保留)のままとなり、その試験は使用できません。
ワークフロー・トリガー	処理オプションのワークフローの設定が有効化されている状況での、試験定義の入力または変更。
ワークフロー処理	承認者はワーク・センターでメッセージを受信して、試験定義を承認します。承認者がワーク・センターで該当のメッセージを選択すると、品質管理の承認ワークベンチが表示されます。このワークベンチで、承認者は試験定義を検討し、「ロー」メニューから「承認」を選択して試験を承認します。

ワークフロー・オブジェクト

システム	37
ワークフロー・オブジェクト名	JDEQMAPRV1
オブジェクトID	N3700070
イベント記述/関数名	F3701ProcessTestMasterData
順序/行番号	572、603、703

仕様定義承認

この項では、仕様定義承認ワークフローについて説明します。

内容

ワークフローの概要	ユーザーが仕様定義の入力や変更を行うと、指定された承認者にワークフロー・メッセージが送信されます。承認者が状況をA(承認済)に変更するまでは、仕様の状況はP(保留)のままとなり、その仕様は使用できません。
ワークフロー・トリガー	処理オプションのワークフローの設定が有効化されている状況での、仕様定義の入力または変更。
ワークフロー処理	承認者はワーク・センターでメッセージを受信して、仕様定義を承認します。承認者がワーク・センターで該当のメッセージを選択すると、品質管理の承認ワークベンチが表示されます。このワークベンチで、承認者は仕様定義を検討し、「ロー」メニューから「承認」を選択して仕様を承認します。

ワークフロー・オブジェクト

システム	37
ワークフロー・オブジェクト名	JDEQMAPRV2
オブジェクトID	N3700100
イベント記述/関数名	F3702ProcessSpecDefinitionMast
順序/行番号	216、250、298

品質管理優先情報承認

この項では、品質管理優先情報承認ワークフローについて説明します。

内容

ワークフローの概要	ユーザーが品質管理優先情報の入力や変更を行うと、指定された承認者にワークフロー・メッセージが送信されます。承認者が状況をA(承認済)に変更するまでは、優先情報の状況はP(保留)のままとなり、その優先情報は使用できません。
ワークフロー・トリガー	処理オプションのワークフローの設定が有効化されている状況での、品質管理優先情報の入力または変更。
ワークフロー処理	承認者はワーク・センターでメッセージを受信して、品質管理優先情報を承認します。承認者がワーク・センターで該当のメッセージを選択すると、品質管理の承認ワークベンチが表示されます。このワークベンチで、承認者は優先情報を検討し、「ロー」メニューから「承認」を選択して優先情報を承認します。

ワークフロー・オブジェクト

システム	37
ワークフロー・オブジェクト名	JDEQMAPRV3
オブジェクトID	N3700340
イベント記述/関数名	F40318UpdateQualityPreferences
順序/行番号	53

付録 B

EnterpriseOne 品質管理レポート

この付録では、EnterpriseOne品質管理レポートの概要について説明し、次の情報を提供します。

- 全レポートの一覧表
- 主なレポートの詳細

EnterpriseOne 品質管理レポート

JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムには、ユーザーが定義した試験、仕様、優先情報や、品質試験の結果に関する情報を含んだ多様なレポートが用意されています。この付録で取り上げるレポートは、次の2つのカテゴリに分類されます。

- 設定レポート
- 試験結果レポート

設定レポートは、ユーザーが定義した試験、仕様、優先情報に関する情報を検討する場合に使用します。設定レポートには、次の種類があります。

- 試験定義レポート(R37410)
- 仕様レポート(R37415)
- 品目試験仕様レポート(R37420)

試験結果レポートは、分析証明書の印刷、品質試験結果の検討、およびワークシートの印刷で使用します。試験結果レポートには、次の種類があります。

- 試験結果ワークシート・レポート(R37470)
- 分析証明書抽出(R37900)
- 製品試験レポート(R37901)

EnterpriseOne 品質管理のすべてのレポート

次の表に、EnterpriseOne品質管理のレポートをレポートID順に示します。

レポートID/レポート名	説明	ナビゲーション
R37410 試験定義レポート	事業所に関する試験。	「品質管理セットアップ」(G3741)、「試験定義レポート」
R37415 仕様レポート	事業所に関する試験仕様。	「品質管理セットアップ」(G3741)、「仕様レポート」
R37420 品目試験仕様 ("優先情報レポート"と呼ばれることもあります)	顧客、顧客グループ、品目、品目グループを基準とした、事業所に関する試験仕様。	「品質管理セットアップ」(G3741)、「品質試験仕様」 品目試験仕様 (Item Test /Specification) のフォームにアクセスします。
R37470 試験結果ワークシート・レポート ("製造仕様レポート"と呼ばれることもあります)	試験結果ワークシートを生成します。製造部門のスタッフは、このワークシートを使用して品質試験の値を試験後にシステムに入力し、トラッキングを行うことができます。	試験結果ワークシート・レポート (R37470) は、製造作業オーダーでオーダー処理プログラム (R31410) を実行すると、自動的に生成されます。
R37900 分析証明書抽出	分析証明書を印刷します。顧客に販売したロットに関して実行された試験の内容と試験結果がすべて表示されます。分析証明書は、顧客が追加報告を要求してきた場合に印刷します。	「品質管理日次処理」(G3711)、「分析証明書 - 抽出」
R37901 製品試験レポート	ユーザーが選択した作業オーダー、購買オーダー、ロット番号のいずれかについて、すべての試験結果を検討します。この情報を使用して、オーダーの品質に関するデータを検討します。	「品質管理日次処理」(G3711)、「製品試験レポート」

EnterpriseOne品質管理の主なレポート

この項では、個々のレポートについて処理オプションなどの詳細情報を説明します。説明は、レポートID順になっています。

R37410 - 試験定義レポート

ユーザーが選択した事業所に関するすべての試験が記載されます。この情報を使用して、全製品に関する品質試験の検討および管理を行います。

試験定義レポート(R37410)の処理オプション

この処理オプションでは、試験定義レポートのデフォルト処理を指定します。

ワークフロー

1. 試験状況を入力して試験定義を選択します。

承認状況を示すユーザー定義コード(00/WS)を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 有効/承認済

- 1: 保留
- 2: 履歴
- 3: 却下

2. 基準日を入力して試験定義を選択してください。

次の日付を指定します。

- 部品表の構成部品が無効になる日付。
- 作業工程ステップが品目の作業工程の順序として無効になる日付。
- レート・スケジュールが無効になる日付。デフォルトは、データ辞書で変換世紀年として定義されているデフォルト年の12月31日です。

今後予定している変更に合わせて将来の有効日付を入力することもできます。将来無効になる品目も記録できます。これらの品目は、JD Edwards EnterpriseOne製造原価計算システム、JD Edwards EnterpriseOne製造現場管理システムおよびJD Edwards EnterpriseOne能力所要量計画システムで認識されます。JD Edwards EnterpriseOne資材所要量計画システムでは、部品表の改訂レベルではなく、有効日付に基づいて有効な構成部品が特定されます。一部のフォームでは、入力した有効日付に基づいて、データが表示されます。

R37415 - 仕様レポート

ユーザーが選択した事業所に関するすべての試験仕様が記載されます。この情報を使用して、該当事業における品質仕様の検討および管理を行います。

仕様レポート(R37415)の処理オプション

この処理オプションでは、仕様レポートのデフォルト処理を指定します。

デフォルト

1. 仕様状況を入力して仕様定義を選択します。

承認状況を示すユーザー定義コード(00/WS)を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 有効/承認済

- 1: 保留
- 2: 履歴
- 3: 却下

2. 基準日を入力します。

次の日付を指定します。

- 部品表の構成部品が無効になる日付。
- 作業工程ステップが品目の作業工程の順序として無効になる日付。
- レート・スケジュールが無効になる日付。デフォルトは、データ辞書で変換世紀年として定義されているデフォルト年の12月31日です。

今後予定している変更に合わせて将来の有効日付を入力することもできます。将来無効になる品目も記録できます。これらの品目は、JD Edwards EnterpriseOne製造原価計算システム、JD Edwards EnterpriseOne製造現場管理システムおよびJD Edwards EnterpriseOne能力所要量計画システムで認識されます。JD Edwards EnterpriseOne資材所要量計画システムでは、部品表の改訂レベルではなく、有効日付に基づいて有効な構成部品が特定されます。一部のフォームでは、入力した有効日付に基づいて、データが表示されます。

R37420 - 品目試験仕様

顧客、顧客グループ、品目、品目グループを基準として、ユーザーが選択した事業所に関するすべての試験仕様が記載されます。この情報を使用して、該当事業における優先プロファイルの管理および検討を行います。

品目試験仕様(R37420)の処理オプション

この処理オプションでは、品目試験仕様レポートのデフォルト処理を指定します。

印刷

印刷

特定の仕様に含まれるすべての試験を印刷するには、「1」を入力します。ブランクにすると、レポートには仕様のみが印刷されます。

ワークフロー

1. 試験/仕様状況を入力して、試験/仕様定義を選択します。

承認状況を示すユーザー定義コード(00/WS)を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 有効/承認済

1: 保留

2: 履歴

3: 却下

2. 基準日を入力して試験/仕様定義を選択します。

次の日付を指定します。

- 部品表の構成部品が無効になる日付。
- 作業工程ステップが品目の作業工程の順序として無効になる日付。
- レート・スケジュールが無効になる日付。デフォルトは、データ辞書で変換世紀年として定義されているデフォルト年の12月31日です。

今後予定している変更に合わせて将来の有効日付を入力することもできます。将来無効になる品目も記録できます。これらの品目は、JD Edwards EnterpriseOne製造原価計算システム、JD Edwards EnterpriseOne製造現場管理システムおよびJD Edwards EnterpriseOne能力所要量計画システムで認識されます。JD Edwards EnterpriseOne資材所要量計画システムでは、部品表の改訂レベルではなく、有効日付に基づいて有効な構成部品が特定されます。一部のフォームでは、入力した有効日付に基づいて、データが表示されます。

R37470 - 試験結果ワークシート・レポート

このレポートには、サンプルの対象となる作業オーダーの最小値と最大値が含まれます。最小値と最大値に関する優先情報は、作業オーダーまたは顧客を基準にすることができます。顧客の試験要件を使用する場合、作業オーダーの見出し領域にその顧客の住所録番号が指定されていることが必要です。顧客の住所録番号は、受注オーダーから行タイプW(作業オーダー)の作業オーダーが作成された場合に自動的に更新されます。または、作業オーダー見出しに手動で番号を入力できます。

試験結果ワークシート(R37470)の処理オプション

この処理オプションでは、試験結果ワークシート・レポートのデフォルト処理を指定します。

印刷

印刷 優先最小値と優先最大値を印刷するには、「1」を入力します。空白にした場合は、許容最小値と許容最大値が印刷されます。

優先情報

優先情報 関連する受注オーダーを基準に試験の優先付けを行うには、「1」を入力します。空白の場合は、製造品目のみを基準に優先付けが行われます。

テキスト

テキスト 汎用テキストを印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: テキストは印刷されません。
1: 試験の改訂(P3701)の汎用テキストが印刷されます。
2: 優先プロファイル(P40300)の汎用テキストが印刷されます。

R37900 - 分析証明書抽出レポート

選択したデータに基づき、該当の受注オーダー情報に関する試験結果が検索されます。トレース処理に関する処理オプションを設定した場合は、特定されたロットごとに複数レベルの試験結果が検索されます。それぞれのロットに関してすべての試験結果が印刷されます。

複数の言語による分析証明書の印刷は、関連する処理オプションの設定によって可能になります。

注意: 出荷確認プログラム(P4205)の処理オプションを設定して、分析証明書を自動的に印刷できます。

事前設定

分析証明書抽出レポートを印刷するには、事前に次の設定を行う必要があります。

- 分析証明書に印刷する試験と汎用テキストの指定
- 分析証明書を送付する顧客の指定
- ロットのトレースに使用するトランザクション・レコードのタイプの指定

分析証明書抽出(R37900)の処理オプション

この処理オプションでは、分析証明書抽出レポートのデフォルト処理を指定します。

デフォルト情報

この処理オプションでは、分析証明書に表示される住所や、受注オーダー上の次状況コードの変更に關する設定を行います。次状況コードの変更では、ユーザー定義コード・テーブル(40/AT)に設定した値が使用されます。

1. **住所タイプ**

分析証明書に印刷する住所のタイプを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 出荷先住所
1: 出荷先住所
2: 販売先住所
3: 親住所
2. **次状況**

分析証明書が印刷されていることを受注オーダー上で示す必要がある場合に、次状況コードを変更するかどうかを指定します。
次状況コードを変更するには、ユーザー定義テーブルから値を入力します。
この処理オプションをブランク(デフォルト)のままにした場合、次状況コードは変更されません。

分析証明書抽出オプション

この処理オプションでは、分析証明書抽出レポートを再実行せずに分析証明書の再印刷を行うことを可能にするかどうかを指定します。

- 抽出テーブル**
- レポートを再実行せずに分析証明書を再印刷することを可能にするために、分析証明書抽出テーブルで履歴情報の保存を行うかどうかを指定します。たとえば、製品の受取りに分析証明書を要求している顧客へ分析証明書を送付したが郵送時に紛失した、という場合に、再印刷が必要になることがあります。値は次のとおりです。
- ブランク: レポート実行の都度、分析証明書抽出テーブル内のデータは削除されます。
- 1: 再印刷を可能にするため、分析証明書抽出テーブル内のデータは削除されません(履歴情報が保存されます)。

試験結果トレースのオプション

この処理オプションでは、試験結果のトレースを実行するかどうかを指定します。

- トレース**
- ロットに関する試験結果のトレースを自動的に実行するかどうかを指定します。組立品やその構成部品、再分類が行われた品目に関する試験結果を検索できます。値は次のとおりです。
- ブランク: 試験結果のトレースは実行されません。
- 1: ロットを基準に単一レベルの試験結果のトレースが実行されます。
- 2: ロットを基準に複数レベルの試験結果のトレースが実行されます。
- 試験結果のトレースを実行しない場合、分析証明書を印刷するには、“出荷確認”の状況が割り当てられている受注オーダーで試験結果の入力を行う必要があります。

試験結果の優先オプション

この処理オプションでは、分析証明書に試験結果を印刷する場合に優先プロファイルを使用するかどうかを指定します。

優先プロファイル

分析証明書に試験結果を印刷する場合に、優先プロファイルを使用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

blank: 試験結果の印刷に優先プロファイルは使用されません。試験結果は、合否のコードで再評価されることなく、分析証明書に印刷されます。

1: 分析証明書への試験結果の印刷に優先プロファイルが使用されます。試験結果は、優先プロファイル内の最小値/最大値を基にした合否のコードで再評価されます。

分析証明書印刷オプション

この処理オプションでは、印刷する分析証明書抽出レポートのバージョンを指定する他、レポートの再実行なしで分析証明書の再印刷を許可するかどうかを指定します。バージョンによって、プログラムの情報の表示方法が制御されます。

1. 分析証明書(R37460) 分析証明書の印刷を実行するかどうかを指定します。分析証明書には、顧客へ販売したロットに関して実行された試験の内容と試験結果がすべて表示されます。印刷する分析証明書のバージョンを入力します。この処理オプションをblankにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。
2. ユーザー定義プログラム R37460ではなく、ユーザーが定義した分析証明書の印刷を実行するかどうかを指定します。
定義した分析証明書の名前を入力します。この処理オプションをblankにすると、R37460が使用されます。
3. ユーザー定義バージョン 印刷で使用する、ユーザーが定義した分析証明書のバージョンを指定します。ユーザーが定義した証明書を使用する場合は、この処理オプションの入力は必須です。標準の証明書を使用する場合は、この処理オプションはblankのままにします。
印刷で使用する、ユーザーが定義した証明書のバージョンを入力します。
4. 印刷言語 分析証明書の印刷で使用する言語を指定します。値は次のとおりです。
blank: デフォルトの言語
1: 顧客の指定言語

R37901 - 製品試験レポート

このレポートは内部で使用する目的で設計されたものですが、受注オーダーを使用することなく試験結果を分析証明書フォーマットで印刷できます。例としては、販売先が未定であり在庫として管理される品目に対して、分析証明書を印刷するというケースが考えられます。この場合、その品目を在庫に移動して販売する前に、分析証明書を同梱します。

ユーザーが選択したデータに基づき、該当のオーダー情報に関する試験結果が検索されます。トレース処理に関する処理オプションを設定した場合は、特定されたロットごとに複数レベルの試験結果が検索されます。それぞれのロットに関してすべての試験結果が印刷されます。

製品試験レポート(R37901)の処理オプション

この処理オプションでは、製品試験レポートのデフォルト処理を指定します。

抽出オプション

この処理オプションでは、分析証明書抽出レポート(R37900)を再実行せずに分析証明書の再印刷を行うことを可能にするかどうかを指定します。

抽出データの保持

レポートを再実行せずに再印刷を行うことを可能にするために、F37900テーブルから抽出された情報の保存を行うかどうかを指定します。たとえば、製品の受取りに製品試験レポートを要求している顧客へレポートを送付したが郵送時に紛失した、という場合に、再印刷が必要になることがあります。値は次のとおりです。

ブランク: 保持しない。レポート実行の都度、抽出テーブル内の情報は削除されます。

1: 保持する。レポート実行の都度、抽出テーブル内の情報が削除されることはありません。

トレース

この処理オプションでは、試験結果のトレースを実行するかどうかを指定します。

試験結果のトレース

ロットに関する試験結果のトレースのレベルを指定します。この処理オプションでは、組立品やその構成部品、再分類が行われた品目に関する試験結果のトレースを実行します。値は次のとおりです。

ブランク: 試験結果のトレースは実行されません。

1: 単一レベルのトレースが実行されます。

2: 複数レベルのトレースが実行されます。

試験結果のトレースを実行しない場合、製品試験レポートを印刷するには、“出荷確認”の状況が割り当てられている受注オーダーで試験結果の入力を行う必要があります。

印刷オプション

ユーザーが定義したレポートを実行する場合に、次の処理オプションを使用して、レポートの名前とバージョンを指定します。

ユーザー定義レポート、2. ユーザー定義バージョン

印刷で使用する、ユーザーが定義したレポートの名前とバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、標準の製品試験レポート(R37450)が印刷されます。

バージョン

この処理オプションでは、レポートの実行で使用するバージョンを指定します。

製品試験レポート(R37450)

製品試験レポート(R37450)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

JD Edwards EnterpriseOne用語集

アクセサ・メソッド/アクセサ	値オブジェクトまたはその他のソース・ファイルの要素を参照 (get) および設定 (set) するためのJavaメソッドです。
アクティビティ・ルール、処理規則	フロー内で、あるポイントから次のポイントにオブジェクトが進むための条件です。
追加モード	ユーザーによるデータの入力可能なフォームの状態です。
拡張プランニング・エージェント (APAg)	業務データの抽出、加工、読込みに使用するJD Edwards EnterpriseOneのツールです。APAgは、リレーショナル・データベース、フラット・ファイル・フォーマット、およびXMLのような他のデータまたはメッセージ・エンコーディング形式によるデータ・ソースへのアクセスをサポートしています。
代替通貨	<p>取引通貨 (国内のみの取引の場合は国内通貨) として指定した通貨と異なる通貨です。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、代替通貨を使用することにより、入金や支払を請求時とは異なる通貨で入力できます。</p>
アプリケーション・サーバー	分散環境内のアプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供するソフトウェアです。アプリケーション・サーバーの例として、Oracle Application Server (OAS) またはWebSphere Application Server (WAS) があげられます。
仮定通貨処理	取引に実際に使用されている通貨とは異なる通貨で、取引の金額を表示できる処理です。
基準日処理	ある時点を指定して、その日付までの取引を集計する処理です。たとえば、基準日を指定してJD Edwards EnterpriseOneの各種のレポートを実行し、その時点での勘定科目やビジネスユニットなどの残高や処理金額を確認できます。
自動コミット・トランザクション	すべてのデータベース操作をすぐにデータベースに書き込むデータベース接続です。
バック・ツーバック・プロセス	JD Edwards EnterpriseOne供給管理で使用されるプロセスで、別のプロセスで使用されるキーと同じキーが含まれます。
バッチ処理	<p>サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneにレコードを転送する処理です。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、バッチ処理を使用して、JD Edwards EnterpriseOne以外のシステムで入力された請求書や伝票のデータをJD Edwards EnterpriseOne売掛管理やJD Edwards EnterpriseOne買掛管理のシステムに転送できます。また、顧客レコードや仕入先レコードなどの住所録情報も転送できます。</p>
バッチ・サーバー	バッチ処理リクエストの実行用に指定されたサーバーです。通常、バッチ・サーバーにはデータベースは格納されず、対話型アプリケーションが実行されることもありません。
一括バッチ処理	<p>クライアント・ワークステーション上でアプリケーション処理を実行してから、後続の処理を一度にサーバー・アプリケーションに投入するトランザクションの方式です。バッチ処理はサーバー上で実行されるため、クライアント・アプリケーションは引き続き他のタスクを実行できます。</p> <p>“ダイレクト接続”と“オフライン処理”の説明も参照してください。</p>
ベスト・プラクティス	開発者による設計についての意思決定が最適になるように、任意で従うガイドラインです。

BPEL	Business Process Execution Languageの略語です。個別のサービスを組み合わせてエンドツーエンドのプロセス・フローを作成できる、標準Webサービスのオーケストレーション言語です。
BPEL PM	Business Process Execution Language Process Managerの略語です。BPELビジネス・プロセスを作成、デプロイ、管理する包括的インフラストラクチャです。
ビルド構成ファイル	ANTスクリプトを生成するプログラムで 사용되는、構成の設定が記述されたテキスト・ファイルです。ANTは、ビルド・プロセスを自動化するソフトウェア・ツールです。ANTスクリプトによって、公開ビジネス・サービスが生成されます。
ビルド・エンジニア	アーティファクトの生成、マスタリング、パッケージングの担当者です。ビルド・エンジニアには、アプリケーション・アーティファクトの生成担当者と、基盤のアーティファクトの生成担当者がいます。
ビルド・プログラム	ビルド構成ファイルを読み込み、公開ビジネス・サービスの生成を行うANTスクリプトを生成するWIN32実行ファイルです。
ビジネス・アナリスト	EnterpriseOneのビジネス・サービスの開発を必要とする条件と理由を特定する担当者です。
ビジネス関数	ユーザーによって作成された再利用可能なビジネス・ルールとログのセットで、イベント・ルールを通じて呼び出すことができます。ビジネス関数によって、トランザクションまたはそのサブセットが実行されます（在庫照会、作業オーダー発注など）。また、ビジネス関数にはAPIも含まれているため、フォーム、データベース・トリガー、またはJD Edwards EnterpriseOne以外のアプリケーションから呼び出すこともできます。ビジネス関数は、他のビジネス関数、フォーム、イベント・ルール、その他の構成要素と組み合わせてアプリケーションを構成します。ビジネス関数の作成には、イベント・ルール、またはCなどの第3世代言語を使用します。ビジネス関数の例としては、与信チェック（Credit Check）や在庫照会（Item Availability）などがあげられます。
ビジネス関数イベント・ルール	“ネームド・イベント・ルール（NER）”の説明を参照してください。
ビジネス・サービス	Javaで記述されたEnterpriseOneのビジネス・ロジックです。ビジネス・サービスは、1つ以上のアーティファクトのコレクションです。他に指定されていなければ、ビジネス・サービスは公開ビジネス・サービスとビジネス・サービスの両方を意味します。
ビジネス・サービス・アーティファクト	ビジネス・サービスを開発するために管理され、ビジネス・サービスのビルド・プロセスに必要な、ソース・ファイル、ディスクリプタなどです。
ビジネス・サービス・クラス・メソッド	ビジネス・サービスのフレームワークから提供されるリソースにアクセスするメソッドです。
ビジネス・サービス構成ファイル	interop.ini、JDBj.iniおよびjdelog.propertiesなど（他にもある）の構成ファイルです。
ビジネス・サービス相互参照	オーケストレーション中に使用されるキーと値のデータの組合せです。WSG/XPIベースのシステムにおけるコードとキーの相互参照を表します。
ビジネス・サービス相互参照ユーティリティ	JD Edwards EnterpriseOneのオーケストレーション相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
ビジネス・サービス開発環境	統合開発者がビジネス・サービスを開発および管理する際に必要なフレームワークです。
ビジネス・サービス開発ツール	JDeveloperという名前でも知られています。
ビジネス・サービス EnterpriseOneオブジェクト	EnterpriseOne LCMツールによって管理されるアーティファクトのコレクションです。テーブル、ビュー、フォームなどの他のEnterpriseOneオブジェクトと同様に、EnterpriseOne LCM内に名前付きで表示されます。

ビジネス・サービス・フレームワーク	特にビジネス・サービスの開発を支援する、ビジネス・サービスの基盤の一部です。
ビジネス・サービス・ペイロード	エンタープライズ・サーバーとビジネス・サービス・サーバーとの間で受け渡されるオブジェクトです。ビジネス・サービス・ペイロードには、ビジネス・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスに入力される情報が含まれます。ビジネス・サービス・ペイロードには、エンタープライズ・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスから返される結果が含まれます。通知の際、返されたビジネス・サービス・ペイロードには確認応答が含まれます。
ビジネス・サービス・プロパティ	ビジネス・サービスの動作または機能の制御に使用されるキー値データの組合せです。
ビジネス・サービス・プロパティ管理ツール	開発者および管理者がビジネス・サービス・プロパティのレコードの管理に使用するEnterpriseOneアプリケーションです。
ビジネス・サービス・プロパティのビジネス・サービス・グループ	ビジネス・サービス・プロパティをビジネス・サービス・レベルで分類したものです。通常、ビジネス・サービス名として表されます。1つのビジネス・サービス・レベルには、1つ以上のビジネス・サービス・プロパティ・グループが含まれます。各ビジネス・サービス・プロパティ・グループは、0個以上のビジネス・サービス・プロパティ・レコードを含むことができます。
ビジネス・サービス・プロパティのカテゴリ化	ビジネス・サービス・プロパティをカテゴリ化する方法です。これらのプロパティは、ビジネス・サービス別にカテゴリ化されます。
ビジネス・サービス・プロパティ・キー	ビジネス・サービス・プロパティをシステム全体でグローバルに識別する一意の名前です。
ビジネス・サービス・プロパティ・ユーティリティ	EnterpriseOneのビジネス・サービス・プロパティ・データにアクセスするためにビジネス・サービスの開発で使用するユーティリティAPIです。
ビジネス・サービス・プロパティ値	ビジネス・サービス・プロパティの値です。
ビジネス・サービス・リポジトリ	ビジネス・サービス・アーティファクトおよびビルド・ファイルを格納するClearCaseなどのソース管理システムです。または、ネットワーク内の物理ディレクトリのことをいいます。
ビジネス・サービス・サーバー	ビジネス・サービスが置かれる物理マシンです。ビジネス・サービスは、アプリケーション・サーバー・インスタンス上で実行されます。
ビジネス・サービス・ソース・ファイル/ビジネス・サービス・クラス	ビジネス・サービス・アーティファクトの種類の1つです。Javaコンパイラでコンパイルされるように記述された、javaファイル・タイプのテキスト・ファイルです。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート	Cビジネス関数で使用する、ビジネス・サービス値オブジェクトの構造表現です。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート・ユーティリティ	ビジネス・サービス値オブジェクトからビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレートを作成する際に使用されるユーティリティです。
ビジネス・サービス・サーバー・アーティファクト	ビジネス・サービス・サーバーにデプロイされるオブジェクトです。
ビジネス・ビュー	アプリケーションやレポートでデータが使用されているJD Edwards EnterpriseOne テーブル(複数可)から、特定のカラムを選択するために使用されます。ビジネス・ビュー自体には特定のローを選択する機能はありません。また、ビジネス・ビューに実際のデータは含まれていません。ビジネス・ビューは、情報の表示専用の機能であり、このビューを介してデータを操作できます。
セントラル・オブジェクトのマージ	現行のリリースで顧客がオブジェクトに加えた変更を、新規のリリースのオブジェクトに統合する処理です。
セントラル・サーバー	最初にインストールされ、クライアント・マシンに配布されるソフトウェア・バージョン(セントラル・オブジェクト)を格納するために指定されたサーバーです。JD

	Edwards EnterpriseOneの典型的なインストールでは、ソフトウェアは1つのマシン、すなわちセントラル・サーバーにロードされます。次に、セントラル・サーバーにつながっている各種のワークステーションに対して、ソフトウェアのコピーがプッシュ・アウトまたはダウンロードされます。このような構成にすることで、ワークステーション上での使用によってソフトウェアが変更されたり、破損したりした場合でも、常にセントラル・サーバーから変更前のオブジェクトのセット(セントラル・オブジェクト)を入手できます。
チャート	JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアのフォームに表示される表形式の情報です。
チェックイン・リポジトリ	開発者がビジネス・サービス・アーティファクトをチェックインおよびチェックアウトするリポジトリです。チェックイン・リポジトリは複数あります。各リポジトリは、それぞれ別の目的に使用されます(開発、本稼働、テストなど)。
コネクタ	JD Edwards EnterpriseOneとサード・パーティ・アプリケーションの間にロジックとデータの共有を可能にする、コンポーネント・ベースのインタオペラビリティ(相互運用)モデルです。JD Edwards EnterpriseOneコネクタ・アーキテクチャにはJavaコネクタとCOMコネクタが含まれています。
相殺/相手勘定	JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementの一般会計勘定科目であり、仕訳入力の相殺(貸借一致)処理に使用されます。たとえば、相殺/相手勘定を使用して、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでの配賦によって作成された会計入力の貸借一致を行います。
コントロール・テーブル・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、必要なマージを行うためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。このマージにより、データ辞書、ユーザー定義コード、メニュー、ユーザー一時変更テーブルが更新されます。
コントロール・テーブルのマージ	顧客がコントロール・テーブルに加えた変更を、新規リリースのデータに統合する処理です。
関連データ	ビジネス・サービス名およびメソッドで構成されるリクエストとHTTPレスポンスとの関連付けに使用されるデータです。
コスト割当	JD Edwards EnterpriseOne収益性分析のプロセスであり、アクティビティまたはコスト・オブジェクトへのリソースの配賦またはトレースに使用されます。
原価要素	JD Edwards EnterpriseOne製造管理において、特定の品目の原価を構成する要素(資材費、人件費、間接費など)を表します。
資格証明	JD Edwards EnterpriseOneのユーザー名/パスワード/環境/ロール、EnterpriseOneセッションまたはEnterpriseOneトークンの有効なセットです。
相互参照ユーティリティ・サービス	EnterpriseOneの相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
セグメント間編集	コンフィギュレーション可能な品目セグメント間の関係を設定する論理ステートメントです。セグメント間編集を使用して、製造不可能なコンフィギュレーションに基づくオーダーを防ぐことができます。
通貨再換算	通貨を別の通貨に換算するプロセスであり、一般的にレポートで使用されます。たとえば、通貨再換算のプロセスを使用して、様々な通貨を単一の通貨に換算する必要がある連結レポートの作成に対応できます。
cXML	伝票と調達アプリケーションとの通信や、電子商取引ハブと仕入先との通信の簡素化に使用されるプロトコルです。
データベース資格証明	有効なデータベース・ユーザー名/パスワードです。
データベース・サーバー	データベースの管理やクライアント・マシンの検索を実行するローカル・エリア・ネットワーク内のサーバーです。

データ・ソース・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、インストール・プランに定義されたすべてのデータ・ソースを、プランナのデータ・ソースに含まれるテーブル/データ・ソース・サイジング・テーブルおよびデータ・ソース・マスターから、システムのリリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、データ・ソース・プラン詳細レコードも更新されます。
期間パターン	標準会計と52期間会計で、会計年度の開始日とその会計年度内の各期間の終了日を表すカレンダーです。
指定通貨	会社の財務レポートで基準として使用される通貨です。
デプロイメント・アーティファクト	サーバー、ポートなど、デプロイメント・プロセスに必要なアーティファクトです。
デプロイメント・サーバー	エンタープライズ・サーバーとクライアント・マシンへのソフトウェアのインストールや、それらのソフトウェアの管理、配布に使用されるサーバーです。
明細情報	JD Edwards EnterpriseOneの取引における個別の行に関する情報です。伝票支払品目や受注オーダー明細行などがあります。
ダイレクト接続	クライアント・アプリケーションとサーバー・アプリケーションが対話形式で直接通信するトランザクション方式です。 “一括バッチ処理”、“オフライン処理”の説明も参照してください。
DNT (Do Not Translate)	BLOBデータの制約のため、iSeriesサーバーに必要なデータ・ソースのタイプです。
2重価格設定	商品やサービスに対し、2種類の通貨で価格を設定するプロセスです。
重複した公開ビジネス・サービス承認レコード	同じユーザー識別情報と公開ビジネス・サービス識別情報を持つ、2つの公開ビジネス・サービス承認レコードです。
埋込みアプリケーション・サーバー・インスタンス	JDeveloperから起動され、完全にJDeveloper内で実行されるOC4Jインスタンスです。
編集コード	レポートやフォーム上の特定の値が、どのように表示またはフォーマットされるべきかを示すコードです。レポートに属するデフォルトの編集コードは大量の情報に関連しているため、使用時には注意が必要です。
編集モード	ユーザーによるデータの変更が可能なフォームの状態です。
編集ルール	ユーザーが入力したデータを、事前に定義されたルールやルールのセットに照合して、フォーマットや検証を行うための方法です。
電子データ交換 (EDI)	JD Edwards EnterpriseOneシステムとサード・パーティ・システムの間で、コンピュータ間の業務取引データの交換をペーパーレスに行うことを可能にするインタオペラビリティ・モデルです。EDIを使用する場合、EDI標準フォーマットから自社システムで使用されているフォーマットにデータを変換するためのソフトウェアを備えている必要があります。
埋込みイベント・ルール	特定のテーブルやアプリケーション専用のイベント・ルールです。たとえば、フォーム間の呼び出し、処理オプションの値に基づくフィールドの非表示化、ビジネス関数の呼び出しなどが含まれます。汎用的な“ビジネス関数イベント・ルール”とは対照的に使用されます。
従業員ワーク・センター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。各ユーザーには、アクティブ・メッセージなどのメッセージやワークフローを含むメールボックスが割り当てられます。
エンタープライズ・サーバー	JD Edwards EnterpriseOneのデータベースとロジックを格納するサーバーです。

ESB (Enterprise Service Bus)	イベント駆動型のXMLベースのメッセージング・フレームワーク(バス)を使用してサービス指向アーキテクチャを有効にする、Webサービス標準に準拠したミドルウェア・インフラストラクチャ製品またはテクノロジーです。
EnterpriseOne管理者	EnterpriseOne管理システムの担当者です。
EnterpriseOne資格証明	EnterpriseOneユーザーの検証に使用される、ユーザーID、パスワード、環境およびロールです。
EnterpriseOneオブジェクト	アプリケーションのビルドに使用される再利用可能なコードです。オブジェクトのタイプには、テーブル、フォーム、ビジネス関数、データ辞書項目、バッチ処理、ビジネス・ビュー、イベント・ルール、バージョン、データ構造体、メディア・オブジェクトなどがあります。
EnterpriseOne開発クライアント	以前は“ファット・クライアント”と呼ばれていた、Microsoft Windowsのクライアントおよび設計ツールを含む、EnterpriseOneアーティファクトの開発に必要なインストール済EnterpriseOneコンポーネントのコレクションです。
EnterpriseOne拡張機能	EnterpriseOne固有の、JDeveloperのコンポーネント(プラグイン)です。JDeveloperウィザードは、拡張機能の具体例の1つです。
EnterpriseOneプロセス	JD Edwards EnterpriseOneクライアントおよびサーバーで、プロセス・リクエストの処理とトランザクションの実行を可能にするソフトウェア・プロセスです。クライアントでは1つのプロセスが実行され、サーバーでは1つのプロセスの複数のインスタンスを処理できます。JD Edwards EnterpriseOneプロセスを、ワークフロー・メッセージやデータ・レプリケーションなど特定のタスク専用のプロセスに指定することで、サーバーが大量のタスクを処理している場合でも重要なプロセスの実行を確保できます。
EnterpriseOneリソース	権限を持つユーザーに限定された、EnterpriseOneのテーブル、メタデータ、ビジネス関数、辞書情報またはその他の情報です。
環境ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、環境情報および各環境のオブジェクト構成マネージャ・テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、環境プラン詳細レコードも更新されます。
エスカレーション・モニター	処理待ちのリクエストやアクティビティを監視し、それらが非アクティブの状態のまま指定した時間が経過した場合に、再実行するか、または次のステップやユーザーに処理を進めるバッチ・プロセスです。
イベント・ルール	フォームの入力や、フィールド間の移動など、特定のアプリケーションで実行された操作に基づいて処理(複数可)の実行をシステムに指示する論理ステートメントです。
明示的トランザクション	ビジネス・サービス開発者がビジネス・サービス内のトランザクション境界のタイプ(自動または手動)および範囲を明示的に制御する際に使用されるトランザクションです。
公開されたメソッド/値オブジェクト	公開インターフェイスの一部である、公開ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。顧客との契約の一部でもあります。
施設、事業所	原価のトラッキングの対象となる業務単位の1つです。たとえば、倉庫所在地、ジョブ、プロジェクト、ワーク・センター、事業所などがあります。“ビジネスユニット”と呼ばれる場合もあります。
略式コマンド	特定のコマンドを使用することで、メニューやアプリケーション間を迅速に移動できるコマンド・プロンプト機能です。
ファイル・サーバー	ネットワーク上で他のコンピュータからアクセスされるファイルを保存するサーバーです。リモート・ディスク・ドライブとしてユーザーに表示されるディスク・サーバーとは異なり、ファイル・サーバーには、単にファイルを保存するだけではなく、ネッ

	トワーク・ユーザーがファイルをリクエストしたりファイルを更新した場合に、それらの要求を整理してファイルを管理するための高度な機能が備えられています。
最終モード	データ・レコードの更新や作成を行うプログラムの処理モードの1つです。
基盤	実行時にビジネス・サービスを実行するためにアクセス可能にする必要のあるフレームワークです。例として、Java ConnectorおよびJDBJがあげられます(この他にもあります)。
FTPサーバー	FTP(ファイル転送プロトコル)を通じてファイルへのリクエストに応答するサーバーです。
見出し情報	テーブルやフォームの先頭に表示される情報です。見出し情報を使用して、付随するレコード・グループの制御情報が識別または提供されます。
HTTPアダプタ	特定のURLを指定したGET、POST、PUT、DELETE、TRACE、HEADおよびOPTIONSなどの基本HTTP操作に使用される、サービスの汎用セットです。
インスタンス化	“作成する”という意味のJava用語です。クラスがインスタンス化されると、新しいインスタンスが作成されます。
統合開発者	EnterpriseOneビジネス・サービスを開発、実行およびデバッグする、システムのユーザーです。統合開発者は、EnterpriseOneビジネス・サービスを使用してそのようなコンポーネントを開発します。
インテグレーション・ポイント(IP)	ドキュメント・レベルのインターフェイスを公開する、EnterpriseOneの以前の実装におけるビジネス・ロジックです。このタイプのロジックは、XBPと呼ばれていました。EnterpriseOne 8.11では、webMethodsのサポートにより、IPがWebサービスゲートウェイに実装されました。
インテグレーション・サーバー	コンピュータが内部および外部のネットワークで接続されたシステム環境で、異なるオペレーティング・システムやアプリケーション間でのデータの交換を行うための機能を提供するサーバーです。
整合性テスト	データの整合性を維持するための社内プロセスを補強するプロセスで、貸借が一致していないデータや矛盾のあるデータの検出と報告を行います。
インターフェイス・テーブル	“Zテーブル”の説明を参照してください。
内部メソッド/値オブジェクト	公開インターフェイスの一部ではない、ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。privateメソッドまたはprotectedメソッドがこれに相当するといえます。publishedメソッドで使用されない値オブジェクトもこれに相当するといえます。
インタオペラビリティ・モデル	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneへの接続やアクセスを行うための機能です。
エラー表示の有効化	JD Edwards EnterpriseOneにおけるフォーム・レベルのプロパティで、有効にすると、アプリケーション・エラーが発生した場合にエラー・メッセージがフォーム上に表示されます。
IServerサービス	Webサーバーに常駐するインターネット・サーバーサービスで、データベースからクライアントへのJavaクラスのファイル配信を高速化するために使用されます。
代替ラベル	代替的なデータ辞書項目のラベルで、使用されているオブジェクトの製品コードに基づいてJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションに表示されます。
Javaアプリケーション・サーバー	サーバー中心のアーキテクチャの中間層に置かれるコンポーネント・ベースのサーバーです。このサーバーは、データのアクセスや永続性ととともに、セキュリティとステータスの管理を行うためのミドルウェア・サービスを提供します。
JDBNET	異種サーバー間でのデータ・アクセスを実現するためのデータベース・ドライバです。

JDEBASEデータベース・ミドルウェア	JD Edwards EnterpriseOne独自のデータベース・ミドルウェア・パッケージで、プラットフォームに依存しないAPIとクライアント/サーバー間のアクセスを提供します。
JDECallObject	ビジネス関数から他のビジネス関数を呼び出すためのAPIです。
jde.ini	JD Edwards EnterpriseOneの初期設定に必要なランタイム設定を提供するJD Edwards EnterpriseOneファイル(またはiSeries用のメンバー)です。JD Edwards EnterpriseOneを実行する各マシンごとに、ファイルまたはメンバーの特定バージョンを常駐させる必要があります。これには、ワークステーションとサーバーも含まれます。
JDEIPC	サーバーコードによって使用される通信プログラミング・ツールであり、マルチプロセス環境における同一データへのアクセス制御、プロセス間の通信と調整、新規プロセスの作成を行います。
jde.log	JD Edwards EnterpriseOneの主要な診断ログ・ファイルです。このファイルは常に主ドライブのルート・ディレクトリに置かれ、JD Edwards EnterpriseOneの起動以降の状況とエラー・メッセージが書き込まれます。
JDENET	JD Edwards EnterpriseOne独自の通信ミドルウェア・パッケージで、ピア・ツーピア、メッセージ・ベース、ソケット・ベースのマルチプロセス通信用のミドルウェア・ソリューションです。JD Edwards EnterpriseOneのすべてのサポート対象プラットフォームでクライアント/サーバー間、サーバー/サーバー間の通信を処理します。
JDeveloperプロジェクト	JDeveloperでソース・ファイルのカテゴリ化およびコンパイルに使用されるアーティファクトです。
JDeveloperワークスペース	JDeveloperでプロジェクト・ファイルの編成に使用されるアーティファクトです。1つ以上のプロジェクト・ファイルがここに配置されます。
JMSキュー	ポイントツーポイントのメッセージングに使用されるJavaメッセージング・サービス・キューです。
リスナー・サービス	HTTP経由でXMLメッセージをリスニングするリスナーです。
ローカル・リポジトリ	ビジネス・サービス・アーティファクトの格納に使用される、開発者のローカル開発環境です。
ローカルのスタンドアロンBPEL/ESBサーバー	アプリケーション・サーバーにインストールされていない、スタンドアロンBPEL/ESBサーバーです。
ロケーション・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、インストール・プランに定義されたすべてのロケーションを、プランナ・データ・ソースの保管場所マスターからシステム・データ・ソースにコピーするアプリケーションです。
ロジック・サーバー	アプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供する、分散ネットワーク内のサーバーです。典型的なコンフィギュレーションでは、プリスティン・オブジェクトがセントラル・サーバーからロジック・サーバーに複製されます。JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアの実行時に、ロジック・サーバーでは、ワークステーションと連動して、必要な処理が実際に実行されます。
差し込み印刷ワークベンチ	業務文書を自動的に印刷するため、Microsoft Word 6.0またはそれ以上のバージョンの文書とJD Edwards EnterpriseOneのレコードをマージするアプリケーションです。たとえば、雇用の証明に関する文書を印刷する際に、差し込み印刷ワークベンチを使用できます。
手動コミット・トランザクション	コミットがコールされるまで、すべてのデータベース操作によるデータベースへの書き込みが遅延されるデータベース接続です。
マスター・ビジネス関数(MBF)	データベース内の情報の追加、変更、更新を担う中心のロケーションとして機能する対話型のマスター・ファイルです。マスター・ビジネス関数によって、データ入力フォームと該当するテーブル間でのデータの交換が行われます。マスター関数によって、すべての必要なデフォルト値と編集ルールを含む関数の共通セット

	が、関連するプログラムに提供されます。MBFには、データベースの情報を追加、更新、削除する際の整合性を確保するロジックが含まれています。
マスター・テーブル	“パブリッシュ済テーブル”の説明を参照してください。
照合伝票	取引を完了または変更するために、当初伝票と関連付けられる伝票です。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、入金請求書の照合伝票に、支払が支払伝票の照合伝票になります。
メディア・ストレージ・オブジェクト	Gxxx、xxxGT、またはGTxxxのいずれかの命名規則を使用するファイルで、テーブルの形で分類されていないオブジェクトです。
メッセージ・センター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。
メッセージング・アダプタ	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneに接続し、メッセージ・キューを使用してデータの交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
メッセージング・サーバー	メッセージングAPIを使用して、他のプログラムで使用するために送信されたメッセージを処理するサーバーです。メッセージング・サーバーには、通常、関数を実行するためのミドルウェア・プログラムが配備されます。
中間層BPEL/ESBサーバー	アプリケーション・サーバーにインストールされたBPEL/ESBサーバーです。
監視アプリケーション	管理者が各種EnterpriseOneサーバーの統計情報を取得し、統計をリセットしたり通知を設定したりできる、EnterpriseOneのツールです。
ネームド・イベント・ルール (NER)	カプセル化された再利用可能なビジネス・ロジックです。C言語ではなく、イベント・ルールを使用して作成されます。NERは、ビジネス関数イベント・ルールとも呼ばれます。NERは、複数のプログラムによって、複数の場所で繰り返し使用できます。このようなモジュール方式での提供によって、コードの合理性や再利用性が高まり、必要な作業がより少なくなります。
Nota Fiscal	ブラジルでは、税務処理のためにすべての商取引についてこの書式を作成し、税法で指定された情報を含めることが義務付けられています。
Nota Fiscal Factura	ブラジルで使用する書式です。伝票情報を伴う“Nota Fiscal”です。 “Nota Fiscal”の説明も参照してください。
オブジェクト構成マネージャ (OCM)	JD Edwards EnterpriseOneでは、ランタイム環境で使用されるオブジェクトのリクエスト・ブローカーおよび制御センターとして機能します。OCMによって、ビジネス関数、データ、バッチ・アプリケーションのランタイム・ロケーションが追跡されます。これらのオブジェクトのいずれかが呼び出されると、OCMでは、指定された環境/ユーザーのデフォルト値と一時変更情報に基づいて、そのオブジェクトにアクセスするためのロケーションが特定されます。
オブジェクト・ライブラリアン	アプリケーションのビルドに繰り返し使用できるすべてのバージョン、アプリケーション、ビジネス関数のリポジトリです。オブジェクト・ライブラリアンによって、開発者にチェックアウト機能とチェックイン機能が提供されます。また、JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトの作成、変更、使用も管理されます。オブジェクト・ライブラリアンは、稼働環境や開発環境など複数の環境に対応しているため、異なる環境間でオブジェクトを簡単に移動できます。
オブジェクト・ライブラリアンのマージ	これまでのリリースでオブジェクト・ライブラリアンに加えられたすべての変更を、新規リリースのオブジェクト・ライブラリアンに統合する処理です。
オープン・データ・アクセス (ODA)	データの集計とレポート作成のために、SQLステートメントを使用してJD Edwards EnterpriseOneのデータを抽出できるインタオペラビリティ・モデルです。

出力ストリーム・アクセス (OSA)	JD Edwards EnterpriseOneのインターフェイスを設定し、別のソフトウェア・パッケージ (Microsoft Excelなど) にデータを渡して処理を実行するためのインタオペラビリティ・モデルです。
パッケージ	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトは、デプロイメント・サーバーからパッケージとしてワークステーションにインストールされます。パッケージには、部品表やキットなどのように、各ワークステーションに必要なオブジェクトが含まれます。さらに、デプロイメント・サーバー上でのオブジェクトの位置が示されるため、インストール・プログラムがそれらのオブジェクトを検出できるようになっています。パッケージは、ある時点におけるデプロイメント・サーバー上のセントラル・オブジェクトを示すスナップ・ショットでもあります。
パッケージ・ビルド	既存ユーザーに対し、ソフトウェアの変更や新規アプリケーションの反映を容易に行うためのソフトウェア・アプリケーションです。また、JD Edwards EnterpriseOneでは、パッケージ・ビルドとは、ソフトウェアのコンパイル済バージョンを指す場合もあります。たとえば、使用しているERPソフトウェアのバージョンをアップグレードする際に、“パッケージ・ビルド”を使用するという場合があります。 “パッケージ・ビルド”という用語は、たとえば次のようにも使用されます「また、パッケージ・ビルドの間に行われるビジネス関数のグローバル・ビルドには新しい関数が自動的に含まれるため、デプロイの準備ができるまでビジネス関数を本稼働パス・コードに含めないでください」。このように、パッケージ・ビルドを作成するプロセスが“パッケージ・ビルド”と呼ばれる場合もあります。
パッケージ・ロケーション	パッケージとその複製オブジェクトのセットが格納されるディレクトリ構造上の位置です。通常は、“¥¥デプロイメント・サーバー¥リリース¥パス・コード¥パッケージ¥パッケージ名”になります。このパスの下の子ディレクトリに、パッケージの複製オブジェクトが格納されます。パッケージがビルドまたは格納される場所を指す場合もあります。
パッケージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、パッケージ情報テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースに転送するアプリケーションです。処理の結果を反映するため、パッケージ・プラン詳細レコードも更新されます。
パスコード・ディレクトリ	EnterpriseOne開発アーティファクトを格納する、EnterpriseOne開発クライアント上にあるファイル・システムの特定の部分です。
パターン	ソフトウェアの設計でよく発生する問題に対し、繰り返して使用される一般的な解決策です。ビジネス・サービスの開発では、オブジェクトのリレーションシップとやり取りに重点が置かれます。オーケストレーションでは、統合パターン (同期/非同期のリクエスト/レスポンス、パブリッシュ、通知、受信/応答など) に重点が置かれます。
計画ファミリ	設計と製造に類似点があるため、まとめて計画する方が合理的である複数の最終品目をグループ化する手段です。
優先プロファイル	品目、品目グループ、顧客、および顧客グループについて、ユーザー定義の階層 (順序) に基づいて指定したフィールドのデフォルト値を定義する機能です。
プリント・サーバー	ネットワークとプリンタ間のインターフェイスであり、ネットワーク・クライアントはこのインターフェイスを介してプリンタに接続し、印刷ジョブを送信します。コンピュータ、独立したハードウェア・デバイス、またはプリンタ内部のハードウェアのどれでも、プリンタ・サーバーとして使用できます。
プリステイン環境	JD Edwards EnterpriseOneのデモ・データを使用した未変更オブジェクトのテストに使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。研修環境としても使用されます。変更したオブジェクトと変更前のオブジェクトを比較するには、この環境が必要になります。
処理オプション	バッチ・プログラムやレポートの実行を制御するパラメータをユーザーが指定するためのデータ構造です。たとえば、処理オプションを使用して、特定のフィールド

	<p>ドのデフォルト値の指定、情報の表示および印刷の方法、日付範囲の指定、プログラムの実行を制御するランタイム値の入力などを行います。</p>
本稼働用環境	<p>ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneソフトウェアを実際に使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。</p>
本稼働レベルのファイル・サーバー	<p>品質が保証され商品化されたファイル・サーバーで、通常はユーザーサポート・サービスとともに提供されます。</p>
本稼働公開ビジネス・サービスのWebサービス	<p>本稼働アプリケーション・サーバーにデプロイされた、公開ビジネス・サービスのWebサービスです。</p>
プログラム一時修正 (PTF)	<p>JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアに加えられた変更で、磁気テープやディスクの形式でユーザー企業に提供されます。</p>
プロジェクト	<p>JD Edwards EnterpriseOneでは、オブジェクト管理ワークベンチで開発されたオブジェクトのための仮想コンテナを指します。</p>
プロモーション・パス	<p>ワークフロー内におけるオブジェクトやプロジェクトの進捗状況を示すパスです。標準的なプロモーション・サイクル(パス)は次のとおりです。</p> <p>11>21>26>28>38>01</p> <p>このパスでは、11は検討待ちの新規プロジェクト、21はプログラミング、26は品質管理テスト/検討、28は品質管理テスト/検討の完了、38は本稼働、01はサイクルの完了をそれぞれ表します。たとえば標準的なプロジェクト・プロモーション・サイクルで、開発者は、開発(プログラミング)のパス・コードからチェックアウトしたオブジェクトをチェックインして戻したら、それらのオブジェクトをプロトタイプ(テスト)のパス・コードに進めます。すべての作業が終了したオブジェクトは、完了の前に本稼働のパス・コードに移されます。</p>
プロキシ・サーバー	<p>企業がセキュリティ管理、管理統制、サービスのキャッシュ化を確実に行うことができるように、ワークステーションとインターネットの間で防壁として機能するサーバーです。</p>
公開ビジネス・サービス	<p>EnterpriseOneのサービス・レベルのロジックおよびインターフェイスです。公開ビジネス・サービスに分類されている場合、外部(EnterpriseOne以外)のシステムに公開する意図があることを示しています。</p>
公開ビジネス・サービス識別情報	<p>関係のある承認レコードの特定に使用される、公開ビジネス・サービスに関する情報です。公開ビジネス・サービスとメソッド名、公開ビジネス・サービスのみ、または*ALLが使用されます。</p>
公開ビジネス・サービスのWebサービス	<p>J2EE Webサービスとしてパッケージされた、公開ビジネス・サービスのコンポーネント(つまり、ビジネス・サービス・クラス、ビジネス・サービス基盤、構成ファイルおよびWebサービス・アーティファクトを格納したJ2EE EARファイル)です。</p>
パブリッシュ済テーブル	<p>マスター・テーブルとも呼ばれ、他のマシンにレプリケートされる元のテーブルです。パブリッシュ・マシンに格納されるF98DRPUBテーブルにより、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュが識別されます。</p>
パブリッシュ	<p>パブリッシュされたテーブルを扱うサーバーです。F98DRPUBテーブルでは、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュの識別が行われます。</p>
プル・レプリケーション	<p>JD Edwards EnterpriseOneでデータを個別のワークステーションにレプリケートする方法の1つです。レプリケート先のマシンは、JD Edwards EnterpriseOneのデータ・レプリケーション・ツールを使用して、プル・サブスクライバとしてセットアップされます。プル・サブスクライバが情報を要求した場合にのみ、変更、更新、削除が通知されます。通常は起動時に、プル・サブスクライバからF98DRPCNテーブルが置かれているサーバーに対し、要求がメッセージ形式で送信されます。</p>

QBE	Query by Example (例示照会) の略語です。JD Edwards EnterpriseOne では、QBE 行は、詳細グリッドの最上段にあり、データのフィルタリングに使用されます。
リアルタイム・イベント	外部システムで使用するために EnterpriseOne のアプリケーション・ロジックからトリガーされるメッセージです。
リフレッシュ	新規リリースや PTF/累積アップデート・リリース (B73.2 や B73.2.1 など) に問題なく対応できるように、JD Edwards EnterpriseOne ソフトウェアまたはそのサブセット (テーブルや業務データなど) を修正する機能です。
レプリケーション・サーバー	クライアント・マシンへのセントラル・オブジェクトのレプリケーションを扱うサーバーです。
Rt-Addressing	ビジネス・サービス呼出しリクエストのホスト/ポート・ユーザー・セッションを開始するブラウザ・セッションを特定する一意のデータです。
規則	ツールによって強制されるのではなく、目的の結果を得るため、および指定された標準に準拠するために従う必須のガイドラインです。
見積オーダー	JD Edwards EnterpriseOne 調達管理および外注管理では、仕入先からの品目情報と価格情報のリクエストを指します。見積オーダーから購買オーダーを作成できます。 JD Edwards EnterpriseOne 受注管理では、まだ発注を行っていない顧客に対する品目情報と価格情報を指します。
Secure by Default	特定のレコードによってユーザーがオブジェクトの実行権限を持つことが示されないかぎり、ユーザーがオブジェクトの実行権限を持たないとみなすセキュリティ・モデルです。
SSL (Secure Socket Layer)	通信の機密性を提供するセキュリティ・プロトコルです。SSL を使用することで、クライアントとサーバー・アプリケーションは、盗聴、改ざん、なりすましを防ぐように設計された方法で通信できます。
SEI 実装	サービス・エンドポイント・インターフェイス (SEI) を宣言するメソッドを実装する Java クラスです。
選択項目	JD Edwards EnterpriseOne メニューに表示される選択項目は、メニューからアクセスできる各機能を表します。選択するには、関連する番号を選択フィールドに入力して [Enter] キーを押します。
シリアルライズ	オブジェクトやデータを、格納用の形式またはネットワーク接続リンク上で送受信できる形式に変換し、必要なときに元のデータやオブジェクトを再作成できるプロセスです。
サーバーワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、サーバー設定ファイルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、サーバープラン詳細レコードも更新されます。
サービス・エンドポイント・インターフェイス (SEI)	クライアントからのサービスの呼出しを可能にするメソッドを宣言する Java インターフェイスです。
SOA	Service Oriented Architecture の略語です。
ソフトコーディング	指定されたプロセスの実行に影響するサイト固有の変数を管理者が操作できるコーディング技術です。
ソース・リポジトリ	HTTP アダプタおよびリスナー・サービス開発環境アーティファクト用のリポジトリです。
スポット・レート	取引レベルで入力される為替レートです。このレートは、2 つの通貨の間に設定されている為替レートより優先して使用されます。

スペックのマージ	オブジェクト・ライブラリアン、バージョン・リスト、およびセントラル・オブジェクトの3つのマージで構成されるマージ処理です。この機能を使用して、顧客が変更したデータを新規リリースのデータに統合できます。
スペック	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトを完全に記述したものです。各オブジェクトには、アプリケーションのビルドに使用される固有のスペックまたは名前があります。
スペック・テーブル・マージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、スペック・テーブルを更新するためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。
SSL証明書	ユーザー名およびそのユーザーの公開鍵が記載された、認証局が署名した特別なメッセージです。メッセージが認証局によって正規に署名されたことを誰もが確認でき、そのためユーザーの公開鍵に対する信用が強化されます。
オフライン処理	サーバーに接続していないユーザーがトランザクションを入力し、後でサーバーに接続して、入力したトランザクションをアップロードできる処理モードです。
サブスクリイバ・テーブル	F98DRSUBテーブルを指します。このテーブルは、F98DRPUBテーブルとともにパブリッシャ・サーバーに置かれ、各パブリッシュ済テーブルに対するすべてのサブスクリイバ・マシンの識別に使用されます。
スーパークラス	クラスは何かのインスタンスであり、それをさらに詳細にしたものであるという、Java言語の継承についての概念です。たとえば、木は樅や榎のスーパークラスであるといえます。
補足データ	<p>マスター・テーブルで管理されないすべての情報を指します。通常、補足データとして、従業員、応募者、購買要求、職務(従業員の技能、取得学位、語学力など)に関する情報があります。補足データを使用することにより、実質的に組織で必要となるすべての情報を追跡管理できます。</p> <p>たとえば、標準のマスター・テーブル(住所録マスター、顧客マスター、仕入先マスター)とは別に、それらのテーブルでは管理されない情報を汎用データベースで管理します。汎用データベースを使用することで、JD Edwards EnterpriseOneシステム全体にわたって、標準的な方法で補足データの入力と管理を行うことができます。</p>
テーブル・アクセス管理(TAM)	ユーザー定義データの保存と取得を行うJD Edwards EnterpriseOneコンポーネントです。TAMには、データ辞書定義、アプリケーション/レポートのスペック、イベント・ルール、テーブル定義、ビジネス関数入力パラメータ、ライブラリ情報などの情報と、アプリケーション、レポート、ビジネス関数を実行するためのデータ構造体の定義が保存されます。
テーブル変換ディレクタ	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル変換	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル・イベント・ルール	データベース・トリガーに添付されるロジックで、トリガーに指定されたアクションがテーブルに対して発生した場合に起動します。JD Edwards EnterpriseOneでは、イベント・ルールをアプリケーションのイベントに添付できますが、この機能はアプリケーション固有になります。テーブル・イベント・ルールでは、テーブル・レベルで埋込みロジックを提供します。
ターミナル・サーバー	このサーバーを使用して、端末、マイクロコンピュータ、その他の機器を、ネットワーク/ホスト・コンピュータ、または特定のコンピュータに取り付けられたデバイスに接続できます。
3ステップ処理	JD Edwards EnterpriseOneでのバッチ・トランザクションの入力、検討と承認、転記、という3種類のタスクを指します。

3方向伝票照合	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、仕入先からの請求書と入荷情報を比較して伝票を作成するプロセスです。3方向照合では、入荷レコードに基づいて伝票を作成します。
トランザクション処理 (TP) モニター	ローカル端末およびリモート端末と、それらを設定したアプリケーションの間でのデータ交換を制御するモニター機能です。また、分散環境でのデータの整合性も確認します。TPモニターには、通常、データの検証と端末画面のフォーマットを行うプログラムが含まれます。
トランザクション処理方法	手動コミットのトランザクション境界の管理に関する方法です (開始、コミット、ロールバック、取消など)。
トランザクション・セット	複数のセグメントで構成されている電子的業務トランザクション (電子データ交換の標準ドキュメント) です。
トリガー	データ辞書項目ごとに定義される複数のイベントの1つです。イベントの発生時にシステム内で自動的に処理されるロジックをデータ辞書項目に添付できます。
トリガーイベント	特殊なアクションが必須であるか、または結果アクションが定義済の特定のワークフロー・イベントです。
2方向認証	クライアントとサーバーがSSL証明書を互いに提供することで相互に認証しあう認証メカニズムです。
2方向伝票照合	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、購買オーダーの明細行と仕入先の請求書を比較して伝票を作成するプロセスです。入荷情報は記録されません。
ユーザー識別情報	ユーザーID、ロールまたは*publicです。
ユーザー一時変更のマージ	新規のユーザー一時変更レコードを、顧客が使用しているユーザー一時変更テーブルに追加する処理です。
値オブジェクト	データ構造がデータを渡すのと同様に入力/出力データを保持するソース・ファイルの特定のタイプです。値オブジェクトは、公開 (公開ビジネス・サービスで使用) か内部か、および入力か出力かを指定できます。値オブジェクトは、単純な要素および複雑な要素と、要素に対する付属情報から構成されます。
差異	JD Edwards EnterpriseOneキャピタル・アセット・マネジメントでは、1つの設備で発生した収益と、その設備に関連して発生した費用の差を意味します。 JD Edwards EnterpriseOneプロジェクト原価管理とJD Edwards EnterpriseOne製造管理では、同じ品目に対する2つの原価計算方式の間に生じる差異を意味します。たとえば、凍結標準原価と現行原価の差として設計差異が生じます。凍結標準原価は原価要素テーブルから取得され、現行原価は資材、工程、間接費の各レートを使用して計算されます。
公開ビジネス・サービスのバージョン	既存の機能/インターフェイスを変更せずに、他の機能/インターフェイスを公開ビジネス・サービスに追加することです。
バージョン・リストのマージ	バージョン・リストのマージを実行すると、新規リリースで有効なオブジェクトについて、非XJDEおよび非ZJDEバージョンのスペックとその処理オプション・データが維持されます。
ビジュアル・アシスト	ユーザーが各コントロールに属する有効なデータを判別できるように、コントロールからトリガーを介して起動できるフォームです。
用語一時変更	特定のJD Edwards EnterpriseOneフォームやレポートに表示される、データ辞書項目の代替的なラベルです。
wchar_t	ワイド文字の内部タイプです。国際市場向けの移植可能プログラムの記述に使用します。

Webアプリケーション・サーバー	Webアプリケーションと、電子商取引に使用されているバックエンド・システムおよびデータベースとの間で、データ交換を可能にするWebサーバーです。
Webサーバー	ブラウザから送信されたリクエストに応じて、TCP/IPプロトコルを使用して情報を送信するサーバーです。Webサーバーでは、ブラウザからのリクエストに応じるだけでなく、アプリケーションやデータの格納など、通常のサーバーが行うあらゆるタスクを処理できます。どのコンピュータでも、サーバーソフトウェアをインストールし、インターネットに接続すれば、Webサーバーとして使用できます。
WSDL (Web Service Description Language)	ネットワーク・サービスを記述するXML形式です。
WSIL (Web Service Inspection Language)	使用可能なサービスのサイトの検出を支援するXML形式、および検出に関連する情報の作成方法を示す一連の規則です。
Webサービス・プロキシ基盤	WAS上でWebサービスを使用するためにビジネス・サービス・サーバー・アーティファクトに含める必要のある、Webサービス・プロキシの基盤となるクラスです。
Webサービス・ソフトコーディング・レコード	Webサービス・プロキシの構成に使用する値が記述されたXMLドキュメントです。このドキュメントは、エンドポイントを特定し、条件付きでセキュリティ情報を含みます。
Webサービス・ソフトコーディング・テンプレート	ソフトコーディングされたレコードの構造を提供するXMLドキュメントです。
WHERE句	データベース操作の対象となるレコードを指定する、データベース操作の一部です。
Windowsターミナル・サーバー	マルチ・ユーザー機能を持つサーバーで、単体ではWindowsソフトウェアを実行できない端末や最小限構成のコンピュータでも、このサーバーに接続することにより、Windowsアプリケーションを使用できます。すべてのクライアント処理は、Windowsターミナル・サーバーで集中的に実行されます。画面表示、キー入力、およびマウス操作のコマンドのみが、ネットワーク経由でクライアントの端末機器とターミナル・サーバー間で転送されます。
ウィザード	JDeveloperの拡張機能の1つで、一連のステップを順を追って説明します。
ワークベンチ	関連のあるプログラムのグループに対して、1つのエントリ・ポイントからアクセスすることを可能にするプログラムです。通常、ワークベンチからアクセスするプログラムは、大規模な業務プロセスに使用されています。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne給与計算サイクル・ワークベンチ (P07210) を使用して、給与の計算、支給レポートの印刷、給与レポートの作成、仕訳入力の作成、給与履歴の更新に使用されるすべてのプログラムにアクセスできます。JD Edwards EnterpriseOneには、サービス管理ワークベンチ (P90CD020)、ライン・スケジューリング・ワークベンチ (P3153)、計画ワークベンチ (P13700)、監査人ワークベンチ (P09E115)、給与計算サイクル・ワークベンチなどが用意されています。
作業日カレンダー	JD Edwards EnterpriseOne製造管理で、計画の作成に使用されるカレンダーです。このカレンダーには作業日のみが列挙されるので、実際に稼働可能な日数に基づいて構成と作業オーダーのスケジュールを設定できます。作業日カレンダーは、計画カレンダー、製造カレンダー、または製造現場カレンダーと呼ばれる場合もあります。
ワークフロー	ビジネス・プロセスの一部または全体の自動化を意味します。自動化されたプロセス (ワークフロー) では、ドキュメント、情報、タスクが、指定された手順に従ってユーザーからユーザーへ渡されます。
ワークグループ・サーバー	マスター・ネットワーク・サーバーからレプリケートされたデータのサブセットが通常置かれるサーバーです。ワークグループ・サーバーでは、アプリケーションやバッチ処理は実行されません。
XAPIイベント	システム・コールを使用してJD Edwards EnterpriseOneのトランザクションを発生時に取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求した

	サード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムを呼び出すサービスです。
XML CallObject	ビジネス関数の呼び出しを行うためのインタオペラビリティ機能です。
XMLディスパッチ	JD Edwards EnterpriseOneで応答として受信するすべてのXMLドキュメントに対して、単一のエントリ・ポイントを提供するインタオペラビリティ機能です。
XMLリスト	JD Edwards EnterpriseOneデータベース情報を、チャンク単位でリクエストおよび受信することを可能にするインタオペラビリティ機能です。
XMLサービス	JD Edwards EnterpriseOneシステムからイベントをリクエストし、別のJD Edwards EnterpriseOneシステムから応答を受信するためのインタオペラビリティ機能です。
XMLトランザクション	事前に定義されたトランザクション・タイプを使用して、JD Edwards EnterpriseOneにデータをリクエストしたり、JD Edwards EnterpriseOneからデータを受信するためのインタオペラビリティ機能です。XMLトランザクションでは、インターフェイス・テーブル機能が使用されます。
XMLトランザクション・サービス (XTS)	JD Edwards EnterpriseOneのフォーマットではないXMLドキュメントを、JD Edwards EnterpriseOneで処理可能なフォーマットに変換するサービスです。変換されたドキュメントに対する応答は、発信元(変換前)のXMLフォーマットに変換されます。
Zイベント	インターフェイス・テーブル機能を使用してJD Edwards EnterpriseOneトランザクションを取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求したサード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムに通知するサービスです。
Zテーブル	JD Edwards EnterpriseOne以外のデータを保存し、JD Edwards EnterpriseOne用に変換できるワークテーブルです。JD Edwards EnterpriseOneデータの取得にもZテーブルを使用できます。Zテーブルはインターフェイス・テーブルとも呼ばれます。
Zトランザクション	JD Edwards EnterpriseOneデータベースで更新できるよう、インターフェイス・テーブルで正しくフォーマットされたサード・パーティのデータです。

索引

Blend Management 3, 13
Customer Connection Webサイト xii
「EnterpriseOneシステム制御 - 改訂」
フォーム 10
F37011テーブル 13
F37012テーブル 13
F3701テーブル 7
F37021テーブル 7
F3702テーブル 7
F3703テーブル 7, 49
F3711Z1テーブル 7
F3711テーブル 7
F37900テーブル 7
F40318Rテーブル 7
F40318テーブル 7
P03013プログラム 39
P31114プログラム 42, 44, 47
P311221プログラム 42, 44
P31123プログラム 42
P3119プログラム 44
P37011プログラム 13
P37013プログラム 13
P3701プログラム
処理オプション 14
用途 34
P3702プログラム
処理オプション 24
用途 34
P37111Wプログラム 52
P3711プログラム
処理オプション 54
用途 57
P37201プログラム 61
P37202プログラム 37
P37203プログラム 63
P40318プログラム
承認プロセス 34
処理オプション 29
用途 30
P4205プログラム 42, 44
P4312プログラム 42, 44
P43250プログラム 42, 44
PeopleCodeの表記規則 xiv
R31410プログラム 42
R37410レポート

処理オプション 70
用途 70
R37415レポート
処理オプション 71
用途 70
R37420レポート
処理オプション 72
用途 70
R37470レポート
処理オプション 73
用途 70, 73
R37900レポート
処理オプション 73
用途 70, 73
R37901レポート
処理オプション 76
用途 70, 75

あ

アプリケーションの基礎 xi

お

オーダー処理プログラム(R31410) 42
オーダー番号フォーマット 43

か

改訂
却下 34
承認 34
改訂レベル 34
外部の試験結果
試験結果のバッチ処理プログラム
(R3711Z11) 58
ラボラトリ情報管理システム
(LIMS) 58
価格管理 13
完了ワークベンチ・プログラム
(P3119) 44
関連ドキュメンテーション xii

き

共通フィールド xvi, xix

く

組込規則

- 試験結果のトレース 37
 - 設定 37
- グローバル手順 3
- け
 - 警告 xv
 - 結果を入力する試験 45
- こ
 - ご意見 xvi
 - 合格ロット 43
 - 顧客請求指示 38
 - 「顧客マスターの改訂」フォーム 39
 - 「顧客マスターの処理」フォーム 39
 - ご要望 xvi
 - コンパートメント番号フォーマット 43
- さ
 - 在庫管理 2
 - 再試験 53
 - 再試験用のサンプル 53
 - 「作業オーダー完了の詳細」フォーム 47
 - 作業オーダー完了プログラム
 - (P31114) 42, 44
 - 作業オーダー時間入力プログラム
 - (P311221) 42, 44
 - サンプル 52
 - サンプルの数
 - 初回試験に対する変更 53
 - 表示 53
 - サンプルの自動採番 44
 - サード・パーティによる試験結果 58
- し
 - 事業所固定情報 10
 - 「事業所固定情報」フォーム 11
 - 試験
 - 結果入力での選択 45
 - 定義 12
 - 試験結果
 - 印刷 75
 - オーダー番号フォーマット 43
 - 外部 58
 - 業務上の必要 57
 - コンパートメント番号フォーマット 43
 - サンプルの自動採番 44
 - 試験結果の検討 58
 - 試験結果の処理 41
 - 試験の選択 45
 - 試験の評価 48
 - 受注オーダー入力プログラム
 - (P4210) 58
 - 処理 41, 42
 - 処理する機能 41
 - テキストの入力 51
 - トレース 61
 - 入力 48
 - 入力フォーマット 42
 - 任意の書式での入力 43
 - 品目番号と試験IDによる検索 60
 - 不合格 49
 - 優先情報フォーマット 43
 - 優先プロファイルによる検討 63
 - 理解 48
 - ロット番号による検討 58
 - ロット・マスターの改訂 58
 - 「試験結果照会」フォーム 59
 - 試験結果テーブル(F3711) 7
 - 「試験結果トレースの処理」フォーム 61
 - 「試験結果の改訂」フォーム 50, 57
 - 試験結果の処理 41
 - 「試験結果の処理」フォーム 47
 - 試験結果のトレース 37, 61
 - 試験結果のトレース・プログラム
 - (P37201) 61
 - 試験結果の入力 42
 - 試験結果の入力プログラム(P3711)
 - 処理オプション 54
 - 用途 57
 - 試験結果未編集トランザクション・テーブル(F3711Z1) 7
 - 試験結果名 13
 - 「試験結果名の改訂」フォーム 21
 - 試験結果ワークシート・レポート(R37470)
 - 処理オプション 73
 - 用途 70, 73
 - 「試験結果ワークベンチの詳細」フォーム 63
 - 試験/仕様 37
 - 試験状況
 - 改訂 51
 - 変更 49, 51
 - 「試験状況の改訂」フォーム 52
 - 試験/仕様の使途先プログラム
 - (P37202) 37
 - 試験、仕様、優先情報の改訂 35
 - 試験済ロット 63
 - 「試験済みロット検索」フォーム 60
 - 「試験設備の改訂」フォーム 13

「試験定義の処理」フォーム 12
 試験定義の追加 15
 「試験定義の編集」フォーム 15, 35
 試験定義マスター(F3701) 7
 試験定義レポート(R37410)
 処理オプション 70
 用途 70
 試験の改訂 34
 試験の改訂プログラム(P3701)
 処理オプション 14
 用途 34
 試験の変更 51
 システム概要 1
 システム設定 9
 システムの統合 44
 従業員ワーク・センター 35
 受注オーダー入力 58
 受注管理 3
 出荷確認プログラム(P4205) 42, 44
 仕様
 概要 24
 定義 24
 分割 27, 33
 仕様/試験 37
 仕様詳細テーブル(F37021) 7
 仕様定義マスター(F3702) 7
 承認プロセス 34
 仕様の改訂 34
 「仕様の改訂」フォーム 25
 仕様の改訂プログラム(P3702)
 処理オプション 24
 用途 34
 情報の確認 6
 「消耗品の改訂」フォーム 13
 仕様レポート(R37415)
 処理オプション 71
 用途 70
 「新規サンプル」オプション 53

す

スーパー・バックフラッシュ・プログラム
 (P31123) 42

せ

製造現場管理 2
 製品ガイド
 注文 xii
 製品概要 1
 製品試験レポート(R37901)

処理オプション 76
 用途 70, 75
 前提知識 xi

そ

相互参照 xv

ち

注意 xv
 注意事項 xv
 調達管理 2

つ

追加サンプル 52
 再試験 53
 作成 53
 追加ドキュメンテーション xii

て

テーブル 7

と

統合
 Blend Management 3
 在庫管理 2
 受注管理 3
 製造現場管理 2
 調達管理 2
 導入手順
 グローバル 3
 品質管理 4
 ドキュメンテーション
 関連 xii
 最新版 xii
 ダウンロード xii
 ドキュメンテーションのダウンロード xii

に

入荷確認プログラム(P4312) 42, 44
 入荷工程の移動/処分プログラム
 (P43250) 42, 44
 任意の書式での入力 43

は

バルク積荷確認 49
 汎用テキスト 6

ひ

表記規則 xiv

表示基準 32
「表示基準」フォーム 32
標準ワークフロー 65
品質管理
試験 5
試験結果 6
システム概要 1
仕様 5
製品固有の導入手順 4
設定 9
テーブル 7
特徴 5
汎用テキスト 6
有効化 10
優先プロファイル 5
理解 5
レポート 69
「品質管理承認ワークベンチ」フォーム 36
品質管理の有効化 10
「品質管理優先情報の改訂」フォーム 30, 33
品質管理優先情報の改訂プログラム (P40318)
承認プロセス 34
処理オプション 29
用途 30
品質管理優先マスター・レコード 30
品目試験仕様レポート(R37420)
処理オプション 72
用途 70
品目番号 60

ふ

不合格材料テーブル(F3703) 7, 49
「不合格試験結果の改訂」フォーム 62
不合格の試験結果 49
不合格レコード 49
不合格ロット 43, 61
不合格ロットの管理 62
分析証明書 38
分析証明書(COA)抽出テーブル (F37900) 7
分析証明書抽出レポート(R37900)
処理オプション 73
用途 70, 73

ゆ

優先情報処理元帳 - 品質管理テーブル(F40318R) 7
優先情報の改訂 34
優先情報フォーマット
試験結果 43
優先プロファイル
試験済ロットの検討 63
設定 26
優先プロファイルによる試験済ロット 63
優先プロファイル - 品質管理テーブル (F40318) 7
「優先マスターの処理」フォーム 30
ユーザー定義コード 23

れ

連絡先情報 xvi

ろ

ロット
不合格ロットの管理 61
優先プロファイルによる試験済ロットの検討 63
ロット状況
合格ロットと不合格ロット 43
処理オプションの設定 43
ロットの在庫状況 58
ロット番号 58
ロット番号による試験結果 58

わ

ワークフロー
試験定義承認 65, 66
仕様定義承認 66
説明 65
品質管理優先情報承認 66
ワークフロー承認プロセス 34